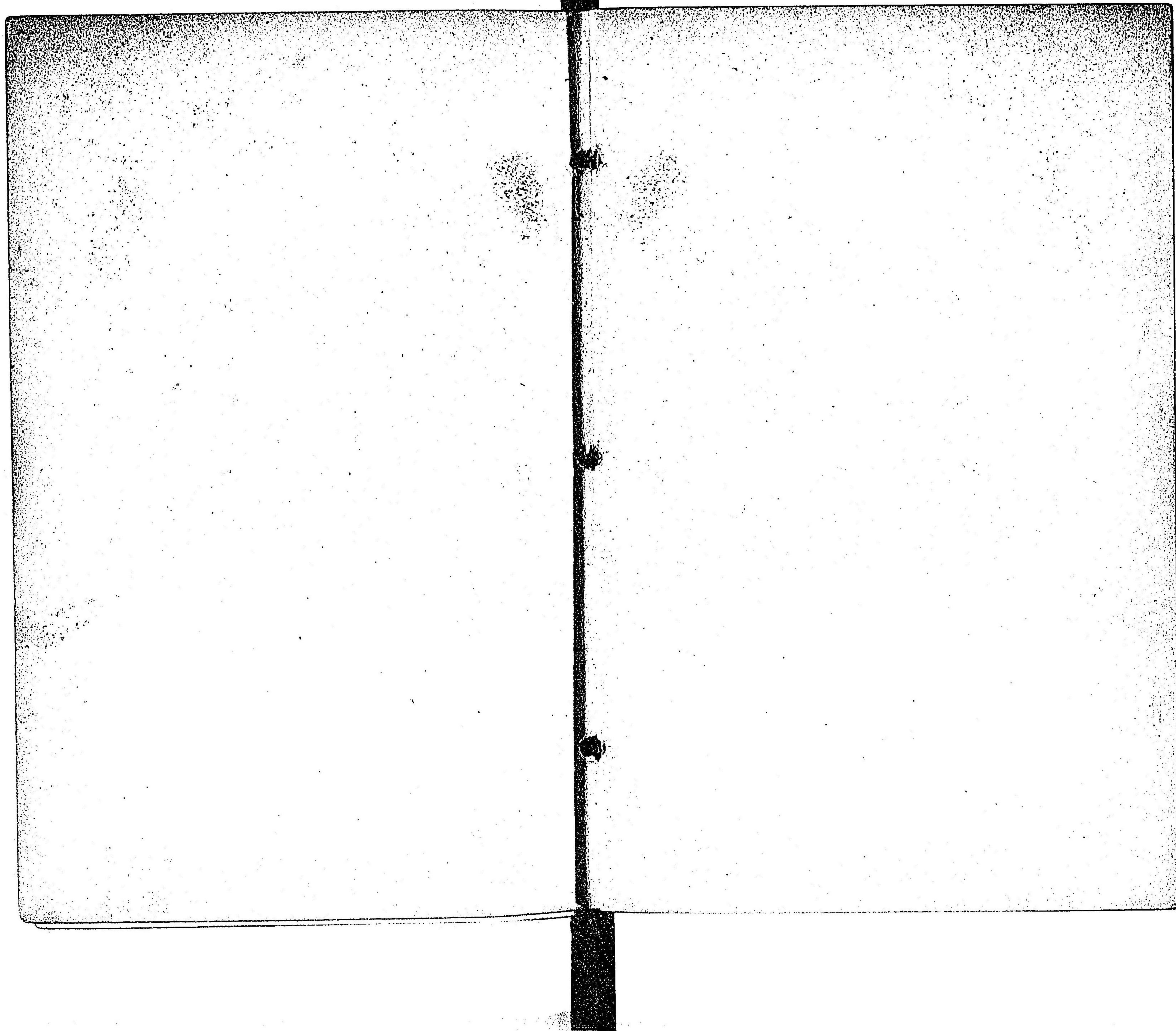


4

改正刑訟釋義 上卷

5
6
7
8





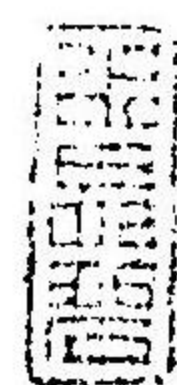
90-244

改正刑
法釋義
上卷

東京西東書房發行

明治
40 11 12
丙午

况



白

骨
原

丁未秋日
正久題



序

本邦從來ノ刑律各範ヲ取ル所アリ新律綱領ハ清律ヨリ出テ現
行刑法ハ佛國刑法ヨリ出テタリ故ニ清律ヲ解スル所資ヲ以テ
新律綱領ヲ解ス可キ者多ク佛國刑法ヲ解スル所資ヲ以テ現行
刑法ヲ解ス可キ者多シ法ヲ學フ者清律及ヒ佛國刑法ヲ稱シテ
母法ト謂ヒ其註釋ヲ以テ斯學ノ津梁ト爲セリ改正刑法ニ至テ
ハ則チ然ラス博ク東西ノ成法及ヒ學說ヲ參酌シテ而シテ一國
ノ法ニ偏セス故ニ所謂母法ナル者ナク法ヲ學フ者太々病ム田
中君正身職ヲ司法省ニ奉シ明治二十六年刑法改正審査委員會
ノ書記ト爲リシヨリ以來十有餘年常ニ讐校繕寫等ヲ掌リ頗ル
刑法ノ義ニ通ス頃口改正刑法釋義ヲ著シ將サニ諸ヲ世ニ公ニ

セントス法ヲ學フ者之ニ由テ以テ其向フ所ヲ定メハ則チ庶幾
クハ望洋ノ歎ナキヲ得ン

明治四十年九月

倉富勇三郎序ス

緒言

輓近世態ノ傾向ヲ洞察スルニ文物制度日ニ月ニ改良進歩ノ途ニ就キ社會ノ事物
ハ漸ヲ逐フテ向上ノ域ニ發展セントス殊ニ法律事業ヲ以テ其顯著ナルモノトス
回顧スレハ舊刑法ハ明治十三年ノ制定ニ係リ爾來星霜ヲ閱スル茲ニ二十有八年
其間社會ノ變遷ハ實ニ測知スヘカラサルモノアリ殊ニ國交ノ親厚ハ昔日ニ倍蓰
シ從テ我邦人ノ海外ニ在留スル者其數少シトセス明治三十二年條約ノ改正ニ依
リ法權ヲ我ニ收メテヨリ海外在留ノ邦民ニ對スル取締ニ關スル規定竝ニ國交ニ
關スル規定ノ如キハ一日モ之ヲ忽ニスルコトヲ得サルモノアリ這般ノ事情ハ著
シク刑法ノ規定ニ影響シ從テ曩時有要ノ事物ニシテ今日既ニ陳腐ニ屬スルモノ
アツ又曩昔必要トセサリシモノ今日之ヲ再興スルノ須要ナルモノアリ且一般學
術ノ進歩ニ依リ社會ニ創生セル新事物ノ如キハ從來立法家ノ夢想タニセサルモ
ノ多キヲ占ム此時ニ際テ刑法ノ條項上不備又ハ不當ト爲ルノ結果ヲ生スルハ蓋
シ勢ノ免レサル所ナリ抑モ法律ハ國民ノ意嚮ヲ充タシ公共ノ必要ニ應スヘキモ

ノタルハ論ヲ俟タス刑法ノ改正亦已ムヲ得サルニ出ツ仄ニ聞ク政府夙ニ茲ニ見
ル所アリ明治十五年中既ニ改正ニ著手セラレタルモ機熟セス明治二十一年時ノ
法曹中學術經驗優ニ一代ニ秀テタル者ヲ簡擇セラレ當時學者ノ批議ヲ容レ又ハ
執法家ノ應用ニ苦ム點ニ付キ研饑スル所アリ傍ラ歐米各國ノ法律ニ參酌シ夙夜
匪勉遂ニ一ノ改正案ヲ完結セラレ明治二十三年之ヲ第一回帝國議會衆議院ニ提
出セラレシモ遂ニ議了ニ至ラス明治二十五年司法省内ニ刑法審査會ヲ開カレ更
ニ改正案ノ審議ニ著手シ明治二十八年ニ至テ完成シ廣ク朝野法曹ノ意見ヲ徵セ
ラレタル末當時著名ノ法曹大家ヲ以テ組成セラレタル法典調查會ハ就中刑法專
門家ヲ以テ名聲噴々タル學者先輩ヲ起草委員トシ慎重ノ審査ヲ經タル改正案ヲ
産出スルニ至リ之ヲ第十五回帝國議會貴族院ニ提出セラレタルモ開期切迫遂ニ
議了ニ至ラス越テ翌年更ニ第十六回帝國議會貴族院ニ提出セラレ同院ヲ通過シ
衆議院ニ回付セラレシモ遂ニ議了ニ至ラス其翌第十七回帝國議會貴族院ニ提出
セラレシモ衆議院ノ解散ニ遭遇シ第一回ノ特別委員會ヲモ開カルコトナクシ
テ畢ヌ這般現内閣ハ更ニ法案ヲ定メ初メ之ヲ貴族院ニ提出セラレ同院ニ於テ一

二ノ修正ヲ加ヘタル後之ヲ衆議院ニ回付シ同院ニ於テモ多少ノ修正ヲ加ヘ更ニ
兩院協議會ニ於テ成案ヲ作り兩院共ニ滿場一致ヲ以テ協議案ヲ可決セラレ茲ニ
本法ノ成立ヲ見ルニ至レリ

如上ノ經過ヲ以テ本法ハ成立シタルモノナルヲ以テ本書ニ於テハ議會提出ノ順
序ニ依リ各法案ノ沿革ヲ知ルコトノ必要ヲ感シ次ニ參照法律次ニ疑問及ヒ説明
次ニ異説及ヒ之ニ對スル説明ヲ掲ケ以テ新法研究ノ資料ニ供セムコトヲ期セリ

凡例

一 本書ハ改正刑法ノ各條文ニ付キ立法ノ沿革及ヒ法文ノ眞意義竝ニ參照ノ基礎ト爲リタル外國ノ法制竝本邦古代ノ法制ヲ併セ知ランコトヲ目的トス故ニ間々學說ヲ加ヘタル所ナキニアラスト雖モ唯須要ノ點ニ止マリ他ニ學人ノ一家言ヲ加ヘタル所ナシ

二 本書編纂ノ方法ハ之ヲ分テ六ト爲ス 第一沿革 第二參照法律 第三釋義 第四疑問及ヒ說明 第五異說 第六異說ニ對スル說明トス
第一 沿革 本項中 第一案ト稱スルハ 第一回帝國議會提出案 第二案ト稱スルハ 第十五回帝國議會提出案 第三案ト稱スルハ 第十六回帝國議會提出案 第四案ト稱スルハ 第十七回帝國議會提出案ヲ云フ
第二 參照法律 本項ニハ歐米各國ノ刑法典及ヒ草案竝ニ本邦ノ法制ヲ各條ノ意義ニ對照シ之ヲ各適條下ニ排列ス
第三 釋義 本項ハ各條立法ノ趣旨及ヒ法文ノ意義ヲ釋明スルコトヲ目的トス

凡例

第四 疑問及ヒ説明 本項ニハ主要ナル疑問及ヒ之ニ對スル説明ヲ掲ク

第五 異說 本項ニハ主要ナル反對說ヲ掲ク

第六 異說ニ對スル説明 本項ニハ主要ナル反對說ニシテ本法各條ノ意義ニ關シ法文ノ趣旨ヲ釋明セサルヘカラサルモノニ限リ説明ヲ付ス

改正刑法釋義目次

第一編 總則

第一章	法例	自第一條至第八條	一頁
第二章	刑	自第九條至第二十一條	四六
第三章	期間計算	自第二十二條至第二十四條	二二四
第四章	刑ノ執行猶豫	自第二十五條至第二十七條	二四一
第五章	假出獄	自第二十八條至第三十條	三二七
第六章	時效	自第三十一條至第三十四條	三四八
第七章	犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免	自第三十五條至第四十二條	三九八
第八章	未遂罪	自第四十三條至第四十四條	五三四
第九章	併合罪	自第四十五條至第五十五條	五七六

目次

第十章	累犯	自第五十六條 至第五十九條	六二八
第十一章	共犯	自第六十五條 至第六十條	六六八
第十二章	酌量減輕	自第六十六條 至第六十七條	七二三
第十三章	加減例	自第六十八條 至七十二條	七二六

改正刑法釋義

第一編	總則
第一章	沿革
第二章	第一編
第三章	同上
第四章	同上

第二章 釋義 本編ハ各般ノ罪ニ共通スル規定ヲ網羅シ特殊ノ法令ヲ除ク外刑
 事法ノ全般ニ通シテ處罰ノ原則ヲ掲記シタルモノナリ其編次ハ第一章法例
 第二章刑第三章期間計算第四章刑ノ執行猶豫第五章假出獄第六章時効第七

刑法釋義 第一編 總則

章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免第八章未遂罪第九章併合罪第十章累犯第十一
章共犯第十二章酌量減輕第十三章加減例ニシテ其舊刑法ト異ナル點ヲ舉ク
レハ編制ニ於テ章節ニ分ツノ法制ヲ廢止シ單ニ章ノミニ分類スルノ制度ヲ
採用シ舊刑法第二章第一節刑名ヲ第二章刑ト改題シ第五節刑期計算ヲ第三
章トシ期間計算ハ改題シテ刑期及ヒ時効期間ノ計算ニ其適用ヲ有セシメ新
ニ採用シタル刑ノ執行猶豫ニ關スル規定ヲ總括シテ第四章ト爲シ第二章第
六節假出獄ニ關スル規定ヲ第五章ト爲シ第二章第七節期滿免除ヲ時効ト改
題シテ現時ノ法語ニ一致セシメ以テ第六章ト爲シ第二章第八節復權ニ關ス
ル規定ハ之ヲ刪除セリ是レ復權ハ憲法上ノ大權事項ニ屬シ之ヲ刑法典ニ編
入スルハ妥當ナラサルヲ以テナルヘシ第四章不論罪及ヒ減輕第九章未遂犯
罪第七章數罪俱發第五章再犯加重及ヒ第八章數人共犯ヲ第七章犯罪ノ不成
立及ヒ刑ノ減免第八章未遂罪第九章併合罪第十章累犯及ヒ第十一章共犯ト
爲シ第四章第三節酌量減輕ヲ獨立ノ一章トシテ第十二章ニ規定シ第三章ノ
加減例及ヒ第六章ノ加減順序ハ之ヲ合セテ一章ト爲シ第十三章加減例ト題

二

セリ舊刑法ハ第二章第四節ニ徵償處分ヲ規定スト雖モ本法ニ於テハ之ヲ刪
除セリ蓋シ徵償處分ニ關スル規定ハ其性質上刑事訴訟法ニ屬スヘキモノニ
シテ本法ノ改正ニ付テハ刑事訴訟法ニ屬スルモノハ悉ク之ヲ同法ノ改正ニ
讓リ刑法典ノ中ニハ之ヲ掲ケサルヲ原則トスルノ故ナルヘシ第十章ノ親屬
例ヲ刪除シタルハ民法親族編ニ一般ノ親族例ヲ規定シタル刻下更ニ本法ニ
特別ノ規定ヲ設クルノ必要ナク殊ニ舊刑法制定ノ當時ニ在テハ民法ノ制定
ナク親族ノ定義ニ付テハ他ニ之ヲ定メタル法令ノ規定ナキヲ以テ已ムヲ得
ス本法中ニ制定シタルモノナレハ這般ノ改正ニ際シ之ヲ削除シタルモノナ
ルヘシ
第一案及ヒ第二案ニ於テハ舊刑法ト同シク之ヲ章節ニ分類スルノ法制ヲ採
リ第一章法例第二章刑例第一節刑名第二節主刑第三節附加刑第四節刑期計
算第五節假出獄第六節刑ノ消滅第三章加減例第四章除刑及ヒ減刑ノ原由第
五章再犯第六章數罪俱發第七章數人共犯第八章未遂犯第九章名例トシ第三
案以下ニ於テハ本法ト同一ノ法制ヲ採リ單ニ章ニ分ツコトトセリ而シテ其

實質内容ニ於テハ大同小異ナルモ其細故ニ至テハ以下各條下ニ對比詳説ス
ヘキヲ以テ茲ニ省略ス

第一章 法例

第一 沿革

第一案 第一章 法例

第二案 第一章 同上

第三案 第一章 同上

第四案 第一章 同上

第二 釋義 本章ハ刑法ノ效力ヲ定メタルモノニシテ學說ニ從ヒ之ヲ分類セ
ハ分テ四ト爲ス第一時ニ關スル效力第二土地ニ關スル效力第三人ニ關スル
效力第四本法ノ總則ノ他ノ法例ニ對スル效力是レナリ
舊刑法ハ其第一條ニ於テ所謂罪ノ三別主義ヲ採リ重罪輕罪違警罪ノ三種ヲ
區別セリ此法制ハ其内容ニ於テハ各多少ノ差異アルモ佛蘭西白耳義獨逸英
吉利伊太利埃及バイエルン土耳其格細々利等ニ於テ採用セラレ數年ノ久シキ

慣用セラレタルモノナリ然レトモ元此ノ區別ハ罪質ニ基クモノニ非スシテ
唯科スヘキ刑ノ異ナルニ因ルモノナリ此ニ於テ重罪輕罪ノ區別ヲ廢止シテ
罪ヲ重罪及ヒ違警罪ニ區別スルノ法制ヲ生シ更ニ重罪及ヒ違警罪モ亦性質
上何等ノ差異ナキモノト爲シ罪ニ何等ノ區別ヲ認メサル法制ヲ生スルニ至
レリ蓋シ本法ハ此ノ觀念ニ基キ凡テ此等ノ區別ヲ廢シタルモノナルヘシ又
舊刑法第二條ノ如キハ各國ノ法典中規定アルモノ少ナク解釋上明白ノ原則
ニシテ之レヲ成文ト爲ス必要ナク第四條ノ規定モ亦通法對特法ノ關係上明
白ノ事項ニ屬シ特ニ之ヲ掲クルコトヲ要セサルヲ以テ共ニ之ヲ刪除セルモ
ノナルヘシ舊刑法ニハ刑法ノ土地又ハ人ニ關スル效力ニ付キ何等ノ規定ヲ
設ケス是レ刑法典ニ於ケル一大缺點トシテ從來大ニ議論アル所ニシテ本法
第一條乃至第四條ノ規定ノ如キハ蓋シ此缺點ヲ補正セルモノナルヘシ
第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者
ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦

同シ

第一 沿革

第一案 缺如

第二案 第三條 法律ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ犯シタル罪ニ之ヲ適用

ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ノ犯罪ニ付キ亦同シ

第三案 本法ト同シ

第四案 同上

第二 釋義 本條第一項ハ本法ノ效力ヲ及ホスヘキ土地ノ範圍ニ屬スル原則ヲ規定シ帝國臣民ナルト外國人ナルトヲ區別セシ我帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ハ本法ノ適用ヲ受クヘキ旨ヲ定メタルモノナリ抑モ一國ノ法權ノ及フヘキ土地ノ範圍ニ付テハ古來屬地主義又ハ屬人主義ト稱スル二箇ノ見解アリ屬地主義ニ在テハ一國ノ領土ヲ基點トシ其國內ニ在テ犯シタル罪ニ付テハ犯人ノ國籍如何ヲ論セス内國ノ法律ヲ適用スヘシ

ト爲シ屬人主義ニ在テハ一國ノ國人ハ何國ノ領土内ニ在ル者ト雖モ常ニ其本國法ノ適用ヲ受クヘシト爲ス見解ナリ本法ハ屬地主義ヲ原則トシ日本國內ニ於テ生シタル犯罪ニ付テハ犯人ノ誰タルト問ハス常ニ我法律ヲ適用スルコトトセリ是レ今日況ク各國ニ行ハルル主義ニシテ最モ事宜ニ適シタルモノト謂ハサルヘカラス

本條第二項ハ帝國外ニ在ル帝國ノ船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付テモ亦原則トシテ本法ヲ適用スヘキコトヲ定メタルモノナリ船舶ノ公海内ニ在ル場合ニ於テ本邦ノ法律ノ行ハルヘキハ國際法上疑ヒナシト雖モ一旦我領土ヲ離ルルトキハ船舶内ニ生シタル罪ニ付キ刑法ノ效力ヲ定ムルニ非サレハ疑義ヲ生スル虞アリ從來船舶ニ付テハ之ヲ其所屬國領土ノ一部ト看做シ之ニ所屬國法ヲ適用スヘシト爲ス見解ト必要上所屬國法ヲ適用スヘシト爲ス見解トアリ本法ハ其第二ノ主義ヲ採リ必要上帝國外ニ在ル船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ對シテモ亦本法ヲ適用スヘキモノト定メタルモノナルコト蓋シ疑ヲ容レズ

第二案第二項ニハ艦船ト規定シ軍艦内ノ犯罪ニ付キ明文ヲ置ケリト雖モ國際法上當然本邦ノ法權カ條約ニ依リ行ハルヘキ場合ニ於テ特ニ明文ヲ置クノ必要ナキヲ以テ之ヲ删除シタルモノナルヘシ
本項帝國外ニ在ル帝國船舶トハ外國ノ領海ニ在ル帝國ノ船舶ヲ指稱シタルモノナリ

第三 疑問及説明

(イ) 何人ヲ問ハス帝國內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ本法ヲ適用スヘキコトハ何等ノ法文ヲ待タサルモ明白ニシテ舊刑法第二條ヲ削除スル理由ト等シク寧ロ冗贅ニアラサル乎
一應ノ見解ヲ以テスレハ本條第一項ノ規定ハ殆ト當然ノコトニシテ贅文ニ等シキ感ナキニ非サルモ第二項トノ關係上規定ノ必要アルノミナラス之ヲ存スルモ解釋上疑ヲ生スルコトナク却テ明白ナルヲ以テ特ニ之ヲ規定シタルモノナルヘシ
(ロ) 本條ハ國際刑法ノ原則ヲ掲ケタルモノナルコトハ何人モ疑ハサル所

ニシテ隨テ國際刑法ノ規定トシテ國ノ内外ニ因リ刑ノ適用ヲ異ニスルノ主義ヲ採用シタルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ國ノ内外トハ如何ナル標準ニ依ル乎換言スレハ領土ノ範圍ハ如何ナル標準ニ依リ之ヲ定ムヘキ乎

領土ノ範圍ニ付テハ各見ル所ヲ異ニスヘキモ本法規定ノ趣旨ハ帝國ノ領土トシテ現ニ認メラレタルモノヲ指稱シタルモノナルヘク隨テ彼ノ滿洲ニ於ケル租借地又ハ朝鮮ニ於ケル宗主權ノ如キハ本條ノ中ニ包含セサルモノト謂ハサルヘカラス但支那朝鮮暹羅ノ如ク本邦カ治外法權ヲ有スル國ニ在テハ固ヨリ帝國ノ領土内ニアラサルモ國際條約ニ依リ本邦ノ刑法ヲ適用スヘキヲ以テ斯ル邦土ニ在テハ本法ノ行ハルヘキハ論ヲ俟タス

(ハ) 帝國外ニ在ル帝國船舶ノ意義果シテ外國ノ領海ニ在ル帝國ノ船舶ヲ指稱シタルモノトセハ領海ノ意義如何

領海ノ意義ニ付テハ本法ニ於テ別ニ定メタルモノナク畢竟國際上ノ

慣例ニ於テ認定スルノ外ナカルヘシ

(三) 國際上ノ慣例ト謂フモ其慣例ノ一定シタルモノナケレハ其認定權ハ裁判官ニ一任スルノ意ナルヘキ乎

固ヨリ裁判官ノ認定ニ任スルノ外ナカルヘシ

(ホ) 海上ノ問題殊ニ何レノ部分カ某國ノ領海ニ屬スルカノ問題ハ利益ノ關係上衝突ヲ來タスヘキ場合少ナカラス往々ニシテ國際紛議ヲ生スルノ原因トナルヘシ各國ハ各自ニ利益ナル慣例ヲ作り隨テ慣例ニ伴フ便利ノ方法ヲ講スルニ至ルヘシ今若シ其判定ヲ裁判官ニ任センカ微々タル犯罪ニ付テモ裁判官ハ自國ニ利益ナル判定ヲ下シ爲メニ國際紛議ヲ生スルノ虞アラサル乎現ニ千島艦事件ノ如キ領海問題ニ付キ國際上ノ一紛議ヲ生シタル事例アリ常ニ英國裁判所ガ公平ナル裁斷ヲ下シタル爲メニ平和ナル落着ヲ見ルニ至リシモ漸次交通ノ頻繁ナルニ連レ還般ノ事項ニ關シ問題ヲ生スルコトナキ乎

本問ノ如キハ領海問題トシテハ或ハ紛議ヲ生スルノ虞ナキニアラサ

ルヘキモ本項ハ假令ハ本邦ノ船舶カ亞米利加又ハ布哇ノ港ヲ出ツルニ當リ其港口ニ於テ犯罪アリタル場合ニ於テ普通ノ理論ヨリ推究セハ其領海ヲ支配スル國ニ於テ裁判スルヲ相當ト爲スヘキモ實際其船舶カ本邦ニ來ルトキハ本項ノ規定ナキトキハ之ヲ處罰スルコトヲ得サルヘシトノ疑ナキ能ハス要スルニ領海トシテ本邦ニ於テ處罰スルヤ否ヤト云フ問題ニ過キサレハ其認定ヲ裁判官ニ一任スルモ之ニ關シ國際上ノ紛議ヲ生スルノ虞ナカルヘシ

(ニ) 假令ハ帝國ノ船舶カ太平洋又ハ印度洋ノ航海中未タ外國ノ領海ニ入ラサル際ニ於テ犯シタル罪ハ總テ之ヲ處罰セサルノ趣旨ナルヘキ乎本問ニ對スル解答トシテハ國際上ノ慣例ニ從テ處理スル趣旨ナリト云フニ歸着スヘシ而シテ其慣例ハ固ヨリ不文ニ屬スト雖モ今日ニ於テ認メラレタル所ニテハ國旗ヲ掲ケタル船内ノ航海中ニ於ケル犯罪ハ其國旗ノ本國ニ於テ之ヲ處分スヘシト謂フニ在リ要スルニ條約ニ依テ治外法權ヲ得タル土地或ハ國際上ノ慣例ニ依リ日本ノ法權ノ行

ハルル區域内ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ凡テ本法ヲ適用スルノ趣旨
ナリト解セハ大差ナカルヘシ

(ト) 本項ノ帝國外ニ在ルト云フ法文ヲ外國領海若クハ港ニ在ルト謂フ意
義ニ解スルモノトセハ日本國ハ自己ノ港ニ碇泊スル外國船ニ對シテ刑
罰權ヲ行ヒ且ツ外國ノ港ニ在ル日本ノ船舶内ノ犯罪ニモ亦刑罰權ヲ行
フコトヲ得ルノ結果ヲ生スヘシ果シテ然リトセハ彼此衝突ヲ生スルコ
トナキ乎

本問ノ場合ニ於テハ或ハ同一人ヲ二國ニテ處罰スル場合ヲ生スヘシ
然レトモ其ハ特リ此場合ノミナラス他ノ場合ニ於テモ生スルコトア
ルヘシ

第四 異説 本條ハ絶對不必要ノ規定ナリ苟モ帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者
ニ本法ヲ適用スヘキモノナルコトハ法文ヲ待タサル所ニシテ畢竟此規定ヲ
存スルハ國際刑法ノ原則ヲ教科書的ニ羅列シタルモノニ過キサレヘシ果シ
テ然リトセハ實際不必要ナルノミナラス爲メニ種々ノ疑問ヲ發生シ適用上

不便少ナカラサルヘシ論者往々獨逸ノ例ヲ引用スル者アリト雖モ獨逸ノ國
體ハ本邦ト異ナリ各聯邦ヲ統一シタルモノニシテ後帝國刑法ノ制定アリ獨
逸刑法ニハ此刑法ハ獨逸帝國内ニ於テ總テ行ハルル旨ヲ規定セリト雖モ畢
竟其國ノ組織カ聯邦ヨリ成立シタル特殊ノ事情アルニ基因スルモノナレハ
採テ以テ範ト爲スニ足ラス本邦ニ於テハ明治三十二年條約ノ改正ニ依リ法
權ヲ回復シタル以上ハ殊更斯ル法條ノ規定ヲ必要トセス

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪
ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

- 一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪
- 二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪
- 三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪
- 四 第四百十八條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 五 第五百十四條、第五百十五條、第五百五十七條及ヒ第五百五

十八條ノ罪

六 第六十二條及ヒ第六十三條ノ罪

七 第六十四條乃至第六十六條ノ罪及ヒ第六十四

條第二項、第六十五條第二項、第六十六條第二項ノ未

遂罪

第一 沿革

第一案 第四條 日本人外國ニ在テ第二編第一章乃至第四章及ヒ第八章第

一節ニ記載シタル罪ヲ犯シタルトキハ日本ニ於テ之ヲ罰ス

其他ノ重罪輕罪ヲ犯シ左ノ條件具備スルトキ亦同シ

一 外國ニ於テ確定ノ判決ヲ經サルトキ及ヒ確定ノ判決ニ依リ

刑ノ宣告ヲ受ケタルモ其刑未タ消滅セサルトキ

二 犯人自ラ日本ノ管内ニ入リタルトキ又ハ其引渡ヲ得タルト

キ

三 日本ノ法律ニ於テ罰スヘキ罪ニシテ其罪ヲ犯シタル國ノ法律ニ於テモ亦罪ト爲ストキ

第五條 外國人外國ニ在テ第二編第一章及ヒ第八章第一節ニ記載

シタル罪ヲ犯シ前條第二項第一號第二號ノ條件具備スルトキハ

日本ニ於テ之ヲ罰ス

第二案 第四條 法律ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ皇室又ハ帝國ニ對シテ

犯シタル重罪ニ之ヲ適用ス

第三案 第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第八十七條乃至第九十

條第九十二條乃至第九十四條、第九十七條乃至第一百零四條、第一百零七

條、第一百十二條第一項、第一百七十三條第一項、第一百七十五條、第一百七十

九條乃至第一百八十二條、第一百八十八條、第一百八十九條第一項、第三項

及ヒ第一百九十一條乃至第一百九十三條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適

用ス

第四案 第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第八十六條乃至第八十

九條、第九十一條乃至第九十三條、第九十六條乃至第三百三條、第三百六條、第三百七十一條第一項、第三百七十二條第一項、第三百七十四條、第三百七十八條乃至第三百八十一條、第三百八十七條、第三百八十八條第一項、第三項及ヒ、第三百九十條乃至第三百九十二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第二 釋義

本條ハ帝國外ニ於テ生シタル罪ニ付テモ尙ホ本法ヲ適用スヘキ場合ヲ規定シタルモノニシテ學者ノ所謂保護主義ニ則リ外國ニ於テ皇室又ハ帝國ニ對スル罪ヲ犯シタル者ニ付テハ特ニ本法ヲ適用スヘキコトヲ規定シタルモノナリ蓋シ此種ノ罪ハ我國ノ安寧秩序ヲ害スル程度甚タ大ナルニ拘ラス外國ニ在テハ何等ノ罪ヲ構成セス又ハ充分ナル刑罰ヲ科セサル場合尠シトセス隨テ我國法ヲ以テ之ヲ處罰スル必要ヲ感スルコト極メテ大ナリ第二案ニ於テハ列記法ニ依ラス概括的ニ皇室又ハ帝國ニ對スル罪ト規定セリト雖モ皇室又ハ帝國ニ對スル罪トハ如何ナル罪ヲ謂フヤ固ヨリ第二編以下ニ於テ之ヲ指摘スルコト敢テ難キニアラサルヘシト雖モ而モ之ヲ甄別ス

ルニ一定ノ標準ナク各自ノ見解ニ依リ異同アルヲ免レス故ニ第三案以後ニ於テハ專ラ實際ノ便宜ニ鑒ミ法典ノ體裁如何ヲ顧ミス其罪ヲ規定スル各條項ヲ列記シテ之ヲ明確ニシタルモノナルヘシ今試ニ其列記シタル條項ノ罪目ヲ掲出スレハ第二編第一章皇室ニ對スル罪ノ全部、同第二章内亂ニ關スル罪ノ全部、同第三章外患ニ關スル罪ノ全部及ヒ通貨偽造又ハ變造ノ罪ノ既遂及ヒ未遂、偽造又ハ變造ノ通貨行使罪ノ既遂及ヒ未遂、真正又ハ偽造ノ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シタル文書偽造ノ罪、御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル文書ノ變造罪、公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ノ偽造罪又ハ其作リタル文書若クハ圖畫ノ變造罪、公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ文書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪、前掲ノ文書若クハ圖畫ヲ行使シタル罪ノ既遂及ヒ未遂、有價證券ノ偽造又ハ變造罪、有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル罪、偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ノ行使罪ノ既遂及ヒ未遂、御璽、國璽、御名、公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名又ハ公務所ノ記號ノ偽造罪及ヒ真正又ハ偽造ノ御璽、國璽、御名、公務所又ハ公務員ノ印章若クハ

署名又ハ公務所ノ記號ヲ使用シタル罪ノ既遂及ヒ未遂罪ナリトス

第三 異説 本條ノ規定ハ立法ノ體裁及ヒ其内容ニ於テハ各異ナル所アルモ各國ノ刑法中概ネ之ニ類似スルモノアリト雖抑モ刑法ノ主義ヨリ立論スレハ最モ疑ヒナク又異論ナキハ屬地主義ト謂ハサルヘカラス唯必要上若クハ保護上或ル場合ニ於テハ屬人主義ヲ併用セサルヘカラストハ要スルニ立法ノ變例ニ屬ス殊ニ今日ノ情態ニ在テハ此主義ハ刑法ノ目的ヲ達スル上ニ於テ最モ必要ナリト謂ハサルヘカラス本條列記ノ法條ニ屬スル犯罪ニ付テハ其科刑ノ分量又ハ執行ノ方法ニ付テハ多少ノ差異アルヘキモ殆ント何レノ國ニ於テモ罰スヘキモノニ屬ス故ニ縱令ヒ本邦ニ於テ此等ノモノヲ罰セスト雖モ外國ニ於テ此等ノ犯行アルトキハ外國裁判所ハ必ス之ヲ不問ニ付セサルヘシ殊ニ刑法ハ文明人ニ適用スヘキ性質ノ點ニ付キ各國共ニ其探ヲ一ニセサルヘカラス立法者ハ何レノ國ニ於テモ常ニ其希望ヲ持ツヘシ假リニ其事ナシトスルモ各國已ニ業ニ法文ノ存スルアリ此等害惡ヲ處分スル上ニ於テハ殆ント遺憾ナシト謂フヘシ翻テ手續ノ上ヨリ觀察スルモ本條ノ適用

ニ付テハ頗ル困難ナルモノアリ刑法ハ所謂實體法ニシテ刑事訴訟法ナル助法ニ依リ運用スヘキモノタリ然ルニ外國ノ領土ニ於テ縱令犯人アリト雖モ亦其犯人ヲ處罰スル法條アリト雖モ之ヲ處罰スヘキ手續法タル刑事訴訟法ハ外國ノ領土ニ何等ノ效力ナク假令ハ獨逸伯林ニ於テ本條ニ記載スル罪ヲ犯シタル者アリトスルモ我刑事訴訟法ハ外國ノ領土ニ及ホスコトヲ得サルノ結果如何ニシテ犯人ヲ捜査シ逮捕シ若クハ之ヲ審問處罰スルコトヲ得ヘキ乎徒ラニ紙上ノ空文ニ屬シ實際運用ノ上ニ於テハ忽チ頓挫ヲ來タスヘク斯ル法條ハ之ヲ存スルノ實益ナカルヘシ論者或ハ此場合ニ於テハ關席裁判ヲ爲スモ可ナリト爲スモ關席裁判ナルモノハ相當ノ期間ヲ定メ呼出ヲ爲シ之ニ應セサルトキハ出廷ノ猶豫ヲ與ヘタル告知書ヲ發シ尙出頭セサルトキニ於テ始メテ之ヲ行フヲ得ヘク外國ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ對シ此等ノ手續モ爲サス又是ニ對シテ捜査審問ヲ爲サスシテ直ニ關席判決ヲ爲スコトハ到底許スヘキモノニアラサルヘシ

第四 異説ニ對スル説明 國際法上ノ研究トシテ今日ノ條約國ヲ一家親族ト

同視スト云フ點ヨリ見レハ一國ニ於テ處罰セラレタルモノハ他ノ一國ニ於テハ之ヲ處罰スルヲ要セストスルノ理論ハ一應理由アルモノノ如シト雖モ現時ノ狀態ニ在テハ各國皆獨立シテ自己ノ法律ニ依リ自己ノ利益ヲ計ル爲メニ自己ノ法律ヲ制定スルノ情勢ニ在レハ本法ニ於テ此規定ヲ設クルハ寔ニ已ムヲ得サル事項ニ屬ス又實際ノ上ヨリ之ヲ觀察スルモ假令ハ日本政府ヲ顛覆セントスルカ又ハ皇室ニ對スル罪ヲ犯シタル者アル場合ニ於テ本條ノ規定ナキトキハ幸ヒ外國ニ於テ處罰セラルレハ可ナランモ若シ處罰セラレサルトキハ本邦ニ於テハ之ヲ如何トモスルコト能ハサル結果ヲ生スヘシ又之ヲ適用スル手續ニ付テハ其犯人カ内地ニ來リシ場合ニ於テ之ヲ逮捕スルモ可ナリ又刑事訴訟法ニ於テ關席判決ヲ認ムレハ之ニ依ルモ可ナリ或ハ犯罪人引渡條約ニ依ルモ可ナリ決シテ實行スヘカラサル空文ニアラス

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一 第百八條、第百九條第一項ノ罪、第百八條、第百九條第

一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪

二 第百十九條ノ罪

三 第百五十九條乃至第百六十一條ノ罪

四 第百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪

五 第百七十六條乃至第百七十九條、第百八十一條及ヒ

第百八十四條ノ罪

六 第百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪

七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪

八 第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪

九 第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死

傷ニ致シタル罪

- 十 第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪
 - 十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪
 - 十二 第二百三十條ノ罪
 - 十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪
 - 十四 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪
 - 十五 第二百五十三條ノ罪
 - 十六 第二百五十六條第二項ノ罪
- 帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

第一 沿革

第一案 缺如

第二案 第五條 法律ハ帝國臣民帝國外ニ於テ生命、身體、自由、財產及ヒ信用ニ關シテ犯シタル重罪ニ之ヲ適用ス

外國人帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シテ犯シタル前項ノ罪ニ付キ亦同シ

第三案 第三條 本法ハ帝國外ニ於テ第二百二十八條、第二百二十九條第一項、第

百三十二條、第三百三十四條、第三百三十八條、第四百條、第四百八十三條、第四百八十六條、第四百九十四條、第二百五條乃至第二百七條、第二百九條、第二百三十四條乃至第二百三十六條、第二百四十一條、第二百四十二條、第二百五十五條、第二百五十六條、第二百五十八條、第二百五十九條、第二百六十二條乃至第二百六十四條、第二百六十七條、第二百七十二條、第二百七十三條、第二百七十五條乃至第二百八十條、第二百八十六條、第二百八十九條及ヒ第二百九十二條第二項ノ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

第四案 第三條 本法ハ帝國外ニ於テ第二百二十七條、第二百二十八條第一項、第三百一十一條、第三百三十三條、第三百三十七條、第三百三十九條、第三百八十二條、第三百八十五條、第三百九十三條、第二百四條乃至第二百六條、第二百八條、第二百三十三條乃至第二百三十五條、第二百四十四條、第二百四十一條、第二百五十四條、第二百五十五條、第二百五十七條、第二百五十八條、第二百六十一條乃至第二百六十三條、第二百六十六條、第二百七十一條、第二百七十二條、第二百七十四條乃至第二百七十九條、第二百八十五條、第二百八十八條及ヒ第二百九十一條第二項ノ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

第二 釋義

本條第一項ノ規定ハ屬人主義ニ則リ第二項ハ保護主義ニ則リタ

ルモノニシテ帝國外ニ於テ生命、身體、自由、財產、名譽又ハ信用ニ關スル罪ヲ犯シタル帝國臣民及ヒ外國人ニ對シテモ亦本法ヲ適用スヘキコトヲ規定シタル蓋シ國外ニ於テ生シタル罪ハ其犯人ノ帝國臣民タルト又ハ外國人タルトヲ論セス原則トシテハ本法ヲ適用スルノ必要ナシト雖モ刑法ハ秩序維持ヲ目的トスルヲ以テ此種ノ罪ト雖モ帝國ノ秩序維持ニ害アルモノナルトキハ其目的ノ爲メニ必要ナル限度ニ於テ本法ヲ適用セサルヘカラス即チ本條ハ帝國臣民帝國外ニ於テ又ハ外國人帝國臣民ニ對シ帝國外ニ於テ犯シタル生命、身體、自由、財產、名譽又ハ信用ニ關スル一定ノ罪ヲ以テ帝國ノ秩序維持ニ害アルモノト爲シ之ヲ處罰ス可キ旨ヲ確定シタルモノナリ

本條ハ前條ト同シク各條項ヲ列記シテ本法ヲ適用スヘキ罪ノ範圍ヲ明確ニセリ今其列記シタル罪目ヲ掲出スレハ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、船舶等ニ放火スル罪ノ既遂及ヒ未遂、自己ノ所有ニ屬セサル建造物、船舶等ニシテ人ノ現住又ハ現在セサル物ニ放火スル罪ノ既遂及ヒ未遂、前掲放火罪ト同一ニ處罰ス可キ罪ノ既遂及ヒ未遂、溢水ニ因リ人ノ現住又ハ現

在スル建造物、汽車其他ノ物ヲ浸害スル罪、權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ變造シタル罪、醫師公務所ニ提出スヘキ診斷書其他ニ虛偽ノ記載ヲ爲ス罪及ヒ前掲ノ文書若クハ圖畫ヲ行使シタル罪ノ既遂及ヒ未遂、他人ノ印章若クハ署名ノ偽造罪及ヒ真正又ハ偽造ノ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル罪ノ既遂及ヒ未遂、男又ハ女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル罪ノ既遂及ヒ未遂、婦女ヲ姦淫シタル罪ノ既遂及ヒ未遂、重婚ノ罪、人ヲ殺シタル罪ノ既遂及ヒ未遂、傷害罪、墮胎罪ノ一部、保護ノ責任ヲ有スル者、老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササル罪、逮捕又ハ監禁ノ罪、人ヲ拐取シ若クハ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣買者ヲ藏匿若クハ收受シ又ハ隱避セシメタル罪ノ既遂及ヒ未遂、誹毀ノ罪、竊盜、強盜、詐欺取財、恐喝取財及ヒ此等ノ罪ト同一ニ處分ス可キ罪ノ既遂及ヒ未遂、業務上占有スル他人ノ物ノ横領罪及ヒ贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル罪ナリ

第三 疑問及説明

本條第一項ニハ帝國臣民ノコトヲ規定シ第二項ニハ外國人ノコトヲ規定ス

若シ國籍ヲ有セル者カ帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ本條ニ記載スル罪ヲ犯シタルトキハ處罰セサル趣旨ナリヤ

本條第二項ノ外國人トハ日本人ニアラサル者ヲ指稱スルノ意義ナルヲ以テ國籍ヲ有セサル者ハ本項ノ外國人トアル中ニ包含スヘシ

第四 異説 第二條ニ掲記シタル異説ノ趣旨ヲ援用ス

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル

帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

- 一 第一百一條ノ罪及ヒ其未遂罪
- 二 第一百五十六條ノ罪
- 三 第九十三條、第九十五條第二項、第九十七條ノ罪及ヒ第九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

第一 沿革

刑法總論 第一編 總則

第一案 缺如

第二案 第六條 法律ハ帝國ノ公務員帝國外ニ於テ犯シタル職務ニ關スル罪ニ之ヲ適用ス

第三案 第四條 本法ハ帝國外ニ於テ第百二十條、第百二十四條、第百二十六條第二項、第百二十七條乃至第百二十九條、第百三十一條及ヒ第百三十二條ノ罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

第四案 第四條 本法ハ帝國外ニ於テ第百十九條、第百二十三條、第百二十五條第二項、第百二十六條乃至第百二十八條、第百三十條及ヒ第百三十一條ノ罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

第二 釋義 本條ノ規定ハ前條第一項ト同シク屬人主義ニ則リタルモノニシテ帝國外ニ於テ職務ニ關スル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ適用スルノ趣旨ナリ今其引用シタル法條ノ罪目ヲ列記スレハ看守者又ハ護送者、被拘禁者ヲ逃走セシムル罪、公務員虛偽ノ文書圖畫ヲ作り又ハ文書圖畫ヲ變造スル罪、公

務員職權濫用罪、看守者又ハ護送者、被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行為ヲ爲ス罪、公務員又ハ仲裁人ノ收賄罪ナリ

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行為ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第一 沿革

第一案 第六條 外國ニ於テ刑ニ處セラレタル犯人ニ對シ更ニ刑ヲ宣告スヘキ場合ニ於テハ其已ニ受ケタル刑期又ハ拂ヒタル金額ヲ通算ス

第二案 第七條 外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル事件ト雖モ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕スルコトヲ得

第三案 第五條 第二案第七條ト同文

第四案 第五條 同上

第二 釋義 前數條ノ規定ノ結果トシテ犯人既ニ外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル場合ト雖モ更ニ處罰ノ必要アルコト少シトセス是レ本條ノ規定アル所以ニシテ唯犯人ハ一個ノ所爲ニ付キ再度ノ處分ヲ受クル不幸ニ遭遇スヘクシテ事態少ク酷ニ失スルノ嫌ナキ能ハス故ニ但書ニ於テ已ニ外國ニ於テ刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタル犯人ニ付テハ裁判所ハ更ニ刑ノ宣告ヲ爲ス際刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得ヘキ旨ノ除外例ヲ設ケタリ

第三 疑問及説明

(イ) 本條ノ規定ハ一事不再理ノ原則ニ悖反スル所ナキ乎

一事不再理ノ原則ハ國內ニ於テノミ認ムヘキ原則ニシテ國ト國トノ關係ニ於テ認ムヘキモノニアラス隨テ外國ノ裁判所ニ於テ處分シタル點ニ付テハ帝國裁判所ハ之ヲ顧慮スルヲ要セス

(ロ) 本條ニ所謂同一行爲トハ同一ノ罪ト同意義ナル乎

實體上ヨリ之ヲ觀察セハ行爲ト罪トハ殆ント同一ナリト雖モ本條ハ

行爲ノ方面ニ着目シタル規定ニシテ外國ニ於テ處罰セラレタル時カ必スシモ同一ノ罪名ナルコトヲ必要トセス罪名ハ異ナルモ其行爲カ同一ナレハ處罰スルコトヲ妨ケサル趣旨ナリ唯前數條ト法文ヲ異ニシ同一行爲ト規定セシハ要スルニ外國裁判所ニ於テ處罰セラレタル罪名ト帝國裁判所ニ於テ處罰スヘキ罪名ト同一ナラサレハ處罰セサル意義ニ解釋スルノ懸念アルヲ以テ特ニ罪ノ字ヲ避ケテ行爲ト爲シタルモノナルヘシ

(ハ) 果シテ然ラハ同一事實ト云フ意義ナリヤ

普通ノ場合ニ於テハ事實ト云フモ可ナルヘシト雖モ單純ニ事實ト云ヘハ或ハ其犯人ノ心意ニ屬スル行爲ヲ含マサルコトトナルヘシ要スルニ本條ノ同一行爲トハ舊刑法ニ所謂同一所爲ト云フ義ニ外ナラス

(ニ) 本條ノ但書ハ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ執行ノ全部ヲ終リタルトキハ全ク免除シ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ減輕スルコトヲ得ル趣旨ナリヤ又ハ其減免ハ全ク裁判官ノ自由裁量ニ任スル趣旨ナリヤ

本條但書ノ減刑又ハ免除ノ程度ハ全ク裁判官ノ自由裁量ニ一任スルノ趣旨ナルヘシ

(ホ) 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタルモノニシテ更ニ帝國ノ裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ本條但書ノ特典ニ依リ刑ノ執行ヲ免除セラレタルトキハ刑法ハ是ヲ一ノ刑ト看做シ後日罪ヲ犯シタルトキハ再犯加重ノ理由ト爲スノ趣旨ナリヤ

本條ハ特ニ刑ノ執行ノミノ免除ナレハ刑ノ確定シタル人ト看ル趣旨ナルヘシ

(ニ) 本條ノ執行ノ免除減輕ハ判決ヲ以テ言渡ス趣旨ナリヤ其手續ハ刑事訴訟法ニ於テ定マルヘキモノナリ

(ト) 外國ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ受ケ居ル者ニ付テモ本條ノ適用アリヤ其場合ニ於テ減刑ヲ爲スヘキ乎又ハ免除ヲ爲スヘキ乎ハ裁判官ノ裁量ニ在リト雖モ本條ノ適用ハ固ヨリ妨ケサルモノトス

(チ) 外國ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル者ニ在テハ事實上刑ノ執行ヲ受ケ

サル者ナリ之ヲ減刑又ハ免除スルハ如何ナル理由ナリヤ

外國ニ於テ刑ノ執行猶豫ヲ受ケ同時ニ完了シタルトキハ刑ノ執行ヲ受ケタルモノトナルヘシ

(リ) 本條ノ執行ナル文字ハ想像上ノ執行ト實質上ノ執行ヲ包括スルヤ然リ

(ヌ) 外國裁判所ニ於テ確定裁判ヲ受ケ外國ニ滯在中時効ヲ得タルトキハ本條ノ適用ナキヤ

外國ニ於テ時効ヲ得ルモ本條ノ適用ニ付テハ一モ妨クルコトナシ
(ル) 外國法律ノ時効ト日本法律ノ時効ト年限ニ於テ差異ヲ生スルトキハ何レノ國ノ法律ニ依ルヘキ乎

總テ獨立主義ニ依ルヘキモノニシテ外國ニ於テ言渡シタル刑ニ付テハ日本ノ時効トハ何等ノ關係ヲ有セサルヘシ

第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

第一 沿革

第一案 第三條 刑事ノ法律ハ既往ニ溯ルノ效力ヲ有セス

所犯新法施行以前ニ在テ未タ確定ノ判決ヲ經サルモノハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

第二案 第二條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

第三案 第六條 第二案第二條ト同文

第四案 第六條 第二案第二條ト同文

第二 參照法律

舊刑法

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

白耳義刑法

第二條 何ノ罪タルヲ論セス所犯頒降律以前ニ係ル者ハ其律ヲ以テ處ス

ルヲ得ス然レトモ若シ所犯頒降以前ニ係リ其律ニ新舊異同アルモノハ其輕キニ從テ擬斷スヘシ

獨逸刑法

第二條 如何ナル所業ト雖モ犯シタルトキハ未定ノ法律ニ處スヘカラス

犯罪ノ時ヨリ裁判ノ時ニ至リ法律ニ變更アレハ其輕キニ從テ處斷スヘシ

佛蘭西刑法

第四條 註誤、輕罪、重罪ヲ問ハス其犯前ニ法律上ニテ未タ定メサル刑ヲ用

ヒ罰スヘカラス

英吉利刑典

習慣法成文律ト抵觸スルトキハ成文律ニ依ルヘシ成文律中新舊相合ハサルモノハ舊ヲ捨テ新ヲ取ルヘシ

伊太利刑法

第二條 何人モ犯罪時ノ法律ニ依リ罪ト爲ル可キ所爲ニアラツレハ罰セラ

刑法總論 第一編 總則

ルルコトヲ得ス

何人モ犯後ノ法律ニ依リ罪ト爲ラサル所爲ニ付キ罰セラルルコトヲ得
ス其既ニ刑ノ宣告アリタル者ニ付テハ其裁判ノ執行及刑ノ效力消滅ス
犯時ノ法律ト犯後ノ法律ト相異ナルトキハ其ノ被告人ニ利益アル規定
ヲ適用ス

加利堡爾尼刑法

第六條 第二條ノ期限以前千八百七十二年七月一日正午ニ犯シタル罪ハ
此刑法中明文アル者ノ外一切之レヲ罰スルコトヲ得ス然レトモ期限以
前ノ犯罪ハ仍此刑法頒布以前ノ如ク舊法ニ依テ之ヲ審判スルコトヲ得
巴西兒刑法
第三百九條 此刑法頒布以前ニ係ル第一審或ハ第二審或ハ改審ヲ經ヘキ
諸罪ノ輕キモノハ舊法ニ率由シテ論シ又其重キモノハ犯者ヨリ新法ニ
循依シテ其罪ヲ濟セララルルコトヲ求ムルコトヲ得ヘシ
細々利刑法

第六十條 罪ハ總テ其事犯ノ前ニ於テ法律ニ制定セザリシ刑ヲ以テ處斷
スヘカラス然レトモ若シ其審判中ニ制定スル刑ト事犯ノ時ニ定メタル
刑ト相異ナルキトハ其最モ輕キ刑ヲ以テ之ヲ適用スルモノトス

明律

凡律自頒降日爲始若犯在已前者並依新律擬斷

大寶律

凡律ハ頒行ノ日ヨリ始ト爲ス若シ所犯頒行以前ニ在ル者モ並ニ新律ニ依
テ擬斷シ舊律ヲ援引スルコトヲ得ス

改定律例

第一百條 凡例モ亦頒降ノ日ヨリ始ト爲スト雖モ若シ事犯頒降以前ニ在テ
現律罪名輕キ者ハ仍ホ原律ニ依テ定擬ス

第三

釋義 本條ハ舊刑法第三條ト其趣旨ヲ同フス蓋シ犯罪後法律ノ變更ニ
因リ其刑期ヲ輕クシタル場合ニ於テ既往ニ遡及スルハ畢竟社會カ此以上ノ
重刑ヲ科スルノ必要ヲ認メサルニ因ルモノナレハナリ舊刑法ハ第三條第一

項ニ於テ法律ハ其施行以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得スト規定スルモ法律ノ既往ニ遡ルコトヲ許サスシテ其施行前ニ生シタル行爲ニ適用スヘカラサルコトハ自明ノ理ニシテ特ニ之ヲ明記スルノ必要ナク又第二項ニ於テ新舊ノ法ヲ比照シ云々ノ規定アルモ如此規定スルトキハ只一回ノ刑ノ變更アリタル場合ノミヲ豫想セシモノナルカ如キ疑ヒナキ能ハス故ニ本法ニ於テハ單ニ其輕キモノヲ適用スト修正シテ其缺點ヲ補綴シ且既ニ適用スト言ヘハ其裁判確定前ナルコト明白ナルヲ以テ未タ判決ヲ經サル云々ノ字句ヲ削除シタルモノナルヘシ唯犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用スト規定スルトキハ重キ場合ニ於テハ舊法ヲ適用スルコトナリ當然其頒布後ノ法律カ適用セラルルト云フ一部分カ茲ニ掲ケラレ舊刑法第三條第一項削除ノ精神ヲ貫徹セサル嫌ヒアレハ寧ロ原則トシテハ法律ノ定マリシ以前ノ行爲ニ遡及シテ新法律ヲ適用スヘキモノニハアラサレトモ唯刑カ新法律ニ依リ輕クナリタル場合ノミ遡及スルコトヲ言明セハ可ナルヘシトノ批難ナキニ非サレトモ要スルニ法文ノ體裁ニ過キスシテ趣旨ニ

於テハ兩者共ニ異ナル所ナカルヘシ

第四 異說 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ總テ新法ニ從フヘシトスルノ說 抑モ刑罰ニハ適當若クハ不適當ノ區別ヲ生スヘキモ輕重ノ別ヲ生スヘキ理由ナク國家ハ其罪犯ニ對シ相當ノ刑罰ヲ要求スルモ之ヲ以テ刑ノ輕重ト云フヘキモノニ非ス輕微ナル事犯ニ對シテハ輕微ナル刑ヲ加ヘ重大ナル事犯ニ對シテハ重大ナル刑ヲ科スルハ固ヨリ其所ナレトモ適當ナル事由ニ依リ適當ナル刑ヲ科スルト云フニ過キス今日迄ノ立法例ニ依レハ新舊雙方ヲ比較シ新法ノ刑期輕キ時ハ既往ニ遡ルコト殆ント多數ヲ占ムルモ寔ニ理由ナキコトト謂ハサルヲ得ス但舊法ニ於テ處罰セザリシ事犯ニ對シ新法ニ於テ之ヲ罰スルハ固ヨリ不可ナリト雖モ舊刑法第三條第二項ノ場合ハ舊法モ新法モ共ニ禁制シタル事項ニ屬シ其處分ニ輕重ノ別アルモ之ヲ以テ犯人ニ既得權ヲ與フヘキニ非ス否ナ犯人ニ既得權ノアルヘキ理由ナシ而シテ法律ノ變更ハ舊法ノ刑適當ナラサルカ故ニ適當ノ刑ニ改メタルモノナレハ新舊刑法共ニ罪ト認メタル行爲ニ對シテハ總テ新法ニ依ルヘキモ

ノトス反對論者ハ若シ凡テ新法ニ從フモノトセハ新法ノ刑期重キトキハ同一行為ニ付キ舊法ニ依リ輕キ刑ニ處セラレタル者トノ權衡ヲ失スヘシト論スルモ這ハ五十歩百歩ノ議論ニシテ反對論者ノ說ニ從フモ自己ト同種ノ罪ヲ犯シタル者カ舊法時代ニ重ク罰セラレ自己ハ後レテ罰セラレタルカ爲メニ新法ニ依リ輕ク罰セラレル場合ヲ生スヘク其不權衡タルコトハ毫モ異ナル所ナシ又舊法時代ニ無罪ナリシ事項ニ對シ新法ニ依リ罰スルコトトナリタル場合ニ於テモ尙新法ニ依リ處罰スルコトトセハ論ナキモ其場合ニ於テハ之ヲ處罰セス唯タ舊法ニ於テ輕ク處罰シタルモノヲ新法ニ依リ重ク罰スルコトノミ新法ニ從フトスルハ論理一貫セストノ說アレトモ舊法時代ニ於テ罪ト爲ラサリシ事項ハ固ヨリ爲スヲ妨ケサリシ行為ニシテ偶後ニ發セラレタル法律ニ於テ之ヲ禁シタリトノ理由ヲ以テ其行為ヲ處罰スルコトハ不當ナレトモ舊法時代ニ於テモ又新法時代ニ於テモ處罰スヘキ事項ニ付テハ何時ニテモ爲スヘカラサルコトヲ爲シタルモノナルヲ以テ大ニ性質ヲ異ニスヘシ或ハ又國家カ或ル刑罰ヲ約束シナカラ後ニ之ヲ變更シテ處罰スルハ

恰モ正札付ノ賣物ヲ買テ後ニ代金ヲ支拂フトキハ正札以外ニ拂ハサルヘカラサルト一般ニシテ不條理ナリト謂フモノアレトモ國家ハ斯ル約束ヲ爲シタルコトナシ舊法ニ定メタル刑ノ變更ハ畢竟時勢ノ要求ニ應スルモノニシテ之ヲ以テ約束ノ變更ト云フコトノ不當ナルハ論ヲ待タス

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ従事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第一 沿革

第一案 缺如

第二案 第八條 同文

第三案 第七條 同文

第四案 第七條 同文

第二 釋義 本條ハ公務員及ヒ公務所ノ定義ヲ掲ケタルモノニシテ舊刑法ニ於テハ官吏及ヒ官署ノミニ關スル規定ヲ設ケタレトモ時勢ノ變遷ニ連レ公

其公署ニ關スル規定ノ必要ヲ感シ明治二十三年法律第百號ヲ以テ公吏及ヒ公署ハ刑法上之ヲ官吏及ヒ官署ト同視スル旨ヲ規定シ其欠缺ヲ補綴シタリト雖其他ノ職員ニシテ刑法上之ヲ官吏ト同視スヘキ者尠シトセス然レトモ此等ノ職員ノ種類ニ至リテハ其數極メテ多ク一々之ヲ列舉スルノ煩ニ堪ヘサルノミナラス若シ其一ヲ脱漏スルモ影響スル所極メテ大ニシテ彼此權衡ヲ失スルノ虞アルヲ以テ本條ニ其定義ヲ掲ケ汎ク各般ニ通スル公務員及ヒ公務所ナル語ヲ設ケ官吏公吏法令ニ依リテ公務ニ從事スル議員委員其他ノ職員ヲ公務員ト指稱シ獨リ刻下ニ成立スル者ノミナラス將來生スヘキ職員ヲ包含セシメ此等ノ者ノ職務ヲ行フ所ヲ公務所ト指稱シ汎ク公務ニ從事スル議員及ヒ公衙ニ共通スル規定ヲ設クルノ便宜ヲ計リタルモノナルヘシ本條ノ所謂官吏ノ解釋ニ付テハ從來種々ノ議論ヲ生シ隨テ區々ノ見解ヲ生スルヲ免レス要スルニ裁判官ノ見解ニ一任スルノ外其範圍ニ付テハ別ニ依ルヘキ所アラズ公吏ニ於テモ亦然リ

第三 疑問及説明

(イ) 法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員及ヒ職員ハ公吏ニアラサル乎之ヲ公吏ノ外ニ區分シタル趣旨如何

此點ニ付テハ種々ノ異論アルヘキモ現今ノ裁判例トシテハ議員ハ公吏ニアラズト解釋シ居ルヲ以テ特ニ之ヲ分別シタルモノナルヘシ

(ロ) 鐵道調査會議員砲兵會議員或ハ土木會議員ノ如キ辭令ヲ受ケ相當ノ報酬ヲ受クル者ノ如キハ何レノ部類ニ屬スルヤ

今日ノ議員又ハ委員ノ中ニハ本務ヲ以テ議員委員トナリシモノ少ナカラス設例ニ云フ議員委員ノ如キハ即チ本務ヲ有シ其本務ノ資格ヲ以テ議員委員トナリシモノナレハ其レ等ハ本務ノ資格ニ於テ官吏又ハ公吏ノ中ニ包含スルモノト解釋セサルヘカラス

(ハ) 公證人ハ如何

公證人ハ公吏ニシテ公證人ノ役場ハ公務所ナリ

(ニ) 執達吏代理者ハ如何

執達吏代理者ハ其他ノ職員ノ中ニ包含スヘシ

(ホ) 各省大臣ヨリ命セラレタル委員等ハ公務員ノ中ニ包含セサルヤ

各省大臣ヨリ委任セラレタル者ニシテ一定ノ公務員タル資格ヲ有スル者ナレハ包含スヘキモ資格ナキ者ニ在テハ包含セス

(ヘ) 所謂委員ノ中ニテモ地方税ヲ以テ使用スル吏員若クハ委員ハ公吏ノ中ニ包含スヘシ然ラハ法令ニ依ル委員ハ別ニ規定ノ必要ナキニ非サル乎委員ノ中ニハ種々ノ者アレハ一概ニ論斷スルコトヲ得サルヘシ

第四 異説 (イ) 本法ニ依リ公務員ト稱スルハ官吏公吏法令ニ依リ公務ニ従事スル議員ニ限ルヲ相當トス委員其他ノ職員ニ付テハ其範圍明確ナラサルノミナラス廣ク之ヲ解釋スレハ殆ント凡テノ委員議員ヲ含ムノ虞アリ而シテ此等委員ノ中ニハ公務員ト稱スルノ大ニ過クルモノアレハナリ

(ロ) 公務員ノ名稱ハ要スルニ其範圍明瞭ナラス刻下ノ状態ニ在テハ之ヲ官吏公吏ニ止メ各條中ニ規定スルヲ以テ足レリトス

(ハ) 本條第二項ハ公務員ノ性質ニ依リ奇妙ナル現象ヲ呈スヘク寧ロ其場合ニ依リ裁判官ノ解釋ニ任シ特ニ規定ヲ設クルノ必要アラサルヘシ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニモ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラ

ス

第一 沿革

第一案 第八條 此刑法ノ總則ハ別ニ刑ヲ定メタル他ノ法律規則ニ之ヲ適

用ス但其法律規則ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二案 第九條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニモ亦之

ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第三案 第八條 第二案第九條ニ同シ

第四案 第八條 同上

第二 參照法律

舊刑法

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アルモノハ各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサルモノハ此刑法ノ總則ニ從フ

佛蘭西刑法

第四百八十四條 如何ナル事柄ニ付テモ刑法中其刑ヲ規定シタルコトナ

ク別段ノ法律及ヒ規則ニ其刑ヲ規定シタルトキハ裁判所ニ於テ其法律及ヒ規則ニ循フ可シ

第三 釋義 本條ハ舊刑法第五條ト其趣旨ヲ同クシ刑法ハ刑事法全般ニ通スル大原則タルヲ示スニ過キス本條ニ付テハ別ニ註解ヲ試ムル必要ナキヲ以テ他ノ議論ハ之ヲ省略ス唯舊刑法ニ法律規則トアルヲ法令ト改メタルハ別ニ意義ノ異ナルモノアルニアラス今日ノ用語ニ倣ヒタルモノナルヘシ

第二章 刑

第一 沿革

第一案 第二章 刑例 第一節 刑名

第二案 第二章 刑例 第一節 刑

第三案 第二章 刑

第四案 同上

第二 釋義 本章ニ於テハ刑ノ種類及ヒ其執行ノ大別ヲ定メタルモノニシテ舊刑法第二章第一節第二節及ヒ第三節ノ規定ヲ總括シタリ

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附

加刑トス

第一 沿革

第一案 第九條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

第十條 重罪ノ主刑ハ左ノ如シ

- 一 死刑
- 二 無期懲役
- 三 有期懲役
- 四 無期禁獄
- 五 有期禁獄

第十一條 輕罪ノ主刑ハ左ノ如シ

- 一 有役禁錮
- 二 無役禁錮
- 三 罰金

第十二條 違警罪ノ主刑ハ左ノ如シ

- 一 拘留
- 二 科料

第十三條 附加刑ハ左ノ如シ

- 一 剝奪公權
- 二 停止公權
- 三 禁治産
- 四 監視
- 五 沒收

第二案 第十條 死刑、懲役、禁錮及ヒ罰金ヲ重罪ノ主刑トス
拘留及ヒ科料ヲ輕罪ノ主刑トス

公權剝奪、監視及ヒ沒收ヲ附加刑トス

第三案 第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トス
公權剝奪、監視及ヒ沒收ヲ附加刑トス

第四案 第九條 同上

第三 參照法律
舊刑法

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セラル者トヲ定ム
第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期徒刑

刑法釋義 第一編 總則

- 五 有期流刑
 - 六 重懲役
 - 七 輕懲役
 - 八 重禁獄
 - 九 輕禁獄
- 第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス
- 一 重禁錮
 - 二 輕禁錮
 - 三 罰金
- 第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス
- 一 拘留
 - 二 科料
- 第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス
- 一 剝奪公權

- 二 停止公權
 - 三 (明治三十一年法律第十一號ヲ以テ削除)
 - 四 監視
 - 五 罰金
 - 六 沒收
- 第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

佛蘭西刑法

- 第六條 重罪ノ刑ハ施體ト加辱トヲ兼ヌル刑又ハ加辱ノミノ刑アリ
- 第七條 施體ト加辱トヲ兼ヌル刑ハ左ノ如シ
- 第一 死刑
 - 第二 無期ノ徒刑
 - 第三 流刑
 - 第四 有期ノ徒刑

- 第五 囚獄ノ刑
- 第六 徒刑場ニ於テ使役スルノ刑
- 第八條 加辱ノミノ刑ハ左ノ如シ
 - 第一 追放ノ刑
 - 第二 公權剝奪ノ刑
- 第九條 懲治ノ刑ハ左ノ如シ
 - 第一 懲治場ノ期限ヲ定メ禁錮スル刑
 - 第二 定期間公權、民權、族權ヲ行フヲ禁スル刑
 - 第三 罰金
- 第四百六十四條 註誤ノ刑ハ左ノ如シ
 - 禁錮
 - 罰金
 - 沒收

白耳義刑法

第七條 凡刑ノ施ス可キ者左ノ如シ

重罪刑囚

- 一 死刑
- 二 徒刑
- 三 禁錮(政事上ノ犯罪ヲ處ス)禁錮場ハ上裁ニ依テ定ム
- 四 監役獄内ニテ手業ヲ執ラシムル之ヲ監役ト云フ(老幼婦女ノ徒刑ニ堪ヘサル者ヲ處スルナリ)

輕罪及ヒ違警罪條一

- 一 囚獄
- 輕重罪條二
 - 一 公權、民權、族權ヲ剝奪スル刑
 - 二 監察ニ附スル刑
- 輕重罪及ヒ違警罪條二
 - 一 罰金

一 沒收

獨逸刑法

第一條 重罪トスル者ハ即チ

死刑 徒刑 五年以上ノ城塞禁獄

輕罪トスル者ハ即チ

五年以下ノ城塞禁獄 禁獄 五十タール以上ノ罰金

違警罪トスル者ハ即チ

拘留又ハ五十タール以下ノ罰金

英吉利刑法典

謀反及ヒ重罪ニ用フヘキ刑ハ

死刑 徒刑 囚獄 贖金

小罪ヲ罰スルモノハ

五封以下ノ罰金或ハ二月以下ノ囚獄

附加スヘキ刑ハ

贖金

答刑

監牢

加苦役

奪權

監察

澳地利刑法

第十二條 重罪ノ主刑ニ二種アリ

死刑 徒刑

第二百四十條 罰金、禁獄、追放ノ刑ヲ輕罪トス

伊太利刑法

第十一條 犯罪ニ科スル刑ハ左ノ如シ

一 徒刑(無期)

二 懲役

- 三 禁獄
 - 四 監視、追放
 - 五 罰金
 - 六 公務禁止
- 註達ニ科スル刑ハ左ノ如シ

一 拘留ノ刑

二 科料

三 職業又ハ藝術ノ停止

法律ニ於テ禁獄ノ刑ト稱スルハ徒刑、懲役、禁獄、監視、追放及ヒ拘留ノ諸刑ヲ包含シタルモノヲ云フ

露國刑法

第十八條 刑ヲ分テ重罪刑及ヒ懲治刑ノ二種ト爲シ更ニ此二種ヲ區分シテ種類及ヒ等差ト爲ス

第十九條 左ニ掲クルモノヲ以テ重罪刑ノ種類トス

第一類 民權ヲ剝奪シテ死刑

第二類 民權ヲ剝奪シテ流刑ノ上苦役若シ犯人施體刑ヲ受クヘキ身分ナレハ公然ニ三十以上一百以下ノ答ヲ加ヘ烙印ヲ點シ且全ク人權ヲ剝奪シテ流刑苦役

第三類 民權ヲ剝奪シテ悉比利亞ヘ流刑殖民ト爲ス若シ犯人施體刑ヲ受クヘキ身分ナレハ公然二十以上三十以下ノ答ヲ加ヘ烙印ナク人權ヲ剝奪シテ悉比利亞ヘ流刑殖民ト爲ス

第四類 民權ヲ剝奪シテ高加索山ノ外ニ流置

第三十四條 左ニ掲クル者ヲ以テ懲治刑ノ種類トス

第一類 特權ノ全部ヲ剝奪シテ悉比利亞ヘ謫シ留置セシム又情狀ニ依リ該地ニ於テ若干時間禁錮ノ刑ヲ受ケシムルコトアルヘシ若シ犯人施體刑ヲ受クヘキ身分ナレハ五十以上百以下ノ答ヲ加ヘ若干時間懲治組ニ編入シ且諸特權ヲ剝奪ス

第二類 悉比利亞ヲ除キ他ノ隔絶スル諸州ヘ謫シテ留置セシム特權全

部ヲ剝奪シ仍ホ情狀ニ依リ謫所ニ於テ若干時間禁錮ノ刑ヲ受ケシムルコトアルヘシ

若シ犯人施體刑ヲ受クヘキ身分ナレハ之ヲ入工場ノ刑ニ處シ且特權全部ヲ剝奪ス

第三類 若干時間城塞禁獄ノ刑ニ處シ仍ホ情狀ニ依リ二三ノ特權ヲ剝奪スルコトアルヘシ

第四類 若干時間矯正場ノ刑ニ處シ仍ホ情狀ニ依リ二三ノ特權ヲ剝奪スルコトアルヘシ

第五類 若干時間禁獄

第六類 暫時間禁錮

瑞典刑法
一 死刑
二 徒刑

三 禁獄

四 罰金

五 禁官

六 停官

七 民權剝奪

西班牙刑法

一 死刑

二 權利ヲ剝奪スルコト

三 耻辱ヲ加フルコト

四 贖金

五 入獄

六 官職ヲ有シ及ヒ賞牌ヲ帶フルヲ得サルコト

和蘭刑法

第九條 刑ハ左ノ如シ

刑法釋義 第一編 總則

甲 主刑

- 一 禁錮
- 二 拘留
- 三 罰金

乙 附加刑

- 一 或ル權利ノ剝奪
- 二 官ニ屬スル工役場入監
- 三 或物品ノ沒收
- 四 判決ノ公告

埃及刑法

第二條 重罪トハ法律ノ上ニ於テ左ノ刑中ノ一ヲ用ヒ處罰スル罪犯ヲ云

フ

死刑

無期ノ徒刑

有期ノ徒刑

無期ノ繫獄ノ刑

有期ノ繫獄ノ刑

無期ノ追放

諸般ノ位級ヲ得及ヒ各種ノ公務ヲ行フ權ノ無期ノ剝奪

公權ノ剝奪

第三條 輕罪トハ法律ノ上ニ於テ左ノ刑中ノ一ヲ用ヒ處罰スル罪犯ヲ云

フ

一週以上ノ禁錮

有期ノ追放

官職ノ罷黜

百ピアストル以上ノ罰金

第四條 註誤トハ法律ノ上ニ於テ一週間或ハ一週以下ノ禁錮又ハ百ピア

ストル或ハ更ニ少ナキ罰金ヲ用ヒ處罰スル罪犯ヲ云フ

印度刑法

第五十三條 此刑法ノ條件ニ依リ犯罪人ヲ處罰スヘキノ刑ハ左ニ記載スル所ノ如シ

第一 死刑

第二 流刑

第三 徒刑

第四 囚獄(加苦役及ヒ無苦役)

第五 沒收

第六 贖金

北米合衆國刑法典

死刑

監禁

贖金

加利堡爾尼刑法

第十五條 法律ニ於テ罰スヘキ所爲及ヒ爲ス可キ事ヲ爲ササル懈怠ヲ犯罪ト爲シ左ニ掲クル所ノ刑ニ處スヘシ

第一 死刑

第二 囚獄

第三 贖金

第四 免官

第五 本州ニ於テ信任アル官職ヲ得ルコトノ禁止

土耳其刑法

第三條 重罪ハ施體ノ刑ヲ以テ罰スルモノトス施體ノ刑ハ左ノ如シ

第一 死刑

第二 無期徒刑

第三 有期徒刑

第四 無期禁獄

第五 有期徒刑

刑法釋義 第一編 總則

以上公ニ肆スノ刑ヲ附加ス

第六 無期追放

第七 無期官職剝奪

第八 公權禁止

第四條 輕罪ハ懲治ノ刑ヲ以テ罰スルモノトス懲治ノ刑ハ左ノ如シ

第一 一週間以上ノ禁錮

第二 有期追放

第三 公務免黜

第四 罰金

第五條 違警罪ハ警察違式ノ罪ヲ治スル刑ヲ以テ罰スルモノトス其刑左ノ如シ

一 二十四時間ヨリ少ナカラス一週間ヨリ多カラサル禁錮

二 百ビヤストルヲ過キサル罰金

細々利刑法

第三條 刑ニ處セラレタル者ノ財産ヲ沒收スルコトハ古典ニ於テ重罪トシテ宣告セラレタル刑ノ一タリシト雖モ之ヲ廢シ而シテ其後チ古典ニ定ムル所ノ刑ハ一般ニ廢シタルヲ以テ現ニ重罪ノ刑トスル者ハ左ニ掲クル者ノミトス

第一 死刑

第二 無期徒刑

第三 有期徒刑

第四 監役

第五 流刑

第六 國外追放

第七 政府ノ官吏タルノ禁

第八 治産ノ禁

第二十一條 輕罪ノ目左ノ如シ

第一 禁錮

刑法釋義 第一編 總則

- 第二 監視追放
- 第三 輕追放
- 第四 有期剝權

巴西兒刑法

- 死刑
- 徒刑
- 禁錮
- 追放
- 流刑
- 放逐
- 罰金
- 職務停止
- 免罪
- 布哇刑法

此刑法ニ於テ重罪ノ刑ト爲スモノハ死刑又ハ二年以上ノ禁獄或ハ公權剝奪ヲ云フ

輕罪トハ重罪ニ亞クヘキ刑ヲ云フ

唐律

- 笞刑五 一十 贖銅三斤 三十(三斤) 四十(四斤) 五十(五斤)
- 杖刑五 六十(六斤) 七十(七斤) 八十(八斤) 九十(九斤) 一百(十斤)
- 徒刑五 一年(二十斤) 一年半(三十斤) 二年(四十斤) 二年半(五十斤) 三年(六十斤)

流刑五 二千里(八十斤) 二千五百里(九十斤) 三千里(一百斤)
 死刑二 絞 斬(百二十斤)
 官當(以官當徒者五品以上一官當徒二年六品以上當徒一年以官當流者三流同比徒四年)

除名(除名者官等悉除六載之後聽叙依出身法免官者三載之後降先品二等叙殖贖)

明律

笞刑五 一十(贖銅錢六佰文) 二十(一貫二百文) 三十(一貫八百文) 四十(二貫四百文) 五十(三貫)

杖刑五 六寸(三貫六佰文) 七寸(四貫貳佰文) 八寸(四貫八百文) 九寸(五貫四百文) 一尺(六貫)

徒刑五 一年杖六十(十二貫) 一年半杖七十(十五貫) 二年杖八十(十八貫) 三年杖九十(二十一貫) 三年杖一百(二十四貫)

流刑三 二千里杖一百(三十貫) 二千五百里杖一百(三十三貫) 三千里杖一百(三十六貫)

死刑二 絞 斬
凌遲 贖罪 收贖 罷職不叙 罰俸 記敘降等 刺字 枷號

清律

笞刑五 笞去擊也又訓為耻用小竹板
一十(折四板) 二十(除零折五板) 三十(除零折十板) 四十(除零折十五板)

五十(折二十板)

杖刑五 杖重於笞用大竹板

六十(除零折二十板) 七十(除零折二十五板) 八十(除零折三十板) 九十(除零折三十板) 九十(除零折三十五板) 一百(折四十板)

徒刑五(徒者奴也蓋奴辱之)

一年杖六十 一年半杖七十 二年杖八十 二年半杖九十 三年杖一百
流刑三(不忍刑殺流之遠方)

二千里杖一百 二千五百里杖一百 三千里杖一百
死刑二 絞 斬

凌遲 梟示 戮屍 收贖 贖罪 損贖
罰俸 降級革職罷役 刺字盜刺右臂逃刺左臂徒流軍犯并刺面上 枷號

大寶律

笞罪五 一十(贖銅一斤) 二十二斤 三十三斤 四十四斤 五十五斤
杖罪五 六十六斤 七十七斤 八十八斤 九十九斤 一百十斤

徒罪五 一年(二十斤) 一年半(三十斤) 二年(四十斤) 二年半(五十斤) 三年(六十斤)

流罪三 近流(一百斤) 中流(一百二十斤) 遠流(一百四十斤)

死罪二 絞 斬 二 死贖銅(各二百斤)

那威刑法

第十五條 一般ノ刑ハ禁錮、拘留及ヒ金刑トス

特別ノ場合ニ於テハ公ノ職務ノ喪失ヲ適用ス

第十六條 左ノ副刑ハ第十五條ニ記載シタル刑ト共ニ之ヲ併科スルコト

ヲ得

(一) 一定ノ權利ノ喪失(二九)

(二) 一定ノ場所ノ逐斥(三三)

(三) 判決ノ告示(七三及ヒ二五〇)

(四) 一定ノ物件ノ沒收(三四)

第二 釋義 本條ハ刑名ニ關スル規定ニシテ舊刑法第六條乃至第十條ノ規定

ヲ總合シタルモノナリ

本法ニ於テモ舊刑法ノ如ク刑ニ主刑及ヒ附加刑ノ區別ヲ設ケ主刑ハ死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ノ六種トシ附加刑ハ沒收ノ一種ニ限レリ

本法ハ舊刑法ノ死刑ヲ存置シタリ蓋シ死刑ノ存廢ニ付テハ從來學者間ニ於ケル攻究ノ問題トシテ大ニ論争スル所ニシテ隨テ未タ一定ノ學說ヲ生スルニ至ラスト雖モ之ヲ廢スヘシトスルノ理由ハ概ネ左ノ論旨ニ歸着スヘシ

第一 政策上ヨリ之ヲ論スレハ死刑ヲ存置スヘキ理由ナキニアラスト雖モ之ヲ法律上ヨリ論スルトキハ毫モ根據ナキモノト謂ハサルヲ得ス抑モ死刑制度ハ刑法カ復讐主義ヲ採リシ古代ノ遺例ニシテ文明ノ今日ニ之ヲ存スルハ一面ニ於テハ法律ノ威信ヲ損シ他ノ一面ニハ主義ノ上ニ於テ全然容ル可ラサル矛盾ヲ生スヘシ國家ハ人ヲ殺スモノヲ以テ非ナリトシ且ツ發行トス而シテ之ヲ制裁スルニ當テハ己レ自ラ發行ナリトスル所ヲ以テ天下豈ニ如此矛盾ナルコトアランヤ今日ニ於テ刑罰ノ基礎ニ就テ詳説スルノ愚ヲ須キス復讐ノ觀念ヲ以テ刑法

ヲ編制セシ時代ハ最モ古キ過去ニ屬ス然ルニ人ヲ殺シタル者ハ死刑ニ處スト云フカ如キハ明ニ復讐主義ヲ採用スルモノト云ハサルヘカラス又死刑ヲ存シテ之ニ依リ特別ノ豫防若クハ一般豫防ノ上ニ於テ著シキ効驗アリヤト云ヘハ何人ト雖モ之ヲ否定スルニ躊躇セサルヘシ特別豫防ノ上ヨリ觀察スルモ人ヲ殺ス如キ者ハ己レモ亦生ヲ全フスルコトヲ得サルハ豫期スル所ナリ豫期スル所ノモノニ對シ豫期スルト同一結果ヲ生スヘキ刑罰ヲ以テス犯人ニ對スル刑トシテハ殆ント何等ノ効ヲ見ルコト能ハサルヘシ又一般豫防ノ上ヨリ論スルモ犯罪ノ動機ハ常道ヲ以テ律スヘキモノニアラス人ヲ殺シ火ヲ放テハ死刑ニ處セラレル底ノコトハ死刑ノ存置セシ歴史ノ永續セシタケ人ノ腦裏ニ浸透セシコトナルニモ拘ハラズ今日ノ狀態果シテ如何斯ル事犯續發スルニアラスヤ以テ死刑ナル刑罰ノ世人ヲ警戒スルニ足ラサルコトヲ證スルニ足ル加之死刑ニ誤判多キハ爭フヘカラサル事實ニシテ歐洲諸國ニ於ケル死刑廢止ノ理由トシテ最モ重キモノノ一ニ屬

ス乃チ誤判ニ因リ一旦死刑ヲ執行セラレトキハ後日其誤判タルコトヲ證スル確的ノ證據ヲ發見スルモ之ヲ再審スルノ途ナカルヘシ微々タル刑罰ニ付テハ再審ノ制度アルニ拘ハラズ死刑ノ如キ大罪ニ向テハ再審ノ制度アリト雖モ其理由ヲ執行後ニ發見シタル場合ニハ直ニ之ヲ回復スヘカラスト云フニ至テハ法律ノ恩典ハ微罪ニ厚フシテ大罪ニ薄キモノト云ハサルヘカラス否寧ロ何等ノ利益ヲモ授與セサルモノト云フモ過言ニアラサルヘシ之ヲ各國ノ立法例ニ徵スルニ伊太利ノ如キ和蘭ノ如キ諾威ノ如キハ全然之ヲ廢止シ佛蘭西ノ如キハ客年ノ議會ニ於テ原則トシテ死刑ヲ廢スヘキコトヲ議決シ英吉利ハ死刑ヲ存スルモ實際ニ於テ之ヲ執行シタルコトナシ獨逸刑法ニハ死刑ヲ存スルモ議會ニ於テハ二讀會マテハ大多數ヲ以テ死刑廢止案ヲ通過セシモ三讀會ニ於テ七八名ノ少數ヲ以テ否決セラレタリ如此世界ノ趨勢ハ死刑廢止ニ傾ク刻下ニ於テハ斷然之ヲ廢止スルハ最モ策ノ得タルモノト云ハサルヘカラス況ンヤ之ヲ廢シテ國家ノ生存ヲ危

クスルノ虞アルナク又此極刑ヲ以テスルニアラサレハ罪刑共ニ衡平ヲ得サルコトナキニ於テオヤ

第二

人類カ人類ヲ殺スノ權ナキハ明白ナル理由ナルノミナラス世界如何ナル國ト雖モ之ヲ禁制セサルモノナカルヘシ既ニ國家刑法典ノ上ニ於テ人ヲ殺ス勿レト命スル以上ハ國家ノ權力ト雖モ決シテ人ヲ殺スノ權能ナカルヘシ如此論スルトキハ國家ハ戰爭ノ場合ニ於テ人ヲ殺スニアラスヤトノ批難ヲ生スヘキモ開ハ正當防衛ノ實ニ已ムヲ得サルニ出ル所ノモノニシテ決シテ國家カ權力ヲ以テ人ヲ殺スノ權利アリトシテ戰爭ヲ爲スニアラス死刑ハ實ニ法律ノ命令ヲ以テ人ヲ殺スコトヲ許スノミナラス之レヲ強制スル極メテ慘酷ナルモノニシテ天理人道ニ悖戾スルノ甚シキモノト謂ハサルヘカラス反對論者ハ本法ニ於テハ死刑ハ單ニ之ヲ定メスシテ範圍ヲ廣クシ各本條ニ存スル死刑ニシテ固定ノモノハ極メテ僅少ナレハ之ヲ存スルモ差支ナント云フト雖モ既ニ死刑ヲ存スル以上ハ裁判官ノ意思如何ニ因リ之ヲ適用

スルコトヲ得ルモノナレハ之ヲ以テ死刑ヲ存スルノ理由ト爲スニ足ラス

然レトモ本邦今日ノ狀態ニ於テハ到底死刑ヲ全廢スルコトヲ許ササルヘシ新聞紙ノ報スル所ニ依ルモ殘酷ナル犯罪人ヲ生スルコト頗ル頻繁ニシテ或ハ尊屬親ヲ殺戮スルモノアリ又ハ配偶者ヲ慘殺スルアリ近クハ稻妻強盜ノ如キ殺人強盜強姦脫獄殆ント擇ム所ナシ如此者ニ向テ終身之ヲ監獄ニ拘留シ國家ノ經費ヲ以テ之ヲ收治スルハ管ニ其必要ナキノミナラス時ニ或ハ脱獄逃走ヲ爲スノ虞ナキヲ保セス良民ハ常ニ不安ノ念ヲ懷テ一日モ其塔ニ安ンスルヲ得サルヘシ這ハ唯最近ニ起リシ實際ノ事例ニ過キスト雖モ内亂罪ニ於ケル死刑ノ如キハ事皇室ニ關スルモノアリ又皇室ニ對スル罪ニ於ケル死刑ノ如キハ我國體上決シテ之ヲ廢止スルコトヲ得サルモノトス已ニ此等ノ罪ニ對スル適應ノ刑トシテ存置ヲ必要トスル以上ハ之ヲ主刑ト爲スヘキハ當然ニシテ況ンヤ本法ニ於テ死刑ヲ固定ノ刑トシテ科シタル場合ハ全般ヲ通シテ其數僅ニ二三ニ過キヌ即チ皇室ニ對スル重大ナル犯罪内亂及外患

罪ニ於ケルモノ等ニ限リ餘ハ殺人罪ノ如キ強盜殺人罪ノ如キ概ネ死刑無期懲役又ハ七年以上ノ懲役ニ處スト云フカ如ク單ニ死刑ノミヲ科スヘキモノトセス乃チ死刑ノ執行ハ罪質上止ムヲ得サルモノニ限定シ其他ノ罪ニ付テハ特ニ之ヲ慎重ニ爲スヘキモノナルコトヲ明示シタルモノニシテ之ヲ從來ノ法制ニ比較シ一段ノ進境ニ在リト謂ハサルヘカラス惟フニ法律ハ沿革ノ上ニ立ツヘキモノニシテ其歴史ニ於テハ大ニ之ヲ尊重セサルヘカラス殊ニ死刑ニ付テハ最モ然リ死刑カ久シキ以前ヨリ行ハレタルモノナルコトハ喋々ヲ要セサル所ニシテ殊更ニ其歴史ヲ詳説スルヲ須ヒス況ンヤ遺傳的ノ犯罪習癖ヲ有スル者ニ對シテハ如何ニ之ヲ懲治スルモ實益ナキニ於テオヤ

懲役及ヒ禁錮ハ共ニ本法ノ新ニ認メタル自由刑ニシテ懲役ニハ定役ヲ科シ禁錮ニハ之ヲ科セス舊刑法ハ重罪輕罪ノ自由刑ヲ分テ數種ト爲シ定役アル自由刑ハ無期有期ノ徒刑重懲役輕懲役及ヒ重禁錮トシ定役ナキ自由刑ハ無期有期ノ流刑重禁獄輕禁獄及ヒ輕禁錮ト爲スト雖モ畢竟刑期ノ長短ニ依リ

之カ輕重ヲ區別スルニ過キス隨テ其執行方法ニ至テハ徒刑流刑囚ノ拘禁ノ場所ヲ異ニスルノ外殆ント其輕重ヲ區別スヘキ標準ナキノミナラス實際ノ行刑上毫モ等差アルコトナシ斯クノ如ク自由刑ニ多數ノ階級ヲ設ケタル結果トシテ刑期ノ範圍狹キニ失シ現時殆ント其弊ニ堪ヘサルモノアリト聞ク本法ニ於テ幾多ノ議論アルニ拘ハラス重罪輕罪違警罪ノ區別ヲ廢シ刑名ヲ減セシハ蓋シ自由刑ノ刑期ノ範圍ヲ擴張シ裁判官ヲシテ罪狀ニ適應スル科刑ノ自由ヲ與ヘシムルニ在ルモノノ如シ是ヲ以テ本條ハ舊刑法ノ徒刑懲役及ヒ重禁錮ヲ合シテ之ヲ懲役ト爲シ流刑禁獄及ヒ輕禁錮ヲ合シテ之ヲ禁錮ト爲シ定役ノ有無ニ依リテ判然二者ヲ區別セリ

定役ノ有無ヲ以テ自由刑ヲ區別スル法制ニ付テハ學者及ヒ實際家ノ間多少ノ議論ナキ能ハス之ヲ否トスル論旨ハ極メテ短期ノ自由刑ニ付テハ定役ヲ科セサルモ格別ノ支障ナシト雖モ較々長期ノ自由刑ニ無定役ノ制ヲ採用スルハ各種ノ方面ヨリ之ヲ觀察シテ決シテ策ノ得タルモノニアラス舊刑法ニ於テ流刑禁獄輕禁錮ノ如キ無定役ノ自由刑ヲ採用シタルハ國事犯者ノ如キ

之ヲ普通犯ニ比スレハ犯人ノ意思其他身分上ノ關係ニ於テ大ニ趣ヲ異ニスルモノアルヨリ之ヲ優遇スルノ意思ニ基ケルモノナルニシト雖モ畢竟勞働ヲ賤シムノ餘弊ニ出ラタルモノニシテ執行上ノ狀態ニ於テモ定役ナキ刑ヲ輕シト爲スハ大ナル誤謬ナリト謂ハサルヘカラス殊ニ犯人ノ受クル所ノ苦痛ハ定役刑ニ優ル數倍ナルモノアリ實際ノ上ヨリ之ヲ觀察スルモ定役ヲ科スルト云ヘハ稍々不潔ナル感ナキニアラスト雖モ監獄法規ノ示ス所ニ依レハ監獄ニ於テ定役ヲ科スルニハ其人ノ身分、健康、年齡、技能其他ノ關係ヲ斟酌シテ定ムヘキモノニシテ科役ノ方法ニ於テハ當該官ノ斟酌ニ依リ適應ノ區別ヲ爲スコトヲ得ヘキノミナラス監獄當局者ノ云フ所ニ依レハ實際無定役ノ犯人ニ及ホス苦痛ノ程度ハ眞ニ豫想外ニシテ自ラ進ンテ役業ヲ科セラレムコトヲ出願スルモノ頗ル多キニ在リト云フニ徵スルモ定役ノ有無ヲ以テ罪ノ輕重ヲ定ムルコトノ不當ナルコトハ論ヲ待タス故ニ刑名ハ懲役トスルモ禁錮トスルモ擇ム所ナシト雖モ要スルニ之ヲ合シテ一トシ總テ定役ヲ付スルコトトシ其執行方法ハ之ヲ監獄法ニ讓ルノ法制ヲ採ルノ優レリト云フ

ニ在リ然レトモ勞働ノ神聖ナルコトハ論ヲ俟タスト雖監獄ニ於ケル勞働ハ人ヲ役スルノ勞働ニアラスシテ罪ヲ償フ爲メノ勞働ナレハ普通所謂勞働神聖論トハ容レサル所アリ國事犯者ニ對シ無定役ノ刑ヲ科スルノ制度ハ古來ノ慣習ニシテ如此犯人ニ對シテハ單ニ之ヲ拘禁スルヲ以テ足ルモノアリ故ニ定役ヲ科ス可キ刑ト之ヲ科セサル刑トノ區別ヲ設クルモ強チ不當ノコトニアラス

罰金ヲ刑ノ一種ト爲スハ罪質ニ適應スル必要ニ基クモノニシテ舊刑法ト全然其趣旨ヲ同フス唯本法ニ於テハ罰金ヲ主刑トシ舊刑法ニ規定スル附加ノ罰金ヲ認メス是レ主刑タル罰金ト附加刑タル罰金トノ間ニハ何等實質上ノ差異ナク其金刑タル上ニ於テハ全然其軌ヲ一ニスルヲ以テナルヘシ

拘留及ヒ科料ハ舊刑法上違警罪ノ主刑タルモノニシテ本條亦之ヲ存置ス此刑ニ付テハ左ノ數說アリ

第一 刑法典中ニ編纂スヘキモノニアラス寧ロ之ヲ特別法ニ讓ルヲ可トス其理由トスル所ハ本法各本條ヲ通覽スルモ拘留科料ヲ科スヘキ場合ハ極メ

テ僅少ニシテ其大部分ハ之ヲ特別法ニ譲リ現行法ノ違警罪目ハ全然之ヲ削除シタル趣旨ヨリ云フモ特ニ之ヲ刑法中ニ存スルノ必要ナシト云フニ在リ

第二 拘留科料ノ刑名ヲ廢シ現行法及ヒ本法各條中ニ記載スル拘留科料ニ處スヘキ事犯ニ付テハ凡テ之ヲ行政處分ニ任スヘシ其理由トスル所ハ立法ノ便宜ヲ計ルニ在リ由來違警罪ハ取締罰ニ過キサレハ之レヲ行政處分ニ一任シ其改廢ハ時ノ便宜ニ從フヲ捷徑トス第三 科料ノ刑ヲ廢シ凡テ之ヲ罰金トスヘシ其理由トスル所ハ本法ニ於テハ科料ト罰金ハ之ヲ區別スル理由ナク唯金額ノ多寡ニ依リ差別アルニ過キス舊刑法ノ如ク重罪、輕罪、違警罪ノ區別アルハ刑名ヲ異ニスル必要アリト雖モ本法ニ於テ其區別ヲ廢シタル以上ハ寧ロ刑名ノ中ヨリ除去スルヲ相當トスト云フニ在リ

第一第二說ハ理由ヲ異ニスルモ之ヲ特別法ニ譲ルヘシト爲ス點ニ於テハ同一ナリ然レトモ之ヲ特別法ニ譲ルノ可否ヲ決定スルニ當テハ刑事法ニ於ケル刑名ハ刑法ニ規定スル以外ノモノヲ制定スルコトヲ許スヤ否ヤノ先決問題アリ之ヲ許ストセハ等シク刑事法ナルモ其内容ニ至テハ各種ノ刑名ヲ設

クルコトトナリ之ヲ統一スル上ニ於テ不便少ナカラサルノミナラス由來刑法ハ刑事法全般ニ通スル根本法ナレハ刑法ニ規定スル以外ノ刑名ヲ設クヘキ理由ナク隨テ特別法ニ譲ルモ刑名ハ刑法典中ニ必ス之ヲ存セサルヘカラス第三說ニ付テハ本條ニ於テ罰金ト別異シテ科料ヲ認メタルハ畢竟從來ノ法制ヲ踏襲シタルモノニ過キス從テ特ニ之ヲ廢スヘキ必要ト實益トヲ認メサルニ由ルモノナルヘシ

附加刑ハ沒收ノ一種ニ限リ舊刑法ニ規定シタル附加罰金、剝奪公權、停止公權及ヒ監視ヲ廢止シタリ

舊刑法ニ於テハ附加刑トシテ一定ノ資格ヲ喪失セシムルノ制ヲ採用シ罪ノ輕重ニ依リ剝奪公權及ヒ停止公權ニ關スル規定ヲ設ケ一定ノ罪ニ對スル附加刑トシテ資格喪失ノ效果ヲ連結シタリト雖モ本法ニ於テハ此刑名ヲ廢止シ犯罪ノ效果トシテ資格ヲ喪失セシムルノ規定ハ總テ之ヲ特別ノ法令ニ讓ルコトト爲シタルモノノ如シ蓋シ公權剝奪ニ關スル規定中ニ存スル事項ハ其ノ多數ハ天皇ノ大權ニ屬スルモノニシテ之ヲ法律ニ規定スルハ適當ナラ

ス假リニ大權事項ヲ法律ニ於テ規定スルコトハ支障ナシトスルモ其結果ニ就テ之ヲ考慮スレハ舊刑法ニ於テハ重罪ニ處セラレタル者ト公權ヲ剝奪セラルル場合極メテ多キニ拘ラス實際ノ取扱ハ尙之ニ満足セス特別ノ法令ニ於テ之ヲ補足セシモノ少シトセス假令ヘハ衆議院議員選舉法ノ如キ選舉權被選舉權ヲ制限シタル規定ノ中ニ剝奪公權者ノミナラス及停止公權者ヲ加ヘ尙ホ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者ヲ加フルカ如ク其他多數ノ法律ヲ見ルニ舊刑法ノ剝奪公權者ノミノ制限トナリ居ルモノハ極メテ稀レニシテ率ネ禁錮ノ刑ニ處セラレ或ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ或ハ監視中ノ者或ハ刑事裁判所ノ裁判ニ付セラレタル者等ノ法文ヲ規定スルモノ少ナカラス以テ舊刑法ノ剝奪公權ノミニテハ實際ノ必要ヲ充タスコト能ハサルヲ證スルニ足ル故ニ本法ハ凡テ之ヲ特別法令ニ讓リタルモノト解釋スルノ妥當ナルヲ認ム

今試ニ第二案以下ニ掲ケタル公權剝奪ノ效果ニ就キ查察スルニ公權剝奪ノ效果ハ之ヲ分テ五號トス其第一號ハ法令ニ定メタル選舉ニ付キ選舉權被選

舉權ノ喪失ナリ此等資格ノ喪失ハ法律ニ於テ定ムヘキ事項ニシテ現ニ他ノ法律ヲ以テ規定シアレハ刑法中ヨリ之ヲ除クモ大ナル影響ヲ及ボサス其第二號ノ公務員タル資格ノ喪失ニ付テハ法律ヲ以テ其資格ヲ定メタルモノアリ又一般ノ官吏ニ付テハ命令ヲ以テ定メタルモノアレハ是レモ亦影響ヲ及ボス虞ナシ第三號ハ位記勳章年金恩給及ヒ退職料ヲ有スル資格ノ喪失ナリ位記勳章年金ノ如キ其授奪ハ一ニ大權ノ發動ニ依ルヘキモノナレハ其實體并ニ手續ハ命令ヲ以テ定ムルヲ得ヘク恩給退職料ノ如キハ現ニ恩給法ノ規定アレハ之ヲ削ルモ何等實際ニ差支ヲ生スルコトナカルヘシ其第四號ハ外國ノ勳章ヲ佩用スルコトノ禁止ナリ外國ノ勳章ハ勅許ヲ以テ始メテ佩用スルコトヲ得ルノ法規ナレハ命令ヲ以テ定ムルヲ得ヘク第五號ノ兵籍ニ入ル資格ノ喪失ハ徵兵令ニ規定スルヲ以テ見ルヘク要スルニ刑法中ヨリ公權剝奪ノ規定ヲ削除スルモ他ニ法律ヲ以テ之ヲ補足シ或ハ命令ヲ以テ規定セハ運用上別段ノ支障ナキモノトス

監視ノ可否ニ付テハ從來種々ノ議論アリシカ本法ニ於テハ斷然之ヲ廢止セ

リ願フニ舊刑法ニ於テ監視ノ制度ヲ採用シタル目的ハ被監視人ノ操行ヲ監視シ之ニ累犯ノ動機ヲ與ヘサルニ在リ然ルニ監視ニ關スル規定ハ極メテ煩苛ニ失シ被監視者ノ自由ヲ制限スルコト甚シク爲ニ監視規則ニ違犯スル者累年其數ヲ増加シ却テ之ヲ設ケタル目的ニ背戾スルノミナラス一面ニ於テハ改過遷善ノ途ヲ妨害シ往々ニシテ前科者ナルコトノ表章ト爲リ直ニ刑除ノ人タルコトヲ表明シ正當ノ業務ニ就カントスルモ忽チ信用ヲ失墜シ爲メニ自暴自棄ニ陥ルモノ少ナシトセス殊ニ前科者ノ操行ヲ觀察シ之ヲシテ累犯ニ陥ラシメサルノ監督ハ特ニ法令ノ規定ヲ待ツヲ要セス警察官當然ノ職責ニシテ其職權内ニ於テ自ラ適當ナル方法ナキニアラス故ニ本法ニ在テハ全ク行政處分ノ監督ニ一任スルヲ至當トシ今期ノ改正ニ於テ始メテ之ヲ廢止セルモノノ如シ

沒收ニ付テハ其根本ニ於テ種々ノ議論アリ第一沒收ハ多クノ場合ニ於テハ刑ト看ルヘキモノニアラスシテ警察處分ト看ルヘキモノナリ即チ其物犯人ノ所有ニアラサル場合ニ於テハ多クハ行政處分ヲ以テ之ヲ沒收スル場合ニ

シテ刑トシテ殘ルヘキ範圍ハ極メテ狭少ナレハ寧ロ附加刑トシテノ沒收ハ之ヲ廢止シ刑ノ性質ヲ帶フルモノニ限リ主刑トシテ他ノ刑ト共ニ之ヲ併科スヘシト説クモノアリ第二沒收ハ刑法中ヨリ之ヲ削除スヘシトスルモノアリ其理由トスル所ハ元來沒收ノ性質ニ就テ考察スレハ恐ラクハ行政取締ノ必要ヨリ生シタルモノナルヘク行政法ノ處分トシテハ行政執行法其他ノ特別法令ニ於テモ沒收ノ規定ヲ掲ケタル所アリ假ニ刑ノ性質ヲ帶フルモノトスルモ特ニ之ヲ附加刑トシテ刑法典ニ規定スルノ必要ヲ認メス要スルニ實質上行政警察處分ニ屬スルヲ以テ寧ロ他ノ行政處分ニ一任スヘシト云フニ在リ

第一ノ説ハ一理ナキニアラスト雖モ之ヲ主刑トスルトキハ獨立シテ沒收ノミヲ言渡スコトヲ得ルモノト爲ササルヘカラス若シ論者ノ云フ如ク其多クノ場合ニ於テ行政處分ニ屬スヘキモノトシ刑トシテ科スヘキ範圍ハ極メテ狭少ナリトセハ其最モ狹隘ナル範圍内ニ於テ獨立ニ沒收刑ノミヲ適用スヘキ場合ハ絶無ニハアラサルヘキモ殆ント豫想スルコト能ハス加之之ヲ主刑

トスルモ實際ノ適用ニ付テハ殆ント附加刑ト擇ム所ナカルヘシ第二ノ說ニ付テハ多クノ場合ニ於テハ之ヲ行政處分ニ一任スルモ支障ナキモノノ如シト雖モ偽造貨幣ノ沒收ノ如キハ從來問題トナリタルコトアリ又沒收ハ必スシモ所有者ノ所有物ヲ國ノ所有トスルノ意義ノミニ限ラス國法ヲ以テ他人ノ所有物ヲ沒收スル必要アリ之ヲ一種ノ刑トシテ存スルノ必要ナキニ非サレハ附加刑トシテ一種ナルニ拘ハラズ之ヲ存置スルハ實際ノ必要ヨリ生シタル法制ニシテ實ニ已ムヲ得サル所ナルノミナラス沒收ヲ附加刑トシテ刑法典ニ之ヲ規定スルノ法制ハ從來歴史ヲ有スルコトニシテ特殊ノ弊害アルニ非ラサレハ特ニ之ヲ行政處分ニ讓ルノ必要ヲ認メサレハナリ本法ニ於テ此法制ヲ採用セシハ蓋シ如上ノ理由ニ基ケルモノナルコトヲ推知スルニ足ル

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ヲ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス
二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

第一 沿革

第一案 缺如

第二案 第十一條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス
同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトス
二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

第三案 第十條 本條ト同文

第四案 第十條 同上

第二 釋義 本條ハ主刑ノ輕重ヲ定ムル標準ヲ示スモノニシテ舊刑法ノ缺如スル所タリ本條ノ規定スル事項ハ第一項但書ヲ除ク外概ネ明瞭ニシテ殆ント其必要ナキカ如シト雖モ若シ此種ノ規定ナカラシ乎實際ノ取扱上疑義ヲ生スルコトヲ免レス第一項ハ異種ノ刑ニ付キ規定シタルモノニシテ死刑ヲ以テ最重ノ主刑トシ懲役之ニ次キ禁錮更ニ之ニ次キ罰金、拘留之ニ次キ科料ヲ以テ最輕ノ主刑トス然レトモ無期禁錮ト有期懲役トハ當然無期禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ト雖モ其刑期、有期懲役ノ刑期ヨリ長キトキハ場合ニ依リ有期懲役ヨリ重キモノト爲スコトヲ明ニセリ第二項及ヒ第三項ハ同種ノ刑ニ付キ規定シタルモノニシテ更ニ刑期ノ長短、金額ノ多寡ニ差異アル同種ノ刑ト否ラサル同種ノ刑トニ區別シ其差異アルモノニ付テハ第二項ニ記載シタル標準ニ依リ、其差異ナキモノニ付テハ第三項ニ記載シタル標準ニ依リテ其輕重ヲ定ムルコトトセリ

第三 異說 實際ノ事例ニ於テハ禁錮若クハ拘留ヨリ罰金科料ノ方重キ場合

アリ本條ノ如ク主刑ノ輕重ヲ前條記載ノ順序ニ依ルコトト規定スルトキハ實際ノ事情ニ適合セサル嫌アルヲ免レス又第三項ノ規定ニ依レハ二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及短期若クハ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ定ムルコトトナレトモ抑モ罪ノ輕重ハ刑ニ依リ定ムヘキモノニシテ刑以外ニ之ヲ定ムヘキ標準ヲ發見スルコト能ハス依テ此場合ニ於テハ二者其一ヲ執ルノ制ヲ採用シ少クモ第三項ハ削除スヘキモノナリ

第四 異說ニ對スル說明 本條ノ趣旨刑ヲ標準トシテ輕重ヲ定ムルモノナルコトハ勿論ナリト雖モ併合罪ノ規定等ニ於テ罪ノ輕重ヲ定メサルヘカラサル場合アリ全然之ヲ削除スルコトヲ得サルノミナラス假令ヘハ二ツノ犯罪アリテ孰レモ五年以下ノ懲役或ハ十年以下ノ懲役トアリテ本刑トシテハ其輕重ヲ定ムヘキ途無キ場合ヲ生スヘシ此場合ニ於テハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ムル外他ニ良策ナキヲ以テ已ムヲ得ス第三項ノ規定ヲ設ケタルモノナルヘク畢竟一ノ便法タルニ過キサレヘシ

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

第一 沿革

第一案 第十四條 死刑ハ絞首シテ之ヲ執行ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シテ獄内ニ於テ之ヲ執行ス

第二案 第十二條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

第三案 第十一條 第二案ニ同シ

第四案 第十一條 第二案ニ同シ

第三 參照法律

現行法

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

佛蘭西刑法

第十二條 死刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ之ヲ刎首ス可シ

第十三條 尊屬ノ親ヲ殺セシニ因リ死刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ縲絆ノ儘踏

足トシ頭ニ皂被ヲ蒙ラシメ刑場ニ連レ行クヘシ

此犯人ハ裁判所使吏ノ罪案ヲ衆庶ニ讀ミ聞スル時間刑壇ノ上ニ肆シ置

キ罪案ヲ讀ミ終リシ後直ニ之ヲ刑ニ處ス可シ

第二十六條 死刑ノ執行ハ言渡書ニ記載シタル地ノ街衢ニ於テ之ヲ爲ス可シ

白耳義刑法

第八條 凡ソ死刑ニ該ル者ハ斬首タルヘシ

第九條 凡ソ斬首ハ其判決狀ニ記スル地ニ於テ公ケニ之ヲ行フ可シ犯人ハ僧ヲ伴ハシメ牢舎ヲ以テ處刑場ニ送致セララルル者トス是ニ於テ刑架

ノ下ニ引キ直ニ斬ヲ行フ可シ

獨逸刑法

第十三條 凡ソ死刑ハ斬首ス

治罪法第四百十一條 死刑ハ閉園内ニ於テ之ヲ行フヘシ
行刑ノトキハ初審裁判官二名、檢事一名、裁判所書記一名、監獄吏一名ノ立
會ヲ要ス、其他該地ノ區長ニ照會シ、總代人或ハ他ノ威權アル者十二人出
會セシム

其他犯人ノ懺悔ニ供スヘキ爲メ、僧侶一名、附添人一名及ヒ刑官ノ許諾ヲ
以テ其他ノ人員ヲ入場セシムルコトアルヘシ

英吉利刑法典

死刑ハ絞首ス

ジョーヂ第四世成文律ニ死刑ヲ宣告スルトキハ其日ヨリ三日後ニ之ヲ
行フコトヲ言渡スヘシ、但日曜日ニ當ルトキハ必ス月曜日迄之ヲ延スヘ
シ
其刑ヲ行フ場所ハ犯人ノ終ニ繫囚セラレタル囚獄内ニ於テ行刑官吏、獄
監、僧徒、醫師、裁判役、囚ノ親屬、其他該官吏ノ許可スル人ノ面前ニ於テ之ヲ
行フ

若シ絞刑ヲ行ヒ其繩ヲ伐リ落ス後蘇生スルコトアレハ更ニ再ヒ之ヲ絞
スヘキモノトス

奧地利刑法

死刑ハ落斧架ニテ首ヲ斬リ以テ之ヲ行フヘシ

奧地利刑法草案

第八條 死刑ハ絞首ヲ以テ之ヲ執行ス

族法上ノ裁判手續ニ在リテハ又絞殺ヲ以テ之ヲ執行スルコトヲ得ルモ
ノトス

露西亞刑法

第二十條 死刑ノ方法ハ裁判所ニ於テ本刑宣告書中ニ之ヲ定ム
第七十三條 特別ノ勅命ヲ以テ或ル場合ニ於テハ死刑ヲ換フルニ死刑言
渡ヲ受ケタル者ヲ刎首臺下横木ノ所ニ牽引シ或ハ公ケノ場所ニ於テ之
ヲ絞臺ノ下ニ送致シ其頭上ニ於テ劍ヲ抜キ放ツ之ヲ準死ノ式トシ、後流
刑ニ處シ終身或ハ有期苦役ノ刑ヲ加フ

瑞典刑法

死刑ハ首ヲ斬テ之ヲ行フヘシ(刑法草案委員會案ニ於テハ死刑ヲ廢止ス)

西班牙刑法

死刑ハ公ケニ之ヲ決行ス罪人ニ黒キ外套ヲ被セ二輪車ニ載セ刑場ニ挽ク
喚吏之ニ伴ヒ高聲ヲ以テ屢々刑ヲ唱ヘ刑場ニ到レハ鐵鎖ヲ其頸ニ纏繞シ
以テ之ヲ絞殺ス

國王ヲ弑シ父母ヲ殺ス者ハ特ニ其刑ヲ嚴ニス國王ヲ弑スル者ハ驢馬ニ乘
セ刑場ニ挽ク其帽ハ黄色ニ赤色ノ斑文アリ而シテ之ヲ刑スルハ其罪ヲ犯
シタル時ト同時ニスヘシ又日暮前一時間マテ其屍ヲ肆ス

巴西兒刑法

第三十八條 死刑ヲ行フニハ縊架ヲ用フ可シ

第四十條 死刑ノ囚ハ通常ノ衣服ヲ着セ其常ニ通行セシ所ノ道ヲ通り又
此地ノ裁判官書記ト死刑ヲ行フ時ニ要スル所ノ兵員トヲ伴ヒ罪囚ヲ刑
場ニ連行スヘシ而シテ叫喚人一人前ニ進ミ死刑ノ判決書ヲ高聲ニ朗讀

細々利刑法
スヘシ

第四條 死刑ヲ執行スルハ斬絞及ヒ銃殺ヲ以テス

第五條 死刑ハ之ヲ公ケノ場所ニ於テ執行ス

若シ法律上絞ニ處スヘキコトヲ別ニ記載セサルトキハ總テ死刑ハ斬ニ
處スヘシ又陸軍刑法ニ定メタル場合ニ於テ軍官或ハ軍法會議ヨリ罪犯
ノ宣告ヲ受ケタルトキハ之ヲ銃殺スヘシ

第六條 若シ法律ニ特別公示ノ方法ヲ以テ執行スヘキコトヲ記載スルト
キハ左ノ方法ニ依テ決行ス

- 一 重罪ヲ犯シタル場所又ハ其近接ノ地ニ於テス
- 二 罪犯ヲ跳足セシメ黄色ノ衣ヲ着セ重罪ト大書シタル標榜ヲ其腦部
ニ着ケ刑場ニ連レ行クコト
- 三 罪犯ヲ跳足セシメ黒色ノ衣ヲ着セ及ヒ黒色ノ蔽被ヲ以テ面部ヲ蓋
ヒ之ヲ刑場ニ連レ行クコト

四 罪犯ヲ跣足セシメ黑色ノ衣ヲ着セ及ヒ黑色ノ蔽被ヲ以テ面部ヲ蔽
ヒ刑場ニ連レ行キ乖神者ト大書シタル標榜ヲ其腦部ニ着ケ小車ノ
上部ニ裝置シタル板上ニ繫立セシムルコト

印度治罪法

第三百二十一條 死刑ノ宣告ヲ爲ストキハ其宣告書ニ其頸ヲ絞シテ死ニ
至ラシムルコトヲ明言スヘシ

刑法第五十四條 凡ソ死刑ヲ宣告シタル場合ニ於テハ印度政府又ハ死刑ヲ
宣告シタル場所ノ政府ハ犯罪者ノ承諾ヲ待タズ死刑ヲ輕減シ之ニ換フル
ニ該刑法ニ掲クル他ノ刑ヲ以テスルコトヲ得ヘシ

加利堡爾尼刑法

第一千二百二十八條 死刑ヲ行フ者ハ必ス罪囚ヲ絞シテ死ニ至ラシムル
コトヲ要ス

第一千二百二十九條 死刑ハ必ス之ヲ獄舎ノ牆内若クハ其郡中便宜ニシ
テ公ケナラサル地ニ於テ之ヲ行フコトヲ要ス此時ニハ其郡ノ行法官必

ス之ニ臨ミ醫師一名其郡ノ區代言官一名及ヒ行法官ノ選擇スル所ノ賢
明ナル人十二名以上ヲ邀ヘテ其場ニ臨マシムルコトヲ要ス又罪囚ノ請
求アルトキハ其名指ス所ノ宗教官二名以下及ヒ囚ノ親屬朋友五名以下
ヲ其場ニ臨ムコトヲ許シ又時宜ニ依リ警察官吏ヲシテ其行刑ヲ實檢セ
シムルコトアリ此外ニハ人ヲ禁シテ其場ニ入ラシメヌ又未丁年者ヲシ
テ決シテ入ラシムヘカラス

第一千二百三十條 行刑已ニ終リタルトキハ行法官ハ其行刑ノ時間方法
所行ヲ記載シテ行刑證書ノ復命ヲ爲スヘシ

北米合衆國刑法

第五千三百二十五條 死刑ハ絞首ス

第五千三百二十九條 死刑ニ處セララル者ハ僧徒ト雖モ免サス(案スルニ
昔時僧徒ハ罪ヲ犯スト雖モ其刑ヲ免レタリ)

清律

絞斬 斬者身首異處絞者止畢其命猶全其體

死刑三箇

凌遲 極刑外之極刑也其法乃寸而磔之必至體無餘樹然後男則割其勢女則閉其幽割其腹出其臟腑以畢其命仍為處分節解其骨而後已以戮夫不忠不孝者

梟首 斬其首暴其罪者著其名標之以命而懸之通衢用以警示竿衆也
戮屍 罪大惡極情同梟獍死猶難恕者雖已服其刑而法不容不盡仍則其屍而戮之

大賚律

絞罪者待時而殺故為輕斬毀不待時而殺之故為重

新律綱領

凡絞ハ其首ヲ絞リ其命ヲ畢ルニ止メ猶其體ヲ全クス遺骸ハ親屬請フ者アレハ下付ス
凡斬ハ其首ヲ斬ル遺骸ハ親屬請フ者アレハ下付ス絞斬二死ノ外仍ホ梟首ナル者アリ其首ヲ斬リ刑場ニ梟示シ看守人ヲ置キ犯由牌ニ罪狀ヲ書シ其

側及ヒ各所ニ立テ三日ヲ經テ除梟ス兇殘ノ甚シキ者ヲ待ツ所以ナリ

凡自裁ハ自ラ屠腹セシメ世襲ノ俸祿ハ仍ホ其子孫ニ給ス

獄具圖 凡囚ヲ絞スル兩手ヲ指ニ縛リ紙ニテ面ヲ蔽ヒ牽テ絞場ニ就キ先ツ柱前ニ踏石踏板ヲ累ネ囚ヲ柱ニ寄セ頂後ヲ枕ニ當テ板上ニ立シメ次ニ腰繩ヲ結ヒ次ニ足鐐ヲ收シ次ニ絞繩ヲ頂下ニ施シ次ニ大懸錘ヲ繩環ニ鈞シ次ニ踏板ヲ捨テ次ニ小懸錘ヲ鈞シ懸空凡三分死相ヲ驗シテ解下ス

改定律例

凡絞刑ヲ行フニハ先ツ兩手ヲ指ニ縛シ紙ニテ面ヲ掩ヒ引テ絞架ニ登セ踏板上ニ立シメ次ニ兩足ヲ縛シ次ニ絞繩ヲ首領ニ施シ其咽喉ニ當ラシメ繩ヲ穿ツ所ノ鐵環ヲ頂後ニ及ホシ之ヲ緊縛シ次ニ機車ノ柄ヲ拖ケハ踏板忽チ開落シ囚身(地ヲ離ルル一尺空ニ懸ル凡二分時死相ヲ驗シテ解下ス

舊幕府制

鋸挽 一日引廻シ兩肩ニ刀目ヲ入レ竹鋸ニ血ヲ付ケ側ニ置キ二日晒シ挽可申ト申者有之トキハ挽セ候事但田畑屋敷家共ニ闕所

磔 淺草品川ニ於テ磔申付在方ハ惡事致候處ヘ差遣シタル事モ有之尤科書ノ捨札建之三日ノ内非人番ニ附置但引廻シ又科ニ寄ハ不及引廻闕所右同斷

獄門 淺草品川ニ於テ獄門ニ掛ケ在方ハ惡事致候處ヘ差遣シ候儀モ有之引廻捨札番人右同斷但牢内首ヲ刎ル闕所右同斷

火罪 引廻ノ上淺草品川ニ於テ火罪申付ル在方ハ火ヲ付ケ候處ヘ差遣シ候儀モ有之捨札番人右同斷但物取ニテ無之ハ捨札ニ不及闕所右同斷

斬罪 淺草品川兩所ニ於テ町奉行同心斬之檢使御徒目付町與力但闕所右同斷

死罪 首ヲ刎ネ死骸様シ物ニ申付ル

下手人 首ヲ刎ネ死骸取捨但様シ物ニ不申付

重科人 死骸鹽詰ノ上御仕置(主殺、親殺、關所破、重謀刑)

第三 釋義 本條第一項ハ舊刑法第十二條ト同シク死刑ノ執行ニ關スル規定ナリ舊刑法ニハ死刑ハ絞首ストアリ單ニ絞首スト云フノミニテハ一旦絶命

シタル後蘇生シタルトキハ更ニ絞首スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付キ多少ノ疑ヒナキ能ハス因テ本條ハ絞首シテ執行スト規定シ絞首ニ依リ生命ヲ絶ツヘキコトヲ明カニシタリ

第二項ハ舊刑法ニ缺如スル所ニシテ死刑ノ言渡ヲ受ケ其裁判確定シタルトキハ直チニ既決囚トナリ監獄法ノ規定ニ依レハ刑事被告人ニアラサルヲ以テ拘置監ニ收禁スルコトヲ得サルモノノ如ク死刑囚ニ付テハ其執行前拘置スヘキ場所ニ付キ多少ノ疑義アルコトヲ免レサルヲ以テ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置スヘキコトヲ規定シ以テ其不備ヲ補綴シタルモノナルヘシ舊刑法ハ其第十三條ニ於テ死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得サル旨ヲ規定シ其第十四條ニ於テハ大祀、令節、國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁止シ其第十五條ニ於テ死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女、懷胎ナルトキハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ執行セサルコトヲ定メ其第十六條ニ於テ死刑ノ遺骸ハ親屬、故舊請フ者アレハ之ヲ下付スヘキモ式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ禁止スル旨ノ規定アリト雖モ此等ハ單純ナル執行手續ニ

屬スルヲ以テ本法ニ於テ凡テ之ヲ刑事訴訟法ニ讓リ此ノ種ノ規定ヲ省畧セ
ルモノノ如シ

第四 異説 第一 本條ハ死刑ノ執行方法ヲ規定シタルモノニシテ舊刑法第
十三條以下ノ規定ニシテ執行手續ニ屬スルモノトシテ之ヲ他ノ執行法ニ讓
ル以上ハ本條モ亦其執行手續ニ屬スヘキ點ニ於テハ同一ナルヲ以テ之ヲ他
ノ執行法ニ讓ルヲ相當トス

第二 監獄ハ自由刑ノ執行ヲ爲スヘキ場所ニシテ死刑ノ如キ單ニ其生命ヲ
絶ツコトノミヲ目的トスル執行ニ付テハ寧ロ裁判所内ニ於テ之ヲ執行スヘ
キモノナルヘシ本法ニ於テハ舊刑法ニ比シ多少刑名ヲ減セシモ尙ホ數多ノ
刑アリ隨テ執行ノ場所モ多キヲ要スルヲ以テ此上死刑執行場ヲ監獄内ニ設
クルハ監獄行政上甚シキ不便ナルノミナラス妥當ナラサルモノトス

第三 舊刑法第十三條ノ規定ト同一ノ趣旨ヲ以テ死刑ハ司法大臣ノ命令ア
ルニアラサレハ之ヲ執行スルコトヲ得ストノ規定ヲ設クヘシ死刑ノ執行ヲ
慎重ニシ兼テ之カ執行數ヲ減少スヘキハ論ヲ俟タサル所ニシテ舊刑法ニ於

テ之ヲ刑法中ニ掲記セシハ裁判上ニ於テハ情狀ノ酌量スヘキ場合ニ於テハ
酌量減輕ニ依リ之ヲ減等スルコトヲ得ヘキモ中ニハ法定ノ減輕ヲ爲スコト
ヲ得サルモノアリ又其情狀ノ査定ニ付テモ各見ル所ヲ異ニスル結果往々ニ
シテ尙ホ多少ノ酌量ヲ加フヘキモノナキニアラサルヘシ故ニ之カ裁量ヲ司
法大臣ニ委任シ司法大臣ニ於テ裁判以外尙ホ情狀ノ憫諒スヘキ場合ニ於テ
ハ特赦上奏ノ途ヲ得セシメタルモノナリ此ノ如キハ手續法ニ屬スヘキモノ
ナリト雖モ實際ノ事情ニ適合シ死刑ヲ減少スルノ途ニ於テ利便アルヲ以テ
之ヲ刑法典ニ掲クルモ敢テ不當ニアラサルヘシ

第五 異説ニ對スル説明 異説第一ニ掲クル所ノ所論ハ一理ナキニ非スト雖
モ本條第一項ノ規定ハ單ニ死刑執行ノ方法ニ關スルモノニアラスシテ死刑
ノ分量ニ關スル規定ナリ死刑ニハ絞斬磔火刑等種々ノ方法アレハ本法ニ於
テハ絞首ノ執行法ヲ採用シタル旨ヲ明カニスルノ趣旨ナレハ實體法ニ規定
スヘキ性質ノモノナルヲ失ハス異説第二ニ付テハ唯其執行ノ場所ニ關スル
差異ニシテ實質ニ於テハ之ヲ裁判所内ニ於テスルモ監獄ニ於テスルモ格別

ノ支障ナシト雖モ死刑ノ執行モ亦刑ノ執行ナレハ之ヲ監獄ニ於テスヘキハ當然ニシテ裁判所内ニ於テ執行セムトスルカ如キハ徒ラニ手數ヲ増スニ過キサルヘシ異說第三ニ付テハ本法規定ノ當時死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令ヲ要スルノ主義ヲ變更シタルモノニアラサルヘキモ是レ全ク純然タル執行手續ニ屬スヘキモノナレハ他ノ執行手續ト共ニ之ヲ刑事訴訟法ニ讓ルヘキモノト爲シタルコトハ本法立法ノ主義ニ照シ明白ナリ

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス

第一 沿革

- 第一案 第十九條 懲役ハ無期有期ヲ分タス自由ヲ剝奪シ規則ノ定ムル所ニ從ヒ定役ニ服セシムルモノトス
- 第二十條 有期懲役ハ四年以上十五年以下トシ別テ三等ト爲ス
- 一 十年以上十五年以下

- 二 七年以上十二年以下
- 三 四年以上九年以下

第二十三條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ有役禁錮ハ規則ノ定ムル所ニ從ヒ定役ニ服セシムルモノトス

第二十四條 禁錮ハ有役無役ヲ分タス十一日以上五年以下トシ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ定ム

第二案 第十三條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一日以上十五年以下トス

第三案 第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ懲役場ニ拘置シ定役ニ服ス

第四案 第十二條 第三案ト同シ

第二 參照法律

刑法釋義 第一編 總則

佛蘭西刑法

第十五條 徒刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ至難ノ役ニ使用セラルヘシ但使役ノ種類ニ因リ犯人ノ兩脚ニ彈丸ヲ繫ケ又ハ兩人毎ニ鎖ヲ用ヒテ聯接スヘシ

第十六條 徒刑ノ言渡ヲ受ケシ婦女ハ徒刑場内ノミニ於テ之ヲ使役スヘシ

第十九條 有期ノ徒刑ノ言渡ハ五年ヨリ少ナカラス二十年ヨリ多カラサル時間ヲ以テ其期限ト定ム

第二十一條 徒刑場内ニ於テ使役スル刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ男女ヲ論セス徒刑場内ニ入レ置キ使役ヲ受ケシムヘシ

此刑ノ定期ハ五年ヨリ少ナカラス十年ヨリ多カラサルヘシ

第二十二條 無期ノ徒刑、有期ノ徒刑、徒刑場内ニ於テ使役スル刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ其刑ヲ受クル前ニ一時間街衢ニ肆シ置クヘシ但其頭上ニ姓名、職業、住所、刑名、犯罪ヲ大字ニ記シタル標榜ヲ建ツヘシ

有期ノ徒刑又ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ヲ言渡シタルトキ其犯人再犯ノ罪ニ非サレハ重罪裁判所ヨリ犯人ヲ公ケニ肆スコトナカルヘキ旨ヲ言渡スコトヲ得ヘシ但十八歳以下七十歳以上ノ者ニハ之ヲ公ケニ肆ス旨ヲ決シテ言渡スヘカラス(千八百四十八年四月十二日廢止)

第四十條 禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ懲役場内ニ禁錮シ懲役場ニ於テ定メタル數種ノ使役中犯人ノ所好ニ從ヒ使役スヘシ

其刑ノ期限ハ六日ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサルヘシ但再犯又ハ其他法律上ニ別段期限ヲ定メタルトキハ格別ナリトス

一日禁錮スルノ刑ハ二十四時間トス

一月禁錮スルノ刑ハ三十日トス

第七十條 裁判言渡ノ時ニ於テ滿七十歳以上ノ犯人ハ無期ノ徒刑、流刑又ハ有期ノ徒刑ニ處スヘカラス

第七十一條 其七十歳以上ノ者ニ付テハ其刑ヲ左ノ如ク換フヘシ

流刑ハ無期ノ囚獄刑ニ換ヘ無期ノ徒刑ハ定期ナク徒刑場内ニ於テ使役

スル刑ニ換ヘ有期ノ徒刑ハ之レト同一ノ時間徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ換フヘシ

一〇八

第七十二條 若シ無期ノ徒刑又ハ有期ノ徒刑ニ處セラレシ者其刑期中ニ滿七十歳ノ齡ニ至ルトキハ其時ヨリ後其刑ノ期限間徒刑場内ニ禁錮スルノ刑ニ換ヘ初ヨリ徒刑場内ニ於テ使役スルノ刑ニ處セラレタルト同視スヘシ(千八百五十四年五月三十日廢止)

白耳義刑法

第十二條 凡徒刑ハ無期有期ノ二等トス有期徒刑モ亦二アリ一ハ十年ヨリ十五年ニ止マリ一ハ十五年ヨリ二十年ニ止マル

第十四條 徒刑ノ囚ハ徒刑場ニ入ラシムヘシ

第十五條 徒刑ハ各等ヲ科シテ使役セララルモノトス

第二十五條 凡懲治ノ獄ハ八日ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサルヘシ但シ法律上特別ニ係ル者ハ此限ニ在ラス
獄一日ト稱スル者ハ二十四時トス

獄一月ト稱スル者ハ三十日トス

第四十八條 凡犯人ノ年齢七十歳ニ至ル者ハ繫獄セス

獨逸刑法

第十四條 徒刑ハ無期及ヒ有期トス有期ノ徒刑ハ十五年ヨリ長カラス其短キハ一年ヨリ短カラス但法律上特ニ無期ノ徒刑ニ處スヘシト云ハサレハ必ス有期ノ徒刑ニ處ス

第十五條 徒刑ニ處セラレタル犯人ハ徒場内ニ設ケタル役ニ付スヘシ又徒場外ノ役ニ使フコトヲ得ヘシト雖モ公役或ハ官廳ニ屬スルノ役ニ用ユヘシ然レトモ通常ノ役夫ト別異スルニ非サレハ其役ヲ許スヘカラス

第十六條 禁獄ノ刑ハ五年ヨリ長カラス一日ヨリ短カラス禁獄ニ處セラレタル犯人ハ獄内ニ於テ身體相應ノ役ニ付スルコトヲ得ヘシ但其役ハ犯人ノ好ニ任ス若シ獄外ノ役ニ用フルトキハ本人ノ承諾ヲ要ス
第二十條 若シ法律上徒刑及ヒ城塞禁獄ノ兩刑ノ一ニ依リ論スルトアレ

ハ其犯人ノ本心ヨリ廉耻ヲ破ル爲メ罪ヲ犯シタリト申立ツルニ非サレハ徒刑ニ處スヘカラス

第二十一條 八ヶ月ノ徒刑ハ一年ノ禁獄ニ同シ一年ノ禁獄ハ八ヶ月ノ城塞禁獄ニ同シ

第二十二條 徒刑ニ處セラレタル犯人ハ其期限ノ全部又ハ一部一人別舎ニ入レ刑ヲ受ケシムヘシ是レ全ク其期限中他ノ犯人ト別異スル爲メナリ

別舎三年以上ハ囚人ノ承諾ニ非サレハ之ヲ延ハスヘカラス

英吉利刑法典

徒役ノ刑ハ獄舎ノ内若クハ之カ爲メ設ケタル遠港ノ監獄場ニ於テ之ヲ使役ス

罪囚ノ行狀善良ニシテ克ク業ヲ勉ムルトキハ巡察吏ハ三月ノ後一等役ヲ下シテ二等役ニ換フルコトヲ得ヘシ内務卿ハ一月ノ後ニ之ヲ換フルコトヲ得ヘシ

刑期ハ五年ヨリ始リ終身ニ至ルヘシ

此刑ニハ時トシテ一次一月ヲ踰ヘス一年内三月ヲ超ユサル隘牢ヲ加フルコトアリ

女囚及ヒ十六歳未滿ノ男囚ハ第二等ノ徒役ニ處ス之ヲ第一等ノ徒役ニ比スレハ較寛ナリ

弱體疾病又ハ其他事故ニ因テ使役ニ勝ヘサル者ハ其身相當ノ役ニ服ス或ハ全ク役ニ勝ヘサル者ハ全ク役ニ服セス

囚獄ノ刑ハ一月ヨリ始リ二年ニ至ル但再犯ノ場合ニハ三年ニ至ルコトアルヘシ

囚獄ノ刑ニハ加苦役及ヒ無苦役ノ區別アリ或ハ一次一月ニ過キス一年内三月ニ過クヘカラサル隘牢ヲ加ヘ若クハ答刑又ハ贖金ヲ附加スルコトアリ

露西亞刑法

第二十一條 重罪刑ノ第二類ニ於ケル苦役及ヒ施體刑ハ其等差更ニ左ノ

如シ

- 一等 鑛山ニ於テ無期ノ使役及ヒ身分ナキ者ハ答百
 - 二等 十五年以上二十年以下鑛山使役及ヒ身分ナキ者ハ答八十乃至九十
 - 三等 十年以上十五年以下鑛山使役及ヒ身分ナキ者答七十乃至八十
 - 四等 十年以上十二年以下城塞禁獄及ヒ身分ナキ者ハ答六十乃至七十
 - 五等 八年以上十年以下城塞禁獄及ヒ身分ナキ者ハ答五十乃至六十
 - 六等 六年以上八年以下製造所使役及ヒ身分ナキ者ハ答四十乃至五十
 - 七等 四年以上六年以下製造所使役及ヒ身分ナキ者ハ答三十乃至四十
- 第三十五條 懲治刑中第一類ニ於ケル流謫禁錮及ヒ施體刑ハ其等差更ニ左ノ如シ
- 一等 施體刑ヲ受クヘカラサル者ハ「イルクク」或ハ「ゲニサイスク」州ヘ流謫シテ三年以上四年以下禁錮而シテ十年以上十二年以下悉比亞地方ヘ轉移スルヘ轉移スルコトヲ禁ス施體刑ヲ受クヘキ身分ノ者ハ答九十乃至一百

及ヒ十年間懲治組編入

- 二等 施體刑ヲ受クヘカラサル者ハ「イルクク」或ハ「ゲニサイスク」州ヘ流謫シテ留置セシメ而シテ二年以上三年以上以下悉比亞地方ヘ轉移スルコトヲ禁ス又施體刑ヲ受クヘキ身分ノ者ハ答八十乃至九十及ヒ六年以上八年以下懲治組編入
- 三等 施體刑ヲ受クヘカラサル者ハ「トムルスク」或ハ「トボルスク」ヘ流謫シテ留置セシメ而シテ二年以上三年以下ノ禁錮又施體刑ヲ受クヘキ身分ノ者ハ答七十乃至八十及ヒ四年以上六年以下懲治組編入
- 四等 施體刑ヲ受クヘカラサル者ハ「トムルスク」或ハ「トボルスク」ヘ謫シテ留置セシメ而シテ該地ニ於テ一年以上二年以下禁錮又施體刑ヲ受クヘキ者ハ答六十乃至七十及ヒ二年以上四年以下懲治組編入
- 五等 施體刑ヲ受クヘカラサル者ハ「トムルスク」或ハ「トボルスク」ヘ謫シテ留置セシム又施體刑ヲ受クヘキ身分ノ者ハ答五十乃至六十及ヒ一年以上二年以下懲治組編入

「イルクク」及ヒ「ゲニサイスク」へ謫セラレタル者ハ其宣告中ニ定メタル期限ヲ過シトキハ「トボルスク」若クハ「トムルスク」へ移轉ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

第七十五條 婦女鑛山使役或ハ城塞禁獄ニ處セラルヘキ重罪ヲ犯セシトキハ其刑ニ換フルニ製造所使役ノ刑ヲ以テスヘシ然ルトキハ刑期ヲ遅延シテ一年ノ鑛山使役或ハ城塞禁獄ヲ以テ一年半ノ製造所使役ト相適セシムヘシ

第七十六條 犯罪者現ニ滿七十歳ニ至ルトキハ苦役ノ刑ニ換フルニ悉比利中遠隔ノ地ニ流謫シテ殖民トス

第三十六條 懲治刑中第二類ニ於ケル流謫禁錮ハ其等差更ニ左ノ如シ
一等 施體刑ヲ受クヘカラサル身分ノ者ハ悉比利亞ヲ除キ他ノ僻遠地ヘ謫シテ留置セシメ一年以上二年以下禁錮又施體刑ヲ受クヘキ者ハ二年以上三年以下入工場
二等 施體刑ヲ受クヘカラサル者ハ悉比利亞ヲ除キ他ノ遠隔地ニ謫シ

テ留置セシメ該地ニ於テ六月以上一年以上以下禁錮又施體刑ヲ受クヘキ身分ノ者ハ一年以上二年以下入工場

三等 施體刑ヲ受クヘカラサル者ハ悉比利亞ヲ除キ他ノ遠隔地ヘ謫シテ留置セシメ該地ニ於テ三月以上六月以下禁錮又施體刑ヲ受クヘキ身分ノ者ハ六年以上十年以下入工場

四等 施體刑ヲ受クヘカラサルモノハ悉比利亞ヲ除キ他ノ遠隔地ヘ謫シテ留置セシメ施體刑ヲ受クヘキ身分ノ者ハ三月以上六月以下入工場

第三十七條 懲治刑中第三類ニ於ケル城塞禁獄ハ二三ノ特種剝奪ヲ兼ヌルモノニシテ其等差左ノ如シ

一等 四年以上六年以下城塞禁獄

二等 二年以上四年以下城塞禁獄

第三十八條 城塞禁獄ノ特種剝奪ヲ兼ネサルモノ其等差左ノ如シ

一等 一年以上二年以下城塞禁獄

二等 六月以上一年以下城塞禁獄
三等 六週以上六月以下城塞禁獄

第三十九條 懲治刑中第四類ニ於ケル矯正場ノ刑ニシテ二三ノ特權剝奪ヲ兼ヌル者其等差左ノ如シ
一等 一年以上三年以下矯正場ニ入ル
二等 一年以上二年以下矯正場ニ入ル

第四十條 矯正場ノ刑ニシテ特權剝奪ヲ兼ネサル者其等差左ノ如シ
一等 六月以上一年以下矯正場ニ入ル
二等 三月以上六月以下矯正場ニ入ル

第四十一條 懲治刑中第五類ニ於ケル禁獄ノ刑ハ其等差左ノ如シ
一等 一年以上二年以下禁獄
二等 六月以上一年以下禁獄
三等 三月以上六月以下禁獄

第四十二條 懲治刑中第六類ニ於ケル暫時間ノ禁錮ハ其等差左ノ如シ

一等 三週以上三月以下禁錮

二等 七日以上三週以下禁錮

三等 三日以上七日以下禁錮

四等 一日以上三日以下禁錮

第四十三條 懲治刑中第七類ニ於ケル裁判所ニテ爲ス譴責ハ犯罪ノ輕重ニ應レ寬嚴同シカラス其最モ嚴ナルモノハ窓戶ヲ開キ公然之ヲ爲ス

瑞典刑法
徒刑ハ終身及ヒ有期トス有期ハ二月以上十年以下タルヘシ然レトモ重罪ノ再犯及ヒ此刑ニ罰金ヲ加ヘテ罰スヘキトキ其罰金ヲ以テ此刑ニ換フル者ニ在テハ之ヲ延ハシテ十二年ニ至ラシムルコトヲ得ヘシ

埃及刑法

第三十二條 無期ノ徒刑トハ犯人ノ兩足ヲ鐵鎖ヲ以テ繋キ政府ヨリ定メタル場所ニ於テ畢生間之ヲ驅役スル刑ヲ云フ

第三十三條 有期ノ徒刑トハ亦犯人ノ兩足ヲ鐵鎖ヲ以テ繋キ政府ヨリ定

メタル場合ニ於テ三年ヨリ少ナカラス十五年ヨリ多カラサル時間之ヲ
驅役スル刑ヲ云フ

然レトモ五年以下ノ徒刑人ハ其言渡アリシ地ニ於テ之ヲ驅役スルコト
ヲ得ヘシ

第三十四條 婦女ニ徒刑ヲ言渡シタルトキハ鐵鎖ヲ以テ之ヲ繋クヘカ
ス獄舎内ニ於テ之ヲ驅役スヘシ

六十歳以上ノ老囚ニ徒刑ヲ言渡シタルトキハ鐵鎖ヲ以テ之ヲ繋クヘカ
ラス獄舎内ニ於テ之ヲ驅役スヘシ

第四十六條 禁錮ノ刑トハ裁判言渡ニ定メタル時間官ノ獄舎中ニ禁錮ス
ル刑ヲ云フ

第四十七條 輕罪ニ付テハ其刑ヲ八日ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラス
ト爲スヘシ

印度刑法

第五十六條 歐人又ハ米人該刑法ニ依リ流刑ヲ以テ罰スヘキ罪ヲ判決セ

ラルルトキハ裁判所ハ一千八百五十五年第二十四決議ノ條款ニ從ヒ流
刑ニ換フルニ徒刑ヲ宣告スヘシ

土耳其格刑法

第十九條 徒刑ハ犯人ノ兩足ニ鈎ヲ施シ至難ノ勞役ニ使用スルヲ云フ徒
刑ニ處セラレシ者ハ公ケニ肆スノ刑ヲ受ケ其刑ハ犯人ヲ其所在地ノ廣
狹又ハ街衢ニ連レ行キ二時間公衆ノ眼ニ觸レシメ其罪案ノ摘報書ヲ大
字ニテ標札ニ記シ犯人ノ胸部ニ掛ケ置クヘシ而シテ後チ犯人ノ兩足ニ
鈎ヲ施シ徒刑場ニ送り其役ニ服セシム但シ十八歳以下七十歳以上ノ犯
人ハ公ケニ肆スノ刑ヲ免セラルヘシ

第二十條 無期徒刑ハ犯人ヲシテ公ケニ肆スノ刑ヲ受ケシメタル後チ政
府ヨリ指定シタル地ニ於テ畢生間兩足ニ鈎ヲ施シ至難ノ勞役ニ使用ス
ルニ在リ

第二十一條 有期徒刑ハ犯人ヲシテ公ケニ肆スノ刑ヲ受ケシメタル後政
府ヨリ指定シタル地ニ於テ三年ヨリ少ナカラス十五年ヨリ多カラサル

時間兩足ニ欽ヲ施シ至難ノ勞役ニ使用スルニ在リ但シ五年以下ノ徒刑ニ處セラレシ者ハ其徒刑場ニ於テ之ヲ受クヘシ

細々利刑法

第七條 無期徒刑ハ一ノ屬島タル城塞内ニ發遣シ終身驅役ス婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ監役場ニ入レ定期ニ因テ命示スル所ノ酷役ニ服セシム

第八條 有期徒刑ハ左ノ二種ニ分チ輕重ノ役ニ服ス

第一 内地ノ重罪監ニ幽閉シ其監内ニ於テ執役セシムル事業ニ從ヒ鎖ヲ以テ二人ノ足ヲ連繫ス又一人一箇ニ鎖ヲ付スルコトアリ

第二 「ブレジード」(西班牙政府ヨリ亞非利加ノ海岸ニ設ケタル徒刑囚ヲ送置スル場所ヲ云フ)ニ發遣シテ之ヲ執行ス此刑ニ該ル者ハ右足ニ欽ヲ付シ監内ノ工業ニ使役ス

徒刑ハ法律上別段定メタル場合ニ非サレハ「ブレジード」ニ於テ執行スルコトナシ

第九條 有期徒刑ノ期限ハ左ノ四等ニ區分ス

第一等 七年以上十二年以下

第二等 十三年以上十八年以下

第三等 十九年以上二十四年以下

第四等 二十五年以上三十年以下

和蘭刑法

第十條 禁錮ハ無期又ハ有期ヲ以テ之ヲ宣告ス有期禁錮ノ期限ハ一日以上十五年以下トス

禁錮ハ其犯罪カ判事ノ認定ニ依リ無期又ハ有期禁錮ノ刑ニ該ルヘキ場合ニ於テハ二十年以下トス數罪俱發ノ再犯若クハ第四十四條ノ規定第四十四條 官吏カ罰スヘキ所爲ヲ行ヒ其職務上ノ特別ノ義務ニ違背シ又ハ罰スヘキ所爲ヲ行フニ當リ其職務カ給與シタル權力機會又ハ方法ヲ利用シタルトキハ本刑ノ三分ノ一ヲ加重スルコトヲ得ヨリ生ヌル所ノ刑ノ加重ノ爲メ十五年ノ期限ヲ超過スル場合ニ於テモ亦同シ

禁錮ハ何レノ場合ニ於テモ二十年ヲ超過スルコトヲ得ス
 第十一條 五年以下ノ禁錮ハ其刑期間分房ニ於テ之ヲ受ケシム是ヨリ長キ期限ノ禁錮ハ最初ノ五年間ノミ分房ニ於テ本刑ヲ受ケシム
 五年以上ノ禁錮ニ處セラレタル場合ニ於テハ司法省ノ長官ハ犯人ノ請願ニ因リ其殘餘ノ刑期ノ全部又ハ幾分ヲ分房ニ於テ受クルヲ許スコトヲ得

第十二條 分房懲役ハ左ニ記載シタル者ニ之ヲ適用ス

- 一 處刑ノ時年齢未タ十四歳ニ達セザリシ者
- 二 年齢六十歳以上ノ囚徒但其請願アルトキハ此限ニ在ラス
- 三 身體検査ノ後本刑ヲ受クルニ堪ヘサル者

第十四條 凡ソ囚徒ハ第二十二條第二十二條禁錮ヲ受ケシムヘキ獄舎ト拘留ヲ受ケシムヘキ獄舎トハ法律ヲ以テ之ヲ指定ス 原註 是等獄舎ノ編制及ヒ行政囚人ノ分類服役定役ヨリ生スル收入ノ用途教育宗教及ヒ紀律ハ法律ニ定ムル原則ニ從ヒ公ケノ行政ニ關スル一般ノ規則ヲ以

テ之ヲ定ム 各獄舎ノ爲メニ設クル特別ノ規則ハ監獄署ニ於テ之ヲ起草シ王ノ裁可ヲ受クルモノトス 原註 此事項ニ關スル法律案ハ千八百八十二年一月十日議會ニ提出セラレタリニ依リ制定シタル規則ニ從ヒ必ス其定メタル役業ニ服スヘシ

那威刑法

第十七條 禁錮ハ二十一日乃至十五年又ハ第六十二條ニ豫見セル場合(第六十二條何人ト雖モ一個又ハ數個ノ行爲ニ依リ禁錮又ハ拘留ヲ科スヘキ數個ノ罪又ハ違背ヲ犯シタル時ハ其各個ノ刑罰行爲ニ付キ規定シタル最低刑中最高ナルモノヨリ嚴峻ニシテ何ノ場合ニ於テモ各個ノ可罰行爲ニ付キ規定シタル最高度ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ超過セサル併合刑ヲ裁定スヘシ併合刑ハ其可罰行爲ノ一個ニ對シ禁錮ヲ科スヘキ場合ニ於テハ通常之ヲ禁錮ニ確定ス 可罰行爲ノ一個ニ對シ禁錮ヲ科スヘキ場合ニ於テハ拘留ヲ適用スル時ト雖モ禁錮ヲ適用セサルトキト同一ノ副刑ヲ科ス)ニ於テハ二十年又ハ全生存時中之ヲ科スルコトヲ得

法律上明ニ終身ト規定セサル禁錮刑ハ之ヲ有期トス
禁錮ヲ宣告セラレタル者ハ刑ノ執行ニ付キテノ特別法ニ定メタル規則
ニ從ヒ考試ノ爲メ之ヲ釋放スルコトヲ得

瑞西刑法典案

第二十一條 懲役刑ハ一年乃至十五年ヲ宣告ス

法律ニ規定シタル場合ニ於テハ懲役刑ハ之ヲ無期トス

懲役刑ハ専ラ此目的ニ専用スル製造場ニ於テ之ヲ執行ス

奧太利刑法草案

第十四條 懲役及ヒ國家禁錮ノ刑ハ終身又ハ有期トス有期ノ最長期ハ二
十年トス

法律ニ其ノ無期ナルコトヲ明示セサル場合ニ在リテハ此等ノ刑類ハ有
期ノモノナリトス

禁錮ノ刑ノ最長期ハ五年トシ拘留ノ最長期ハ二月トス但第二十五條第六
十三條第二百六十一條第二百七十四條及ヒ第二百八十條ノ規定ヲ妨ケス

懲役ノ最短期ハ一年トシ禁錮及ヒ國家禁錮ノ最短期ハ一日トス是等ノ

自由刑ハ全日ヲ以テスルニアラザレハ計算スルヲ許サス

第九條 懲役ノ刑ニ處セラレタル者ハ懲役場内ニ拘禁シテ別異又ハ一様
ノ獄衣ヲ着セシメ懲役場ヨリ給與セララル着物及ヒ寢所ノミニ制限セ
ラルモノトス

懲役囚ハ一定ノ役ニ服セシム又監督ヲ付シテ場外ノ役ニ使用スルコト
ヲ得但他ノ傭役者ト區別シ且成ルヘク他人ニ接見セシメサルヲ要ス

唐律

徒刑 疏議曰徒者奴也蓋奴辱之周禮云其奴男子人于罪隸又任之以事實以
園土而收赦之上罪三年而捨中罪二年而捨下罪一年而捨此並徒刑也蓋始於周
其婦人犯流者亦留住流二千里決杖六十一等加二十俱役三年

明律

徒役各照所徒年限並以到配所之日爲始發墾場者每日煎鹽三斤鐵冶者每日
炒鐵三斤另項結課

婦人犯罪應決杖者姦罪去衣受刑像罪單衣決罰皆免刺字若犯徒流者決杖一百餘罪收贖

清律

徒者即漢之所謂城旦舂也拘繫其身心使力供乎勞役迨平准之法除則無所謂用其城旦舂矣故配發于各期一聽貳吏爲驅使

凡徒役各照應徒年限并以到配所之日爲始限滿釋放

婦人犯罪應決杖者姦罪去衣受刑餘罪單衣決罰皆免刺字若犯徒流者決杖一百餘罪收贖

假刑律

徒ハ官ニ拘收シテ溝塹道路修繕等一切賤役辛苦ノ中ニ役ス

凡婦女ハ姦犯殺傷盜賊且死罪ヲ犯シ候者迄刑ニ處ス(除罪ハ坐セス情適ヲ免シ難キモノハ一切之ヲ許サス笞決或ハ贖臨時論定)唯姦罪ハ衣ヲ去リ(一揮ヲ留ム)刑ヲ受ケ除ハ單衣決罰ス總テ徒流ヲ除ク但家長直ニ刑ヲ加ヘタル者之從類婦女ハ其見合ヲ以テ論定

新律綱領

凡徒ハ各府藩縣其徒場ニ入レ地方ノ便宜ニ從ヒ絶對ノ力ヲ量リ各業ヲ與ヘテ使役ス蓋シ勞役苦使シ以テ惡ヲ改メ善ニ遷ラシム

凡婦女死罪不孝姦盜人命放火ノ徒罪以上ヲ犯ス者ハ各律ニ依テ決斷シ笞杖ニ該ル者ハ日數ニ折シ笞杖一十毎ニ二十日ニ折シテ禁獄ニ換フ

其餘ノ罪ハ并ニ法ニ依テ收贖スルコトヲ聽ス

舊幕府制

奴 望之所有之候ヘハ遣ス但望ノ者無之内ハ牢内ニ差置ク

第三 釋義

本條ハ懲役ニ關スル規定ナリ第一項ハ懲役ノ期限ヲ定メ無期及ヒ有期ト爲シ有期懲役ハ一月以上十五年以下ニ亘ルモノト爲セリ有期懲役ニ關スル規定ハ一見其範圍甚タ廣濶ニ失スル嫌ナキニアラスト雖モ之ヲ舊刑法ト比較スルトキハ却テ其範圍ノ狹隘トナリタルコトヲ發見スヘシ懲役ハ本法第九條ニ於テ説明セル如ク舊刑法ノ徒刑懲役及ヒ重禁錮ヲ併合シタル刑ナリ而シテ有期徒刑ハ十五年以下ニシテ重禁錮ハ十一日以上ナルヲ以

テ之ヲ通算スレハ懲役ニ該當スル舊刑法ノ刑ハ十一日以上十五年以下ノ範圍ヲ有スルモノナレハナリ

第二項ハ懲役ノ執行ニ關スル規定ニシテ舊刑法第十七條第一項、第二十二條第一項及ヒ第二十四條第一項ノ規定ノ一部ニ該當ス而シテ第二案以下ニ於テハ拘留執行ノ場所ヲ懲役場ト規定セシモ懲役場、禁錮場、拘留場ト云フハ畢章監獄内ノ區別ニ過ギサレハ其細故ハ之ヲ監獄法ニ譲リ本法ニ於テハ之ヲ監獄ニ拘留シ定役ニ服セシムト規定シタルモノナルヘシ

第四 異説 第一 無期刑ヲ廢止スヘシ 理由 無期刑ハ死刑ニ亞クノ惡刑ナリ而シテ仔細ニ之ヲ吟味スレハ國家ハ時効ニ依テ刑罰責任ヲ解除スルノ意思ヲ有ス即チ人ノ遺忘、社會ノ遺忘ヲ推測シ如何ナル大罪ヲ犯スモ死刑ハ三十年、無期刑ハ二十年ノ期間ヲ經過セハ刑罰ノ觀念ヲ以テ人ヲ待ツ權利ヲ自ラ棄ツヘキコトヲ遺忘ノ推測ヨリ規定シ居ルニアラスヤ果シテ然ラハ名ハ無期刑ト稱スト雖モ實ハ二十年ノ有期刑タルコトヲ表明セリ又直覺的ノ事實ヨリ之ヲ觀察セハ無期刑ハ人ヲシテ絶望ノ淵ニ陥ラシメ改過遷善ノ途

ヲ開クコトヲ杜絶スルモノト謂ハサルヘカラス抑モ刑ノ目的ハ痛苦ノ中ニ改過遷善ノ途ヲ啓クニ在リ加之人ノ生命ニハ長短ノ別アルヲ以テ無期刑ニ處セラレタル者ト雖モ一日ニシテ死スル者アリ五十年ニシテ死スル者アリ故ニ實際科スル刑罰トシテハ結局不權衡タルヲ免レス又無期終身ト云フコトハ一體不可分のモノニシテ程度ノ差ヲ認ムルコトヲ得サルカ故ニ之ニ伴フ缺點ハ到底避クヘカラサルノミナラス終身ノ自由ヲ奪フトキハ假令ヒ如何ニ改心スルモ其改心ニ伴フ實益ナキヲ以テ自ラ自暴自棄ノ念ヲ生シ其處刑ノ最終ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルニ至ルヘシ又實益ノ上ヨリ考察スルモ濃厚ナル囚人ハ精神病トナリ猛惡ノ囚人ハ自暴自棄トナルノ虞ナキヲ保セス極端ニ之ヲ論スレハ死刑ハ一瞬時ニ生命ヲ絶ツモノナレトモ無期刑ハ獄ニ繫カレテ此天命ヲ時々刻々ニ刻マレツツアル殺人刑ニシテ殆ント死刑以上ノ酷刑ナリト云フモ過言ニアラサルヘシ聞說死刑廢止ニ熱心ナル伊太利ノ司獄官ハ無期刑ノ犯人ノ痛苦ヲ見ルニ忍ヒヌ又之ヲシテ改過遷善ノ途ニ導クコトノ望ミナキヲ感シ寧ロ死刑ノ復活ヲ望ムト云フニアラスヤ是

レノ反響タルニ過キスト雖モ亦如何ニ無期刑ノ惡刑ナルカヲ證スルニ足
ル而シテ學理的ニ之ヲ詳説セハ實ニ左ノ諸點ニ歸着スヘシ

一 無期刑ノ何レノ時代ヨリ刑法中ニ採用セラレタルヤハ確的ノ憑據ナ
ク自由刑ノ制度發達ト密接ノ關係アレトモ無期刑ノモニ就テ詳細ニ論
評研究セル書籍ヲ見ス

二 自由刑發達ノ傾向ヨリ觀察スレハ犯罪者ヲ教化スル趣旨ト犯罪者ヲ
社會ヨリ離隔シテ社會ヲ保護スル趣旨トノ兩素ヲ含蓄ス唯或ル場合ニ
於テハ教化ニ傾キ或ル時代ニ於テハ離隔ニ傾キタル差異ハアレトモ如
上兩素ノ存在ハ否定スヘカラサルニ似タリ

三 自由刑ハ反座的觀念ヨリ説明スルコト寧ロ困難ナリ死刑管刑、杖刑、罰
金刑ノ如キハ行爲ニ對スル反座觀念ニ基キ不完全ナカラ其説明ヲ見得
ヘシト雖モ自由刑ニ對シテ監獄拘留ノ如キ行爲ヲ爲シタルモノニ蒙ラ
シムル外他ノ犯罪ニ付テハ反座的觀念ヨリ説明シ難シ果シテ然ラハ此
反座觀念ヨリ漸次進歩シ來レル道德倫理主義ノ觀念ヨリ自由刑ヲ説明

スルハ純理ヨリ見レハ寧ロ必然ノ連續ナキモノナリ唯沿革上因襲ニ基
キ兩者ノ連絡ヲ求ムルニ過キス隨テ何ノ罪ニ對シ何ノ刑カ倫理上相當
ナリヤノ問題ハ殊ニ此自由刑ニ於テ困難ナルヲ覺ユ

四 「モンテスキュー」ハ犯罪ト刑罰トカ其權衡ヲ得ヘキコトノ必要ヲ熟知
シ「ベツカリヤ」モ亦其必要ヲ唱導シタリ但此兩者ハ權衡ヲ得ヘキ標準ヲ
示シ得サリシナリ然レトモ英國ノ「ベンザム」ニ至リテ此標準ヲ發見シタ
リト爲シ「ユイチリタリアニスム」ノ立場ヨリ之ヲ定メントシタリ功利主
義ハ要スルニ感情ヲ基礎トスル學說ナリ快樂、不快樂ヲ標準トスル學說
ナリ而シテ氏ノ第一則ハ刑罰ノ害ハ犯罪ノ利ニ超エサルヘカラスト云
フニ在リ害ト利トハ何レモ快樂ニ基キテ之ヲ測定スルナリ第二則ハ刑
罰不確實ナレハ之ヲ嚴格ニセサルヘカラスト云フニ在リ刑罰ニシテ能
ク犯罪ノ結果ヲ奪ヒ去ルコトヲ得ヘクシテハ而テ斯ノ如キ刑罰カ必然ニ
臨ムモノトセハ犯罪者カ皆無トナルヘシト云フニ在リ故ニ結果ニ於テ
不確實ナル刑罰ハ之ヲ嚴酷ニスヘシト爲スナリ第三則ハ二罪關聯ノ場

合ニハ重キ罪ニハ重刑ヲ科シ犯人ヲシテ輕キ罪ニ於テ中止セシメサル
 ヘカラスト言フニ在リ第四則ハ犯罪大ナル程之ヲ防遏センカ
 爲メニ重刑ヲ賭スヘキ理由アリト言フニ在リ第五則ハ各犯人ニ對シ同
 一犯罪ニ付キ同一ノ刑罰ヲ科スヘキモノニアラス犯人ノ感覺ニ影響ス
 ル狀況ニ從テ之ニ相當スル刑ヲ科スヘシト云フニ在リ、ペンザムハ防遏
 主義ヨリ刑ヲ論シタル人ニシテ其目指ス所慕地ニ犯人ノ感情ニ在リシ
 カ故ニ單純ナル保護刑論ヨリモ直接ナリト云フヘシ

五 列擧スル如キ犯人懲治主義、社會保護主義、犯罪防遏主義等ハ無期終身
 刑ノ正否ヲ批判スヘキ證據ナルヘシ倫理道德主義ヨリ觀察スレハ犯人
 ノ惡ムヘクシテ其應報ヲ求メサルヘカラサルコト當然ナリト雖モ必ス
 シモ無期終身刑トセサルヘカラサル理由ナシ故ニ前記三主義ノ見地ヨ
 リ判斷スレハ大體ニ於テ無期刑制度ノ良否ヲ檢シ得ヘキナリ

六 犯人懲治主義ハ無期刑ト相容レサルモノナリ無期終身ノ刑ト爲ササ
 レハ見込ナキ犯人ヲ何カ故ニ懲治ノ爲メニ無期刑囚ト爲スヘキカ元來

刑ニ依リ監獄ニ依リ犯人ヲ懲治シ得ヘキカ否ヤハ甚タ疑問ナリ歐洲新
 主義ノ人ハ之ヲ唱フレトモ思フニ刑ヲ濫用スル所ヨリ斯ク言フニ過キ
 サルノミ支那王道ノ如ク化之弗變導之弗變之弗從僞義以改俗於是平用
 刑矣ト云フ趣旨ニテ化セサルノ民ヲ罰スル精神ヨリ之ヲ無期刑ト爲ス
 ニ於テハ多少ノ理由モ之レアルヘシト雖モ教化ノ趣旨ニテ無期刑ト爲
 スカ如キハ到底不可能ノコトニ屬ス

七 社會保護主義(保護刑主義)ハ單獨ニシテ立テ得ヘキモノトスレハ無期
 刑ヲ置ク唯一ノ理由ナルヘシ社會ニ危害多キ人物ヲ拉シテ獄舎ニ投シ
 終身出獄セシメサルコトヲ原則トスレハナリ然レトモ本法ノ趣旨ヨリ
 見ルモ國家社會ノ保護ノ爲メニ犯人ノ所爲ヲ見スシテ唯其人眞ノ平素
 ヲリ之ヲ斷シ危險ナルカ故ニ裁判官ニ任意ニ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ許
 スノ趣旨ニアラスシテ犯人ノ過去ノ行爲ヲ標準トシテ刑罰ヲ科スルノ
 趣旨ナルコト疑ヲ容レス果シテ然ラハ終身無期ノ刑ニ處セサルモ尙可
 ナル場合ニ於テモ場合ニ依リテ無期刑ト爲スカ如キ結果ヲ生シ主義ト

相容レサルコト多カルヘシ況ンヤ保護ノ精神ノミヲ以テ立法ノ基礎ト爲シタルモノニアラサルヲヤ尙一言スヘキコトハ人心轉機ノ微妙ナル甲ノ時ニ於テ到底教化ノ望ナキモ乙ノ時ニ於テ謝罪悔悟スルコトナキヲ期セス無期刑ト爲スヘキ時ハ斯クノ如クシテ無害トナリシ犯者ヲ猶保護ノ爲メニ獄舎ニ繋留スルハ主義ト相反スルモノト謂ハサルヘカラ

八 犯罪防遏主義ハ輕微ノ犯罪ニ付テハ刑罰ノ規定ニ依リ犯罪ヲ豫メ防遏スル效果ヲ生スヘキコト疑ヒナシト雖モ無期刑ヲ科スヘキ程度ニ至テハ到底無期刑ノ設置アルカ爲メニ其犯罪行爲ヲ思ヒ止ラシムルコト能ハサルヘシ此規定アルカ爲メニ思ヒ止マルカ如キ人ハ無期刑ニ處スヘカラサルモノナリ又無期刑アルモ猶犯罪ヲ敢テスル者ニ關シテハ無期刑ハ防遏ノ效ヲ成ササルモノナリ故ニ此主義ヨリ論スルモ無期刑ヲ設クヘキ理由ナシ

九 各國ノ法制ニ無期刑ノ規定アリ又本邦從來ノ刑法ニ同一ノ規定アリ

ト雖モ斯ノ如キ偶然ノ理由ハ無期刑ヲ存置スル理由トナラサルナリ又應報主義ヨリ無期刑ノ理由ナキコトハ前掲ノ如ク若シ強キ無期刑ヲ置カントナラハ刑法全部ヲ擧ゲテ不定刑期制度ト爲ササレハ目的ヲ達スルコトヲ得サルヘシ

十 本法モ舊刑法モ共ニ刑罰竝ニ假出獄ノ點ハ人造的ニシテ自然的ナラス而シテ人造的ハ寧ろ細工ニ失シ理論ニ合セス無期刑囚ヲ十五年ノ後假出獄ト爲スカ如キハ殆ント其何ノ故タルヤヲ解スル能ハス故ニ如此人工的假出獄ノ制度アルカ故ニ無期刑ヲ存置スルノ理由ト爲スニ足ラサルナリ

十一 無期終身刑ヲ以テ死刑ト有期刑トノ間ニ位スル段階ナリト考フルハ錯覽ナリ幼稚ナリ人ヲ其自由生活ニ放任シテ天然ノ壽ヲ待タシムルハ素ヨリ正當ナリト雖モ監獄ト不自由ト他ノ囚徒ト勞働ト云フカ如キ諸般ノ機械ヲ以テ徐々ニ人ヲ絞殺シ去ルハ即チ無期刑ナリ故ニ無期刑制度ヲ存置スルハ恰モ長時間ヲ要スル絞殺刑ヲ是認スルモノト云ハナ

第二 有期懲役ノ短期ヲ削除スヘシ 理由 本法ニ於テハ罪刑トモニ其宜キニ適センニハ專ラ實際ノ事情ヲ斟酌シ裁判官ノ自由裁量ニ任スルノ主義ヲ採用シタルモノナルコトハ各本條ヲ一覽セハ直ニ首肯スルコトヲ得ヘシ然ルニ本條規定ノ如ク有期刑ノ短期ヲ一月ト限定スルトキハ實際ノ適用上少ナカラサル不便ヲ感スヘシ極メテ輕微ナル犯罪ト雖モ原則トシテハ一ヶ月以上ノ刑ヲ科セサルヘカラサルニ至ル如此ハ刑ノ範圍ヲ擴張シタル主義ニ悖戾スルノミナラス自由裁量ノ本旨ニ背クヘキヲ以テ寧ロ此短期ハ之ヲ削除スルニ如カス

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

第一 沿革

第一案 第二十一條 禁獄ハ無期有期ヲ分タス獄舎ニ幽閉スルモノトス

第二十二條 有期禁獄ハ四年以上十五年以下トシ別テ三等ト爲ス

一 十年以上十五年以下

二 七年以上十二年以下

三 四年以上九年以下

第二十三條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ有役禁錮ハ規則ノ定ムル所ニ從ヒ定役ニ服セシムルモノトス

第二十四條 禁錮ハ有役無役ヲ分タス十一日以上五年以下トシ仍

ホ各本條ニ於テ其長短ヲ定ム

第二案 第十四條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一日以上十五年以下トス

下トス

禁錮ハ禁錮場ニ拘置ス

第三案 第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

下トス

第四案 第十三條 第三案ト同シ

第二 參照法律

舊刑法

第二十條 流刑ハ無期、有期ヲ分タス。島地ノ獄ニ幽閉シ、定役ニ服セス。有期流刑ハ十二年以上十五年以下トス。

第二十一條 無期流刑ノ四五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ。島地ニ於テ地ヲ限り居住セシムルコトヲ得。

有期流刑ノ四三年ヲ經過スル者亦同シ。

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ、定役ニ服セス。

重禁獄ハ九年以上十一年以下、輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス。

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ、重禁錮ハ定役ニ服シ、輕禁錮ハ定役ニ服セス。

禁錮ハ重輕ヲ分タス。十一日以上五年以下ト爲シ、仍ホ各本條ニ於テ其長

短ヲ區別ス。

佛蘭西刑法

第十七條 流刑トハ法律上ニ定メタル歐洲大陸ノ佛蘭西領地外ノ場所ニ

犯人ヲ遷徙シテ定期ナク居住セシムル刑ヲ云フ。

流刑ニ處セラレシ者若シ歐洲大陸ノ佛蘭西領地内へ歸リ來リタルトキ

ハ其者ニ相違ナキノ證ヲ得タルノミニテ無期ノ徒刑ヲ言渡スヘシ。

流刑ニ處セラレシ者歐洲大陸ノ佛蘭西領地内へ歸リ來ルニ非スト雖モ

佛蘭西兵ノ攻取シタル國ニ於テ逮捕ヲ受ケシトキハ其流所へ送還セラ

ルヘシ。

流刑ノ場所未タ定マラサル時間ハ流刑ノ言渡ヲ受ケシ者歐洲大陸ノ佛

蘭西領地外ニ在ル藩屬地ノ獄舎ニ定期ナク繫囚スルノ刑ヲ受クヘシ。

但其繫囚ノ場所ハ法律上ニ定メタルモノナルヘク且裁判官ノ處刑言

渡書ニ別段之ヲ指定スヘシ。

若シ本國ト繫囚ノ場所トノ往來梗塞シタルトキハ假ニ本國ニ於テ繫

囚シ置クヘシ。

第二十條 囚獄ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル犯人ハ歐洲大陸ノ佛蘭西領地内ニ

在ル城寨中ニ之ヲ繫囚スヘシ但シ城寨ハ行政規則ノ體裁ニテ記シタル
皇帝ノ勅書ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
其犯人ハ 皇帝ノ勅書ニテ定メタル取締ノ規則ニ循ヒ囚獄場ノ内外ニ
在ル人ト通問スルコトヲ得ヘシ
囚獄ノ刑ハ第三十三條ニ定メタル場合ノ外五年ヨリ少カラス二十年ヨ
リ多カラサル時間ヲ以テ其期限トス

英吉利刑法典

流刑ハ女皇エリサベスノ世ニ設立シ女王ビクトリヤ一千八百五十三年ノ
成文律ニテ之ヲ廢シ更ニ徒刑ヲ設立セリ
囚獄ノ刑ハ一日ヨリ始リ二年ニ至ル但再犯ノ場合ニハ三年ニ至ルコトヲ得
囚獄ノ刑ニハ加苦役及ヒ無苦役ノ區別アリ或ハ一次一月ニ過キス一年内
三月ニ過クヘカラサル監牢ヲ加ヘ若クハ管刑又ハ贖金ヲ附加スルコトア
リ

露西亞刑法

第二十二條 重罪刑ノ第三類ニ於ケル流刑及ヒ施體刑ハ其等差更ニ左ノ
如シ

- 一 等 悉比利亞國中最モ遠隔スル地ヘ流シ殖民トス及ヒ身分ナキ者ハ
答二十乃至三十
- 二 等 悉比利列國中遠隔スル地ヘ流シ殖民トス及ヒ身分ナキ者ハ答十
乃至二十

第二十三條 重罪刑ノ第四類ニ於ケル高加索外ニ流置ノ刑ハ重罪中止タ
一二特別ノ種類ニ限ルモノトス又其流置人ヲ置ク場所ハ該地管轄廳ノ
主ル所トス

第五十條 特權剝奪ノ刑ヲ以テ悉比利亞及ヒ他ノ遠隔地ヘ流置セシムル
ノ刑ヲ受ケタル者該地ニ於テ禁錮ノ期滿後ハ茲ニ營世ノ途ヲ擇ヒ所轄
廳ノ許可ヲ得テ住民ノ社會ニ入り納稅者ノ一人ニ加ハルヲ要ス然レト
モ仍ホ選舉ノ權ヲ有ス又商人其他免狀ヲ要スル家業ヲ營ムコトヲ得ス
自ラ自由農夫ノ業ヲ執ル爲メ地面ヲ買得シ得ルト雖モ其中渡サレタル

一定ノ場所ヲ去ルコトヲ得ス

參考

前條ニ引用シタル第三十五條乃至第四十三條ノ規定ヲ援用ス

印度刑法

第五十七條 終身流刑ノ分數ヲ計フルニハ二十年流ト同一トシテ之ヲ算スヘシ

第五十八條 凡流刑ヲ宣告シタル場合ニ於テ罪犯其流所ニ赴クマテハ加苦役囚獄ノ宣告ヲ受ケタル者ト同シク之ヲ處スヘシ

第七十三條 該刑法ニ於テ加苦役囚獄ヲ宣告スヘキ犯罪ヲ判決セララルトキハ裁判所ハ其宣告書ニ於テ三箇月ニ超エサル囚獄中ノ一部分即チ囚獄六箇月ニ超エサルトキハ一箇月ニ超ヘス囚獄六箇月以上一年ナルトキハ二箇月ニ超エス囚獄一年ニ超ユルトキハ三箇月ニ超エサル時間罪犯ヲ監牢ニ閉鎖スルコトヲ令スルヲ得ヘシ

第七十四條 監牢ヲ行フハ已ニ監牢ヲ受ケタル時間ヨリ少カラサル時日

ヲ經テ單ニ之ヲ行フヘシ一次ニ二十四日ニ過クヘカカラス而シテ囚獄三箇月ニ超エサルトキハ監牢ヲ受ケサル時日ヨリ少カラサル時日ヲ經テ更ニ監牢シ囚獄中ノ一箇月内七日ニ過クヘカラス

白耳義刑法

第十六條 凡禁錮ハ有期、無期ノ二等トス又有期禁錮ヲ分テ尋常、非常トス又尋常禁錮ヲ分テ二等トシ一ハ五年ヨリ十年ニ止マリ一ハ十年ヨリ十五年ニ止マル

非常禁錮ハ十五年ヨリ少カラス二十年ヨリ多カラサルモノトス

第十七條 凡禁錮ハ上裁ニ從テ刑場ヲ定ム即チ城塞内監役場ニ同シ

獨逸刑法

第十七條 城塞禁獄ハ無期又ハ有期トス有期城塞禁獄ハ十五年ヨリ長カラヌ一年ヨリ短カラス

無期城塞禁錮ノ刑ト特ニ法律上ニ云ハサレハ有期トスヘシ

埃及刑法

第三十五條 無期ノ繫獄ノ刑トハ政府ヨリ定メタル獄舍内ニ畢生間幽閉スル刑ヲ云フ

第三十六條 有期ノ繫獄ノ刑トハ政府ヨリ定メタル獄舍内ニ三年ヨリ少ナカラス十五年ヨリ多ラサル時間幽閉スル刑ヲ云フ

第三十七條 繫獄ノ刑ヲ言渡サレタル者ハ使役セラルヘシ

第三十八條 繫獄ノ刑ニ處セラレン者ハ警察規則ニ定メタル方法ニ從ヒ其獄舍内外ノ人ト通問スルコトヲ得ヘシ

埃太利刑法草案
第十條 國家禁錮ノ刑ハ之カ爲メ特ニ定メラレタル場所又ハ他ノ罪人ヲ入ルヘキ監獄ト外見上明ニ區別セラレタル場所ニ於テノミ之ヲ執行スヘキモノトス

國家禁錮ノ刑ヲ以テ拘禁セラレタル者ノ執業及ヒ生活ノ有様ハ間斷ナク之ヲ監督シ且其拘禁ニ直接ノ關係アラサル者ト談話スルコトハ止タ監獄則ニ定ムル制限以内ニ於テノミ之ヲ許スヘキモノトス

又此ノ制限以内ニ於テ彼等ハ其職業ヲ撰擇スルノ自由ヲ有シ且自己ノ費用ヲ以テ生活スヘキモノトス強制シテ或ル一定ノ職業ニ從事セシムルヲ許サス

唐律

流刑諸般流應配者俱役一年 疏議曰書云流宥五刑謂不忍刑殺宥之于遠也又曰五流有宅五宅三居大罪投之四裔或流之于海外次九州之外次中國之外蓋始唐虞今之三流即其議也

清律

流犯照依本省地方計所犯應流道里定發各處荒蕪及瀕海州縣安宜應遷徙者遷離鄉土一千里外

大賚律

凡犯流應配者三流俱役一年(本條稱加役流者配遠處役三年)

假刑律

流ハ三年、五年、七年ノ三等ニ分ツ皆蝦夷島ニ流ス

禁錮ハ半年 一年 一年半 二年 三年 永遠情ヲ量テ或ハ逼塞或ハ遠慮或ハ差控ヘ

二十日(舊二十)五十日(五十)百日(百)八十日(徒一年)九十日(一年半)百日(二年)百三十日(流三年)百七十日(五年)二百日(七年)

新律綱領

凡流ハ北海道ニ發遣シ罪ノ輕重ニ從ヒ役ヲ三等ニ分ツ一年ニ始マリ二年ニ止マル役滿レハ彼地ノ籍ニ編入シ便ニ從ヒ生業ヲ營マシム
凡邊戍ハ北海道ニ發遣シテ邊疆ノ戍役ニ充テ其功田賞祿ノ一身ニ止マル者ハ追奪ス仍ホ其才能用ユルニ堪ル者ハ限滿レハ地方ノ吏役ト爲スコトヲ聽ルス役限流法ノ如シ
凡謹慎ハ外人ニ接見通信スルコトヲ許サス家族ハ接見シ奴婢ハ出入スルコトヲ許ス若シ疾病アレハ醫ヲ延クコトヲ許シ近隣火ヲ失シ邸宅ニ延ントスルトキハ防救遷徙スルコトヲ許ス(期限ハ一十日、二十日、三十日、四十日、五十日)

凡閉門ハ門扉ヲ鎖シ薪糧等ヲ通スル外奴婢ト雖モ出入スルコト許サス疾病失火アレハ謹慎ノ如シ若シ日未タ滿タスシテ死亡スレハ即チ罪ヲ免ス(六十日、七十日、八十日、九十日、百日)

凡禁錮ハ一室内ニ鎖錮セシメ限滿テ仍ホ收用スルコトヲ許ス餘ハ閉門ノ如シ(一年、一年半、二年、二年半、三年)

改定律例

凡禁錮ハ一室内ニ鎖錮セシメ外人ニ接見通信スルコトヲ許サス若シ疾病アレハ醫ヲ延キ及ヒ近隣火ヲ失シ邸宅ニ延燒セントスルトキハ防禦遷徙スルコトヲ聽ス其才能用フルニ堪ル者期滿レハ仍ホ收用スルコトヲ聽シ限未タ滿スシテ死亡スレハ即チ罪ヲ免ス其五年、七年、十年ニ該ル者功俸賞祿ノ一身ニ止ル者ハ追奪シ終身ニ該ル者世祿ハ子孫ニ給ス其期限ハ十日、二十日、三十日、四十日、五十日、六十日、七十日、八十日(明治七年七月禁錮ヲ禁獄ニ改ム九十日、百日、一年、一年半、二年、二年半、三年、五年、七年、十年、終身)

舊幕法制

遠島 江戸ヨリ流罪ノ者ハ大島、八丈島、三宅島、新島、神津島、御藏島、利島、右七島ノ内ヘ遣ス。京、大阪、西國、中國ヨリ流罪ノ分ハ薩摩、五島、隱岐國、壹岐國、天草郡ヘ遣ス。

御目見以上流人并女流ハ船中別圖ニテ指遣候事。

八丈島、御藏島、兩島ヘノ流人ハ三宅島迄指遣島守ヘ相渡夫ヨリ順風次第兩島ヘ遣候事。

逼塞 門ヲ閉夜中ククリヨリ不目立様ニ通路不苦。

但病氣ノ節醫師ヲ招キ類焼竝自火ハ不及申近所ヨリ出火ノ節屋敷危體

ニ候ハ、立退其段頭支配ヘ可申達門ノ内ヨリ板ヲ打竝窓ヲ斜メニ致スニ不及。

閉門 右同斷。

遠慮 門ヲ閉ククリハ引寄夜中不目立様通路苦カラス。

戸 門ヲ閉櫃ヲ以テ釘メ。

但村方戸メハ申付ス輕キハ叱リ過料江戸町續ノ村町支配ハ戸メ過料ニテ

可濟過料村ニテモ侍ハ戸メ

手鎖 其掛リニテ手鎖掛ケ封印付ル五日メ切ニ封印改メ五日手鎖ノ分ハ隔

日封印改メ

押込 他出不爲仕戸ヲ立寄セ置

第三 釋義 本條ハ禁錮ニ關スル規定ニシテ其第一項ハ禁錮ノ期限ヲ定メ之

ヲ無期及ヒ有期ニ分チ有期禁錮ハ一月以上十五年以下ニ亘ルモノト爲セリ

有期禁錮ニ付テモ亦前條下ニ説明スル如ク毫モ舊刑法ニ定メタル刑ノ範圍

ヲ廣カラシメタルモノニ非ス其期限ヲ一月以上十五年以下ト爲シタルハ多

數ノ刑名ヲ一統シタル結果ニ外ナラス

第二項ハ禁錮ノ執行ニ關スル規定ニシテ舊刑法第二十條第一項、第二十三條

第一項及ヒ第二十四條第一項ノ規定ノ一部ニ該當シ前條ト同一ノ趣旨ニ於

テ監獄ニ拘置スト規定シタリ其懲役ト異ナル所其大體ニ於テハ罪質ニ因リ

區別スル方針ニ據リタルモノニシテ刑ノ效力トシテハ定役ヲ科セサル點ニ

在リトス

第四 異説 第一 懲役禁錮共ニ定役ヲ科シ兩者何レカノ一刑ト爲スヘシ
 理由 懲役禁錮共ニ自由刑タル性質ニ於テ異ナル所ナク同一ノ自由刑中一
 ハ定役ヲ科シ一ハ科役セスト爲スハ頗ル條理ニ悖戾スルモノト謂ハサル可
 ラス畢竟罪質ニ因リ之ヲ區別セムトスルハ從來ノ慣習上國事犯ノ如キ犯人
 ニ向テ定役ヲ付スルノ刑ヲ科スルコトノ穩當ナラスト爲ス觀念ニ基キタル
 モノナルヘシト雖モ國事犯ノ破廉耻罪ニアラサルコトハ勿論ナレトモ之ヲ
 以テ名譽ノ犯罪ト爲スハ誤マレリ等シク國法ノ禁ヲ犯シタルモノナル點ニ
 於テハ彼此擇ム所ナシ況ンヤ本法各本條ノ規定ニ依ルモ必スシモ罪質ノミ
 ニ依リ區分シタルモノト言フコトヲ得ス場合ニ依リテハ同一ノ犯罪ニシテ
 懲役ト禁錮ハ擇一刑ト爲シタルモノ少ナカラス殊ニ定役ノ有無ヲ以テ犯人
 處遇ノ上ニ於ケル等差ト爲シ破廉耻罪ヲ犯シタル者トノ權衡ヲ得セシメン
 トスルカ如キハ縱シ單ニ優遇ト爲スノ趣旨ニアラストスルモ其根本ニ於テ
 誤解ナリト謂ハサル可ラス犯人ノ身分ニ因リテハ監獄ニ拘留セララル一事
 ヲ以テ畢生拭フ可ラサル汚辱ト爲ス者アリ國事犯者ノ多クハ名譽智識ヲ有

スルノ國士ナリ豈ニ區々タル定役ノ有無ヲ以テ榮辱ト爲ス者アラシヤ

第二 前條ニ詳説セル異説第一及第二ヲ採用ス

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年
 年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降
 スコトヲ得

第一 沿革

第一案 第六十二條 禁錮罰金ヲ減輕ス可キトキハ其刑期金額ノ四分ノ一
 ヲ減スルヲ以テ一等等ト爲シ其加重ス可キトキハ亦四分ノ一ヲ加
 フルヲ以テ一等等ト爲ス但禁錮ハ加重ニ因リ七年ヲ超過スルコト
 ヲ得ス

禁錮罰金ノ加減二等以上ニ及フトキハ其已ニ加減シタルモノニ
 就テ加減ス

第六十三條第一項 禁錮ヲ減シテ其長期十日以下ニ至ルトキハ其
 相當日數ノ拘留ニ處ス若シ其短期ノ三十日以下ニ至ルトキハ亦

拘留ニ處スルコトヲ得

第二案 第八十五條 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ加重シテ二十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三案 第十四條 懲役又ハ禁錮ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

第八十六條 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ加重シテ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四案 第十四條 第三案ニ同シ

第八十五條 第三案ニ同シ

第二 參照法律

埃太利刑法

第四十九條 加等ノ爲メ各重罪ニ科スヘキ刑ノ種類ヲ變シ及ヒ其法律ヲ以テ定メタル制限ヲ超過スヘカラス

露西亞刑法

第五百五十四條 該刑法ニ掲クル刑ハ各犯人ノ情狀ニ從ヒ一等又ハ數等ヲ減スルコトアルヘシ而シテ刑類ノ區域内ニ以下ノ等ナキトキハ減シテ他ノ刑類ニ入ルコトヲ得即チ重罪ノ第二類ヨリ第三類ニ降リ第三類ヨリ懲役刑ノ第一類ニ降リ第一類ヨリ第二類ニ降リ第五類ヨリ第六類ニ降ルコトヲ得

懲治刑第二類ヨリハ決シテ他ノ寛ナル刑類ニ入ルコトヲ得ス又懲治刑ノ第三類第四類ヨリ第五類ニ降ルコトヲ得ス

若シ一等又ハ數等ヲ加フヘクシテ該刑法ニ掲クル刑類ノ内ニ於テ更ニ加フヘキ等ナキトキハ前條ノ例ニ依リ懲治刑第六類ヨリ其第五類ノ重罪刑ノ第二類ヨリハ第一類第三類ヨリハ第二類ニ上ルコトヲ得然レトモ懲治刑ハ其第五類ヨリ第四類或ハ三類ニ上ルコトヲ得ス及ヒ其第三類ヨリ第二類ニ上ルコトヲ得ス又懲治刑ヨリ重罪刑ニ上ルコトヲ得ス此場合ニ於テハ他ノ刑類ニ上ルヘキ代リニ唯刑ノ度ヲ上ルノミ則チ一年二年或ハ三年ヲ遷延シテ以テ一等二等三等ヲ加フルニ代フヘシ

第三 釋義 本法ハ懲役及ヒ禁錮ノ長期ヲ十五年ト定メタルモ再犯若クハ併合罪ノ場合ニ於テ刑ヲ加重スルノ規定アルヲ以テ此場合ニ於テハ之ヲ十五年以上ト爲スノ必要アリ然レトモ單純ニ第六十八條ノ規定ニ依ルヘキモノト爲ストキハ長期數十年ニ亘リ其實無期刑ト異ナルコトナキニ至ルノ處アルヲ以テ之ヲ二十年ニ制限スルコトト爲シタルモノノ如シ而シテ第二案ニ於テハ此ノ規定ヲ加減例中ニ置キ法文ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ加重シテ二十五年ヲ超ユルコトヲ得ストシ第三案第四案ニ於テハ制限期間ヲ二十年ト爲スノ外凡テ第二案ト同一ノ法制ヲ執リタルモ本法ハ之ヲ本章中ニ收メ尙法文ヲ修正セリ蓋シ第三案第四案ノ如ク二十年ヲ超ユルコトヲ得スト規定スルトキハ例ヘハ再犯加重ノ場合ニ於テ其計算二十年以上ニ至ルトキハ本條ノ規定ニ依リ其加重ヲ二十年ニ止ムル趣旨ニ解釋スルノ處ナキヲ保セス本條ハ計數マテ之ヲ制限スルノ趣旨ニ非スシテ其計數ハ二十年以上ニ及フモ妨ケナク唯實際科スル所ノ刑ハ二十年ヲ超過セサルコトヲ命シタルモノナルヘキヲ以テ本法ニ於テハ其趣旨ヲ明確ニセムカ爲メニ有期ノ懲役又ハ

禁錮ハ加重シテ二十年ニ至ルコトヲ得ト修正シ加減例ヨリ本章ニ移スノ結果前案ノ減輕ノ上ニ冠シテ之ヲ連結セルモノナルヘシ
 本法ニ於テハ懲役及ヒ禁錮ノ短期ヲ一月ト規定シタルヲ以テ減輕ノ結果其刑期一月以下ニ處スヘキトキハ之ヲ如何ナル刑ト爲スヘキヤ疑ナキ能ハス是レ本條ノ規定アル所以ナルヘク舊刑法ハ其第七十一條ニ於テ禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フトキハ拘留科料ニ處スルコトヲ得ル旨ノ規定アリト雖モ此規定ハ實際ニ於テハ頗ル不便ナリ如何トナレハ刑カ單純ニシテ一年若クハ一ヶ月ニ處スト云フ如ク其範圍ナキ場合ニ於テハ差支ナシト雖範圍ヲ有スル刑何月以上何年以下ト云フ如クニ於テハ其短期ハ一月以下ニ降リ長期ハ尙ホ一月以上ニ在ル場合ヲ生スヘシ此場合ニ於テハ長期ハ懲役或ハ禁錮ト稱シ短期ノミ拘留ト稱スルノ結果ヲ生スヘク同一刑中ニ長期ト短期ト刑名ヲ異ニスルカ如キハ頗ル妥當ナラサレハナリ但シ第十二條及ヒ第十三條ニ於テ有期懲役又ハ禁錮ハ一月以上十五年ト定メナカラ直ニ本條ニ於テ反對ノ規定ヲ爲スハ妥當ナラストスルノ批

難ナキニ非スト雖第十二條及第十三條ハ普通ノ場合ヲ規定シ本條ハ其例外ヲ規定シタルモノナルノミナラス減輕ニ因リ一月以下ニ降ル場合ニ於テハ法律ハ懲役禁錮ト云フ刑ヲ定メタルモノナレハ減輕スヘキ事情ノ爲メ原則ニ變更ヲ來タシタルトキハ一月以下ノ特殊ノ懲役又ハ禁錮ヲ認メ成ルヘク其性質ヲ失ハサルヲ可トス是レ特ニ本條後段ノ規定ヲ設ケタル所以ナルヘシ而シテ本條ハ單ニ一月以下ト謂フト雖モ第六十八條及第七十一條ノ規定ニ依レハ如何ナル場合ト雖モ事實上七日半以下ニ降ルコトナシ

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第一 沿革

第一案 第二十五條 罰金ハ五圓以上トシ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ定ム
第六十三條第二項 罰金ヲ減シテ其多數五圓未滿ニ至ルトキハ其相當額ノ科料ニ處ス若シ其寡數ノミ五圓未滿ニ至ルトキハ亦科料ニ處スルコトヲ得

第二案 第十五條 罰金ハ一圓以上トス

第三案 第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第四案 第十五條 第三案ニ同シ

第三 參照法律

白耳義刑法

第三十八條 輕重罪罰金ハ二十六フランクヨリ少ナカラス總テ罰金ハ皆官ノ益ニ歸スヘシ

獨逸刑法

第二十七條 重輕罪ノ罰金ハ一「ターレル」ヨリ少ナカラス

英吉利刑法典

贖金ノ多寡ハ裁判官ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

露西亞刑法

第四十四條 罰金ハ罪科ノ輕重ニ應シ其金額一定セス而シテ犯人若シ科

セラレタル金額ヲ納ムル能ハスト雖モ該犯罪以前ノ債主ノ一モ損失ヲ受ケシムルコトナシ

第四十五條 本刑法ニ從テ科スル罰金ヲ收得スヘキ官廳若シ未定ナルトキハ從來ノ獄舎修覆若クハ新獄舎設立ニ供スヘキ格別ノ資本トシ之ヲ貯ヘ置クヘシ

瑞典刑法

罰金 刑法上特別ノ定款アラサルトキハ五、タール以上五百、タール以下タルヘシ

西班牙刑法

贖金ノ多寡ハ罪犯ノ貧富ニ應シテ之ヲ定ム

埃及刑法

第五十四條 罰金トハ犯人ヲシテ輕罪ニ付テハ百、ピアストルヨリ少ナカラス一萬、ピアストルヨリ多カラサル金高ヲ官ニ納レシムル刑ヲ云フ
印度刑法

第六十二條 本條贖金ノ數ヲ定メサルトキハ罪犯ニ出サシムル高ハ限リナシト雖モ過分ナルヘカラス

奧太利刑法草案

第二十四條 罰金ハ重罪ニアリテハ十、グルデン、輕罪ニアリテハ五、グルデン、違警罪ニアリテハ一、グルデン以下ナルコトヲ得サルモノトス
罰金ノ額ヲ定ムルニハ常ニ既決犯人ノ財産、營業及ヒ所得ノ有様ニ注意スヘキモノトス

那威刑法

第二十七條 罪ニ對シテハ三、クローン乃至二萬、クローンノ金刑及ヒ違背ニ對シテハ一、クローン乃至一萬、クローンノ金刑ヲ科スルコトヲ得
此範圍内ニ於テハ金刑ハ罪ニ對スルモノニ付キテハ少ナクトモ被告者ノ二日間ノ想定收入ヲ下ラス多クトモ其三月間ノ想定收入ヲ超エサル様及ヒ違背ニ對スルモノニ付キテハ少ナクトモ其半日間ノ收入ヲ下ラス多クトモ半月間ノ收入ヲ超エサル様之ヲ確定スヘシ若シ此種ノ方

法ノ基礎ト爲スヘキ收入皆無ナルトキハ破宣告者ノ平均想定消費額ヲ以テ之ニ代ユヘシ其際被宣告者ノ財産關係並ニ其生活關係上辨濟能力ヲ有スル想定額ニハ特別ノ顧慮ヲ爲スヘシ
金刑ハ國庫ニ歸屬ス

和蘭刑法

第二十三條 罰金ノ額ハ五十「サン」以上トス

(原註) 一「フロラン」(「グルデン」)ハ二「フラン」十「サンチーム」ニ當リ、「サン」ハ二「サンチーム」一〇ニ當ル故ニ半「フロラン」即チ五十「サン」ハ大約一「フラン」(「フラン」〇五)ニ當ル

第三 釋義 本條ハ舊刑法第二十六條ヲ修正シタル規定ニシテ舊刑法ハ罰金ヲ二圓以上ト爲シ科料ヲ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シタルヲ以テ一圓九十五錢一厘ヨリ一圓九十九錢九厘マテハ罰金ニモアラス又ハ科料ニモアラサル奇觀ヲ呈シタリ本法ハ此法制ヲ妥當ナラストシ罰金ヲ二十圓以上トシ科料ヲ二十圓未満ト爲シタリ而シテ其科スヘキ金額ヲ各本條ニ於テ規定

スヘキコトハ明文ヲ要セサルヲ以テ本條ニハ單ニ罰金ハ二十圓以上トスト規定シ以テ舊刑法第二十六條ノ仍ホ以下ノ語句ヲ削除セルモノナルヘシ本條但書ハ懲役及ヒ禁錮ニ付キ前條後段ヲ設ケタルト同一ノ理由ニ依リ之ヲ設ケ減輕ノ場合ニ於テハ二十圓以下ニ降ルモ尙罰金タルノ性質ヲ失ハサルコトヲ明ニシタルモノノ如シ而シテ本條ノ二十圓以下トアル中ニハ二十圓ヲ含ムヘキヤ否ヤニ付テハ單ニ文字ノ解釋ノミニ依レハ二十圓ヲ含ムモノト解釋スルヲ相當トス從テ實際處斷ノ上ニ於テハ減シテ二十圓ト爲スコトヲ得ルモノノ如シト雖モ本條ハ前條ト同一ノ理由ニ依リ罰金ノ額カ二十圓未満トナルモ差支ナシト云フノ趣旨ニ外ナラサレハ之ヲ二十圓以下ニ降スコトヲ得ト規定スルモ實際適用ノ上ニ於テハ二十圓ヲ含マサルコト明瞭ナリ況ンヤ減輕ハ加減例ノ規定ニ依リ爲スヘキモノニシテ裁判官ノ自由裁量ニ任スヘキモノニアラサレハ減シテ二十圓ニ處斷スル如キ場合ハ斷シテ之ナキニ於テヲヤ

第四 異說 本條但書ヲ削除シ罰金ノ額ヲ十圓トスヘシ 理由 本條但書ニ

依レハ減輕ノ場合ニ於テハ罰金ノ額ハ之ヲ二十圓以下ニ降スコトヲ得而シテ第十七條ニハ科料ハ十錢以上二十圓未満トストアリ今若シ減輕シテ十圓ト爲ストキハ科料ノ額ト擇ム所ナキニ至ラン禁錮ト拘留ノ如キハ其刑期ニハ多少異ナラサル場合ヲ生スヘキモ執行ノ方法ヲ異ニスルノミナラス其性質ニ於テ異ナル所アルヲ以テ之レヲ別異スルモ敢テ不當ニアラサルヘシト雖罰金ト科料ハ其性質ニ於テ殆ント異ナル所ナク罰金ノ十圓ト科料ノ十圓トハ如何ニ之レヲ區別スヘキ乎恐クハ其標準ヲ發見スルコト能ハサルヘシ或ハ罰金ヲ科スヘキ罪ト科料ヲ以テ處罰スヘキ罪ハ全ク罪質ヲ異ニスルニアラスヤト論スルモノナキニ非スト雖如此區別カ罰金ヲ科スヘキモノト科料ヲ科スヘキモノトノ間ニ明確ニ定ムルコトヲ得ヘキモノナレバ或ハ之レヲ別異スルコト妥當ナルヘキモ這ハ到底不可能ノ事ニシテ殊ニ罰金ト科料ノ間ニ此等ノ區別ヲ設ケントスルカ如キハ非常ニ困難ナル業ニ屬ス又金刑ト自由刑ヲ科スル場合ニ於テ罰金ヲ選擇スルヲ適當ト爲スコト多カルヘシ本法ニ於テハ自由刑ト金刑ヲ擇一刑ト爲シタルモノアリ又全ク金刑ト爲シ

タルモノアリ今此場合ニ於テ罰金ノ額ヲ多クスルトキハ執行ノ困難ナルヨリ漸次金刑ヲ減少スルノ傾向ヲ生スヘシ故ニ罰金ノ額ヲ十圓ニ減スルハ實際ノ事情ニ適應スルノミナラス刑ノ量定ノ上ニ於テモ便益尠少ナラサルヘシ

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未満トシ拘留場ニ拘留ス

第一 沿革

- 第一案 第二十七條 拘留ハ拘留所ニ留置シ其期限ハ一日以上二十五日以下トシ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ定ム
- 第二案 第十七條 拘留ハ一日以上一月以下トシ拘留場ニ拘留ス
- 第三案 第十六條 拘留ハ一日以上一月未満トシ拘留場ニ拘留ス
- 第四案 第十六條 第三案ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第四百六十五條 註誤ノ罪ノ爲メ言渡ス所ノ禁錮ノ時間ハ後ニ記シタル

種類ト區別ニ從ヒ一日ヨリ少ナキコトナク五日ヨリ多キコトナカルハ

シ
一日禁錮スルノ期限ハ二十四時間トス

白耳義刑法

第二十八條 凡違警罪ハ一日ヨリ少ナカラス七日ヨリ多カラサルヘシ但

特別ノ法アルトキハ此限ニ在ラス

第二十九條 凡違警罪ニ該ル者ハ官府ヨリ定置スル所ノ獄舎ニ繋クヘシ

違警罪ヲ犯シ入獄スル者ハ力役ニ附スヘカラス

獨逸刑法

第十八條 拘留ノ刑ハ六週日ヨリ長カラス一日ヨリ短カラス拘留ノ刑ハ

唯其自由ヲ止ムルノミ

埃及刑法

第四十七條 誣誤ニ付テハ其刑期ヲ二十四時ヨリ少ナカラス一週ヨリ多

カラスト爲スヘシ

第三 釋義

本條ハ拘留刑ノ期限及ヒ其執行法ヲ定メタルモノナリ舊刑法ハ拘留刑ノ期間ヲ一日以上十日以下トシ之ヲ加重スルモ十二日ニ至ルニ過キス實際上其範圍狹隘ニ失ス故ニ之ヲ擴張シテ一日以上三十日未滿ト爲シタルモノナルヘシ第二案以下ニ於テハ其長期ハ月ヲ以テ定メタレトモ本條ニ於テハ之ヲ三十日未滿トセリ蓋シ第二案以下ニ於テハ月ノ計算ハ期間計算ノ章條ニ於テ三十日ト稱スルコトニ規定セリト雖モ本法ニ於テハ期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テスルモノハ凡テ曆ニ從フコトニ變更セルヲ以テ特ニ三十日未滿ト規定シ其期間ヲ明定セルモノナルヘシ而シテ以下ヲ未滿ト改メタル結果三十日ヲ包含セサルコトハ明白ナリ

第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

第一 沿革

第一案 第二十八條 科料ハ十錢以上二十五圓トシ仍ホ各本條ニ於テ其多

寡ヲ定ム

第二案 第十八條 科料ハ十錢以上三十圓以下トス

第三案 第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

第四案 第十七條 第三案ニ同シ

佛蘭西刑法

第四百六十六條 註誤ノ罪ニ付キ言渡スヘキ罰金ハ後ニ記シタル種類ト

區別トニ從ヒ一「フランク」ヨリ少ナカラス十五「フランク」ヨリ多カラサル

ヘシ但其罰金ハ註誤ノ罪ヲ犯シタル地ノ邑ノ利益ニ用フヘシ

白耳義刑法

第三十八條 凡違警罪罰金ハ一「フランク」ヨリ少ナカラス二十五「フランク」

ヨリ多カラサルヘシ但特別ノ法アルトキハ此限ニ在ラス

獨逸刑法

第二十七條 違警罪ノ罰金ハ一「ターレル」ノ二分ノ一ヨリ少ナカラス

埃及刑法

第五十四條 罰金トハ罪人ヲシテ註誤ニ付テハ十「ピアストル」ヨリ少ナカ

ラス百「ピアストル」ヨリ多カラサル金高ヲ官ニ納レシムル刑ヲ云フ

第三 釋義

本條ハ舊刑法第二十九條ヲ修正シタルモノニシテ舊刑法ハ科料
金高ヲ五錢以上一圓九十五錢ト定メ加重ノ結果二圓四十錢ニ至ルニ過キサ
ルヲ以テ其範圍頗ル狹隘ニ失ス故ニ改メテ十錢以上二十圓未滿ト爲シタル
モノナルヘシ

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以上以

下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期

間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユル

コトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科
料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ
之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内、科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス
留置期間内、罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス
第一 沿革

第一案 第二十六條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサルトキハ一日ニ折算シ無役禁錮ニ換フルコトヲ得其一圓ニ滿サルモノト雖モ仍ホ一日ニ計算ス但其禁錮ハ公

ニ關スル法律上ノ結果ヲ生セス且其期限ハ同一ノ罰金ニ付テハ一年ヲ超過スルコトヲ得ス

罰金ヲ禁錮ニ換フルニハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所長之ヲ命ス但裁判所長ハ受刑者ノ情狀ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ其命令ヲ取消スコトヲ得

禁錮限内罰金ヲ納メタルトキハ其經過シタル日數ヲ控除シテ禁錮ヲ免ス

第二十九條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサルトキハ第二十六條ノ例ニ照シ拘留ニ換フルコトヲ得

第二案 第十六條 罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

罰金ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金不完納ノ場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

裁判確定後一月内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納メタルトキハ罰金ノ金額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

第十九條 科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一月以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ二月ヲ超ユルコトヲ得ス

一圓以上ノ科料ニ處セラレタル者ニ對シテハ裁判確定後一月内ニ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條第二項、第四項及ヒ第五項ノ規定ハ科料ニ之ヲ準用ス

第三案 第十九條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ

期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一月以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ二月ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後一月内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ金額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日

數ニ充ツ

一七二

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

第四案 第十八條 第三案ト同シ
第二 參照法律

舊刑法

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルコトヲ得ス

若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ控除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

佛蘭西刑法

第五十二條 若シ犯人罰金ヲ出シ又ハ品物ヲ還シ又ハ損害ヲ償ヒ又ハ裁判費用ヲ償フ可キノ言渡ヲ受ケタルトキ其言渡ニ從ハサルニ於テハ其犯人ヲ禁錮前ニ記スル所ノ禁錮ノ刑トハ異ナレリ(メ)ルノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第五十三條 政府ノ爲メ犯人ニ罰金及ヒ裁判費用ヲ出ス可キ言渡ヲ爲シタルトキ若シ其犯人施體又ハ加辱ノ刑期ノ終リシ後其罰金及ヒ裁判費用ヲ出ササルニ因リ滿一年以上禁錮ヲ受ケタルニ於テハ其金高ヲ償フコト能ハサルノ確證ヲ法律ニ循ヒ得タル上ニテ假ニ其禁錮ヲ赦宥スルコトヲ得ヘシ

又輕罪ニ管シタルトキハ其禁錮ノ期限ヲ六月ニ減スヘシ然レトモ犯人其金高ヲ償フヘキ資産ヲ得タルトキハ更ニ之ヲ禁錮スヘシ

白耳義刑法

第三十九條 凡罰金ハ同罪同犯者ノ各人ニ科シ連帶シテ出スヲ許サス

第四十條 凡罰金ヲ科スルハ犯人自ラ出廷スレハ裁判ノ日ヨリ算シ出廷セサレハ裁判狀ヲ送致スルノ日ヨリ算シ若シ二月ヲ過キ猶ホ納メサル者ハ入獄ニ處ス但重罪ハ入獄六月輕罪ハ三月違犯罪ハ三日タルヘシ

二罪ヲ犯ス者ハ其本刑ヲ受クヘキ獄ニ繋クヘシ

若シ特ニ罰金ニ處スヘキ者ニシテ其出金シ能ハサル者ハ各其情狀ニ從テ懲治獄若クハ違警獄ニ處スヘシ

第四十一條 前上ノ罪ヲ以テ獄ニ繋ルル者ハ何ノ景況タルヲ論セス其出金スルヲ待テ之ヲ放免スルコトヲ得若シ財産ヲ有スル者ハ入獄ヲ以テ罰金ニ換フルヲ聽サス

獨逸刑法

第二十八條 犯人罰金ヲ出ス能ハサレハ禁獄ニ換フ若シ違警罪ニ依リ罰金ニ處セラレタル者ハ拘留ニ換フヘシ

輕罪ニ依リ罰金ノミニ處セラレ或ハ罰金ヲ本刑トシテ處セラレ又ハ裁判官ノ見込ニ依リ罰金拘留ヲ併科シタルトキ若其罰金二百タールレ以

上ニ至ラス或ハ拘留ニ換フヘキ日數六日ニ過キサレハ其罰金ヲ拘留ニ換フルコトヲ得ヘシ

若シ罰金ヲ徒刑ト共ニ處シタルトキハ其罰金ニ換フヘキ禁獄ハ第二十一條ニ從ヒ徒刑ニ換フヘシ(即禁獄一年ヲ徒刑八ヶ月ニ換フ)其犯人已ニ受ケタル刑ヲ控キ餘ル期限ヲ折算シ其期限ニ等シキ高ニ至ル罰金ヲ納レハ其囚獄ヲ免ルヘシ

第二十九條 罰金ヲ禁獄或ハ拘留ニ換フルトキハ輕重罪ニ因リ處シタル一「タール」ヨリ五「タール」ニ至ル罰金又違警罪ニ依リ處シタル一「タール」ノ三分ノ一ヨリ五「タール」ニ至ル罰金ハ一日ノ禁獄或ハ拘留ニ等シ

罰金ニ換ユル可キノ刑ハ一日ヨリ短カラス若シ拘留ナレハ六週日ヨリ長カラス禁獄ナレハ一年ヨリ長カラス若シ一罪ニ付キ實決又ハ罰金ノ二ツノ内ニ從ヒ處決シ得ヘキ者裁判官ノ見込ニ依リ罰金ニ處シタルトキ其罰金ヲ上ニ記シタル折算法ニ照シ折算シタル刑期本刑實決ノ期ニ

至ルトモ其實決ノ期ヨリ延スコトヲ得ス(假令ヘハ十五日ノ禁獄或ハ百「ターレル」ノ罰金ニ該ル罪ヲ犯シ因テ百「ターレル」ノ罰金ニ處ス犯人無力ニシテ納ムルコト能ハス本文折算法ニ依リ禁獄ニ換フルトモ其本刑禁獄十五日ヲ過スコトヲ得サルヲ云フ)

第三十條 犯人ノ死セサル前終決ノ裁判ニテ宣告シタル罰金ニ非サレハ其犯罪人ヨリ取立ヘカラス

英吉利刑法典

罰金ヲ言渡サレ之ヲ出ササレハ其動産ヲ差押ヘ之ヲ賣却セン爲メ裁判官ハ財産差押狀ヲ出スコトヲ得ヘシ
裁判官若シ之ヲ出ストキハ原告及ヒ其家族ヲ破産セシムルニ至ランコトヲ察シ又原告ヨリ其物品ヲ有セサルコトヲ陳述スレハ取押ヲ爲サス之ニ換フルニ徴治場ニ入レ或ハ其場ナキトキハ通常ノ獄ニ入レ苦役ヲ加ヘ或ハ加ヘサルコトアルヘシ其期限方法ハ取押狀ヲ出シテ物品ノナキ時ト同様ナルヘシ

罰金ヲ併科シタルトキ罰金ヲ納メサレハ入獄ノ日ヲ増スコトヲ得ヘシ其期限ハ總テ裁判官ノ意見ニ任ス

罰金ハ何人ヲ問ハス代之ヲ納ムルヲ得ヘシ

五磅以下ノ罰金ニ處セラレタル者財徴スヘキモノナキトキハ左ノ例ニ從

ヒ囚獄ヲ以テ之ニ換フ

罰金

囚獄

十シリング以下

七日以下

十シリング以上一磅以下

十四日以下

一磅以上二磅以下

一月以下

二磅以上五磅以下

二月以下

奧太利刑法

第二百六十條 罰金ヲ科スヘキトキ犯人或ハ其親屬ノ資産若クハ活計ヲ

失フヘキ場合ニ於テハ罰金ニ換フルニ禁獄ノ刑ヲ以テス但法律上特ニ

掲ケサルトキハ毎五「グレン」ヲ以テ一日ノ禁獄ニ折算ス

埃太利刑法草案

第二十五條 總テ罰金ヲ言渡ス科刑ニハ之ヲ納付セサル場合ニ於テ之ニ換ルヘキ自由刑ヲ同時ニ定ムヘキモノトス
違警罪及ヒ輕罪ニ於テ單ニ罰金ノミヲ言渡ストキハ之ニ換ルヘキ自由刑ハ拘留ナリトス但第十六條ノ要件存在スルカ或ハ其ノ適用スヘキ刑カ國家禁錮ト罰金ノミニ就テ撰擇ヲ許スモノナルトキハ國家禁錮ヲ科スヘキモノトス

罰金ヲ自由刑ト共ニ言渡シタル場合ニハ其罰金ハ同種ノ自由刑ニ換刑スヘシ此場合ニ於テハ第十四條ニ定メタル禁錮又ハ拘留ノ刑ノ一般ノ最長期ヲ超過スルコトヲ許スヘキモノトス

第二十六條 罰金ヲ自由刑ニ換刑スル場合ニハ三乃至十五「フロリン」ノ罰金額ニ付テ一日ノ懲役二乃至十「フロリン」ノ罰金額ニ付テ一日ノ禁錮又ハ國家禁錮一乃至十「フロリン」ノ罰金額ニ付テ一日ノ拘留ヲ科スルヲ得ルモノトス但八月ノ懲役又ハ一年ノ禁錮又ハ國家禁錮又ハ二月拘留ヲ

超ユルヲ許サス若シ其罰スヘキ所爲カ罰金又ハ自由刑ヲ撰擇シテ科スルコトヲ得ルモノナルトキハ此場合ニ於テ科スヘキ自由刑ノ最長期ヲ超ユルヲ許ササルモノトス
十「フロリン」ニ達セサル罰金ノ換リニ拘留ヲ定メ而シテ之ヲ納付セザリ

シ場合ニハ一日ヨリ短キ拘留ヲ科スルコトヲ得ルモノトス

第二十七條 服役シタル刑ヲ以テ尙ホ償却シ終ラサル丈ケノ罰金額ヲ納付シタルトキハ罰金ニ換ヘテ科セラレタル自由刑ハ其執行ヲ免セラレルコトヲ得ルモノトス

第二十八條 判決カ既決犯人ノ生存中ニ確定シタルトキニアラサレハ其ノ遺産ヨリ罰金ヲ取立ツルコトヲ許ササルモノトス
生存セシ配偶者又ハ兒子ノ生活ヲ害セサル場合ニ於テノミ強制シテ罰金ヲ取立ツルコトヲ得ルモノトス

露西亞刑法

第九十條 罰金ノ刑ニ處セラレタル者若シ之ヲ納メ得サレハ左ノ如ク禁

銀ノ刑ニ換テヘシ

二十「ル」以下ノ罰金ニ處セシトキハ各五十「コペーケン」毎ニ一日ノ拘留ニ換テヘシ
二十「ル」以上五十「ル」以下ノ罰金ニ處セシトキハ一月ノ拘留ヲ以テ五十「コペーケン」相當トシテ算定ス

又爾餘ノ額ニ上レハ一日ヲ以テ各一「ル」相當トシテ算定ス但此規則ヲ以テ罰金ヲ拘留ニ換ヘシト雖モ一罪ヲ以テ五年以上ノ期ニ至ラシムルコトヲ得ス然レトモ犯罪者ノ身分及ヒ體力服役ニ耐ヘ得ヘキトキハ裁判所ニ於テ之ヲ公役ニ服セシムヘシト認定スルトキニ於テ其役ニ服セシメ而シテ其賃料ヲ以テ罰金ニ充テ其額ヲ除キ去ルヘシ

瑞典刑法

犯人若シ罰金ヲ納ムルコト能ハサレハ水及ヒ麵包ノミヲ給スル禁獄ノ刑ニ換フヘシ此場合ニ於テハ最初五日間ノ其一日ハ罰金ノ五「タール」ニ當テ其次五日間ノ一日ハ十「タール」ニ當テ又其次五日間ノ一日ハ二

十五「タール」ニ當テ其後ニ至テハ一日ヲ以テ五十「タール」ニ當ツヘシ又罰金ヲ以テ禁獄ニ換ルトキ其禁獄ノ期限ハ三日以上二十日以下タル可シ或ハ法律ニ記載シタル所ノ特別ナル場合ニ於テ水及ヒ麵包ノミヲ給スル禁獄ヲ用フヘカラサルトキハ其罰金ヲ以テ普通ノ禁獄ニ換フヘシ如此モノハ三日ノ普通禁獄ヲ以テ水及ヒ麵包ノミヲ給スル禁獄ノ一日ニ當ツヘキナリ

西班牙刑法

贖金ヲ出スコト能ハサル場合ニ於テハ一「リール」ヲ以テ一日ノ入獄ヲ折算ス

埃及刑法

第二十三條 犯人ニ罰金ヲ納レ及ヒ相手方ノ損失ヲ償ヒ且ツ其ノ裁判費用ヲ償フヘキノ言渡ヲ爲ストキハ必ス亦若干ノ期限間其犯人ヲ禁錮スルノ言渡(犯人罰金ヲ納メ及ヒ損失ノ償ヲ爲ササルトキ之ヲ禁錮スル言渡ヲ爲ス)ヲ爲スヘシ